NTT-ME

MN128 mini

取扱説明書

ISDN

⚠注意

●本マニュアルについて

・本マニュアルの内容の一部または全てを無断で転載することは禁止されています。
・本マニュアルの内容は将来予告なしに変更することがあります。
・本文中のNTTは、NTT東日本またはNTT西日本を指します。
・本文中のWindows98は、Windows98とWindows98 Second Editionを指します。
・本マニュアルの著作権はすべて株式会社エヌ・ティ・ティ エムイーに帰属します。

●本装置について

・本装置の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失につきましては、当社は一切の責任負いかねますので予めご了承ください。
・本装置は日本国内の仕様であり、外国での使用はできません。また、外国での保守サービスなども行っておりません。
・Windows98 Second Editionのインターネット接続共有サービスを利用した場合の自動接続／切断に関する料金トラブルについては、当社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

●商標について

・Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
・Macintosh、iMacは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
・RVS-COMはドイツRVS社の登録商標です。
・その他の商品名などは各社の商標、登録商標です。

●設置場所について

・水のかかる場所や湿度が高い所で使用したり、設置しないでください。漏電や故障などの原因となります。
・直射日光があたるところや、その他の電気機器と重ねてのご使用はさけてください。温度が上がり火災や故障の原因となります。
・ほこりの多い所には設置しないでください。故障などの原因となります。
・通気孔をふさぐような設置はしないでください。熱がこもり火災や故障の原因となります。
・本製品同士、またはモデムなどを重ねて設置しないでください。筐体が変形したり、火災や故障の原因となります。
・衝撃や振動が加わるような場所での使用や設置はさけてください。
・本装置のそばにコードレス電話機や、テレビなどの電子機器を設置すると、雑音やノイズが発生したり、正常に動作しないことがあります。

⚠警告　安全にお使いいただくために

●電源について

・商用電源（家庭用AC100V）以外では使用しないでください。
・電源プラグは確実にさしこんでください。感電などの原因となります。
・ぬれた手で電源プラグの抜き差しは絶対にしないでください。感電などの原因となります。
・電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。感電や故障の原因となります。
・たこあし配線のコンセントに本装置の電源プラグを差し込まないでください。火災や故障の原因となります。
・付属のAC電源アダプタ以外は絶対に使用しないでください。火災や故障の原因となります。
・万一煙りがでている、へんな臭いがするなど異常な場合はすぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをぬいて当社の技術サポートセンターまでご連絡ください。そのままご使用すると火災や故障の原因となります。
・必ずアース線を接続してご使用ください。アース線を接続しないと感電などの原因となります。
・アース線の取り付け、取り外しの際は必ず本体の電源を切り、電源プラグを抜いた状態で行ってください。電源を入れたままで行うと感電などの原因となります。
・雷が近くで発生した場合は、必ず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをぬいてご使用を控えてください。場合によっては感電や故障のおそれがあります。
・雷がなっている最中に電源プラグをさしこんだり、機器の接続をしたりしないでください。感電などの原因となります。

※電子機器などを雷の被害から守る市販の機器がパソコンショップなどで販売しています。詳しくはパソコンショップなどへお問い合わせください。

●その他

・本装置を落としたなどして破損した場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグを抜いて当社の技術サポートセンターまでご連絡ください。そのままご使用すると感電や故障の原因となります。
・本装置を水につけた、または水をかけて内部に入ってしまったときは本体の電源を切り、電源プラグを抜いて当社の技術サポートセンターまでご連絡ください。そのままご使用すると感電や故障の原因となります。
・本装置の上に花瓶、植木鉢、コップ、薬品の入った容器、化粧品などは置かないでください。こぼれた時に火災や故障の原因となります。
・本装置を分解、改造はしないでください。火災、感電や故障の原因となります。

もくじ

はじめに

接続してみよう

電話やFAXを使ってみよう

アナログポートの設定

■アナログポートの設定例　■使い方

■アナログポートの設定リファレンス　「電話機で設定／ATコマンドで設定」

インターネットに接続しよう

困ったときは　-　Q&A　-

資料

はじめに

添付品の確認や本装置の特徴などについて解説します。

■添付品を確認しよう

MN128mini-V本体	1台
縦置き台	1個
ACアダプタ 【黒色】	1個
CD-ROM	1枚
Windows用 簡単設定ユーティリティ、infファイル、USBドライバ Macintosh用 簡単設定ユーティリティ、CCLファイル、USBドライバ	
ISDN U点ケーブル(3m) 【水色】	1本
USBケーブル (1.8m) 【白色】	1本
専用シリアルケーブルセット 【濃青色】	
D-Sub9ピン専用ケーブル(クロス)	1本
Mac(Mini-DIN8ピン)用変換ケーブル(ストレート)	1本
簡単設定ガイド	
− インターネット接続編 −	1部
− アナログポート設定編 −	1部
取扱説明書(本書)	1冊
保証書	1部

＜別売品＞

MN128シリーズ専用バックアップ電池ボックス　標準価格　3,500円(税別)
- 連続通話:約120分 (アナログ、S/Tの各1ポート使用の場合)
- 待ち受け時間:約240分 (すべてのポートを利用しない場合)
- 使用電池:単三アルカリ乾電池10本

D-Sub25ピン変換アダプタ　標準価格　800円(税別)

PC98シリーズなどシリアルポートにD-Sub25ピンを使用している機種の場合に、付属の専用シリアルケーブルとつなぎ合わせて利用します。

※その他予告なしに補足説明書、チラシなどを同梱することがあります。

■NTTへの届け出

本装置をご利用になる時は、NTTのINSネット64を申し込む必要があります。
NTTに備え付けの申込票に記入の上お申し込みください。
申込票の記入に際し下記の必要事項を参照してください。

●接続する通信機器

・通信機器の名称　：MN128mini-V

・メーカ名　：NTT-ME

・認定番号　：MN128mini-V底面の認定番号参照

・お客様工事の場合　：DSUの折り返し機能有り

●コンサルティング項目

・インタフェース形態およびレイヤ1起動種別
：「P-MP呼毎」または「P-MP常時」

・発信者番号通知サービス　：通話ごと非通知（呼毎通知許可）（※1）

・ユーザ間情報通知サービス　：着信許可　（※2）

・通信中着信通知サービス　：許可　（※2）

※1　相手に番号を通知したくない時は「回線ごと非通知（呼毎通知拒否）」または「常時非通知（常時通知拒否）」を選択してください。詳しくはNTTまでお問い合わせください。
※2　MN128mini-Vの機能を便利に使うためにお勧めします。

⚠注意

※一般電話回線（アナログ回線）からINSネット64に切り替える時、銀行振り込み、キャッチホン、テレジョーズなど一般電話回線時に契約していたものはすべて再契約が必要となります。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

「市外電話会社専用アダプタ」、「ガス会社検針用機器」、「警備会社の通報機器」などが接続されていたアナログ回線をそのままINSネット64回線に切り替えた場合、以下のような現象が確認されています。

・通話が途中で切れてしまう。
・本体の電源を入れた時にB1、B2ランプが点滅し、電話の発信着信が不能になる。
・発信はできるが着信できない。発信者には"通信ができません…"などのメッセージ、または話中の音が聞こえます。
・着信はできるが発信はできない。発信者には"通信ができません…"などのメッセージ、または話中の音が聞こえます。
・着信時に電話機が鳴動して、受話器を上げると切れてしまう。
・発信時に相手先を呼び出して、相手が応答すると切れてしまう。
・通信中に相手先から"一時的障害で切断された…"とメッセージが聞こえ切れてしまう。

●INSネット64回線に切り替える時は、上記アダプタなどはすべて取り外してください。尚、アダプタの取り外し工事などについては、上記アダプタなどを取り付けた工事会社、または該当するアダプタに記載されている連絡先にご相談ください。

■特徴

●MN128mini-Vとは

MN128mini-VはINSネット64を使って、従来のアナログ通信機器を接続してアナログ通信、コンピュータ機器を接続してディジタルデータ通信を行うことが可能なDSU内蔵タイプのTA(ターミナルアダプタ)です。

DSU内蔵(切離し可) → P20、21、25

内蔵しているDSUをスイッチで切離しできます。

USBポート → P20、21、122～123、144

USBポートを搭載し、パソコンとの高速通信が可能です。Windows98、MacOS8.6J／8.5J用USBドライバを付属しているので、MacintoshのUSBポートからもISDNで快適にインターネットを利用できます。

ボイス機能 → P20～22、31、32、75、109～113

ミニジャック形状(φ3.5)のアンプ内蔵ステレオスピーカ(別売)を接続し、アナログ着信したときに、相手先電話番号や、事前に登録してある相手先名称を音声で知らせたり、インターネットなどのデータ通信時に、接続したときの状況や、正常に接続できなかったときの切断理由を音声で知らせることができます。
また、電話機から設定したときに、受話器からボイス機能で設定確認ができます。
※接続可能なスピーカはアンプ内蔵ステレオスピーカですが、音声はモノラル出力になります。

そくピタ！カラー配線 → P20、21

「そくピタ！カラー配線」を採用し、色を合わせてケーブルを接続するだけで簡単にハードウェアのセットアップができます。

RVS-COM対応 → P44、45、87、88、106、107

ドイツRVS社のコミュニケーションソフト「RVS-COM」に対応しています。RVS-COMを利用して、MN128mini-Vに接続したパソコンから直接FAXの送受信などが可能です。
※RVS-COM 2000のG4ファックス送受信機能、RVS ISDN-DCP機能を用いたイーサネット上のパソコンからのFAXの送受信機能などは利用できません。

リセットスイッチ → P23、49

リセットスイッチで簡単に初期化できます。

電話機からアナログポートの設定／設定確認が可能 → P51～55

本装置のアナログポートに接続したアナログ電話機(PB信号)からアナログポートの設定や設定確認が可能です。

---

i・ナンバー対応 → P27、45～49、73、108

NTTとi・ナンバー契約をすることにより、工場出荷時の状態でアナログポートごとに2つの電話番号を鳴り分けることができるので、電話とFAXの着信を番号毎に区別するなど便利な使い方ができます。

INSナンバー・ディスプレイ対応 → P38、81、90

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ電話機またはアダプタを本装置のアナログポート【緑色】に接続して相手先の電話番号を表示することができます。

疑似ナンバー・リクエスト → P38、84、103

本装置独自の機能で、相手から発信者番号を通知してこない場合に、着信拒否したり、予め呼び出し音を指定することができます。
※「番号を通知しておかけ直しください」などのメッセージは流れません。

INSマジックボックス対応、INSボイスワープ対応 → P39、85、101

本装置はスティミュラスプロトコルに対応していますので、INSマジックボックスやINSボイスワープのカスタマコントロール機能を利用できます。

フレックスホン対応 → P33～36、77～80、96、98、99

NTTのフレックスホン（キャッチホン（コールウェイテング）、三者通話、着信転送、通信中転送）を利用できます。

擬似なりわけサービス（発信電話番号識別機能） → P43、83、102、103

相手先の電話番号を本装置に事前に登録し、登録されている相手から着信があったときに呼び出し音を変えたり、着信拒否をすることができます。

擬似キャッチホン → P39、76、97

NTTのフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）機能と同様の機能です。片方のBチャネルを使用して通話中に話中着信したとき、通話を切り替えることができます。
※相手先には保留音は流れません。

音量調節 → P105

アナログポートの音量を設定で調節できます。

同期64k、128kMP通信 → P115～

同期64kbps、128kbpsMP通信に対応しています。

アナログ優先モード（リソースBOD） → P43、84、102、179
128kbpsMP通信中でも、電話やFAXなどのアナログ通信を優先することができます。

スループットBOD機能 → P152～153、177、178、181
128kbpsMP通信を行っているとき、データ量に応じて自動的に使用するBチャネルを追加／削除できます。

非同期/同期PPP自動変換
パソコンからの非同期PPPデータと回線側のHDLCフォーマットデータを自動的に変換します。

ファームウェアバージョンアップ
FlashROMを使用していますので、本装置に接続したパソコンからバージョンアップを行うことができます。

●INSネット64とは

ISDN（Integrated Services Digital Network）ディジタル通信の国際標準規格で、NTTのISDNサービスの商品名が「INSネット64」または、「INSネット64・ライト」です。

2つのBチャネル
NTTのINSネット64は、1回線で2つの通信チャネル（以下 Bチャネル）がありますので、電話とFAX、または電話とディジタルデータ通信（64kbpsまで）、またはディジタルデータ通信（128kbps）といろいろな使い方ができます。

2つのアナログ機器が同時に利用できる → P27～28
電話機とFAXとパソコンの計3台の機器を接続していても同時に通信できるのはあくまでも最大2台までです。

●動作確認 OS

USBポート:　Windows98、MacOS8.6、MacOS8.5（MacOS ROM J1-1.2.1）
RS-232Cポート:　Windows98、Windows95、WindowsNT4.0
MacOS8.6、MacOS8.5、MacOS8.1、MacOS8.0、MacOS7.6、漢字Talk7.5

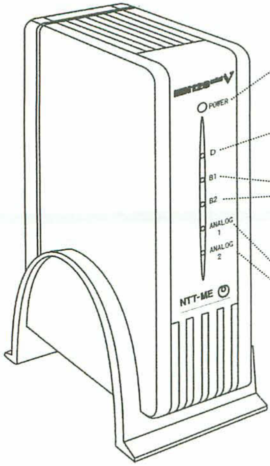
※動作確認OSは日本語版のものに限ります。
※iMacのUSBポートから通信する場合、MacOS8.5／8.5.1でMacOS ROM J1-1.2.1 以外のときは、下記からiMac Firmwareアップデート1.0とiMacアップデート1.1を実行してください。
http://www.apple.co.jp/imac/index.html

接続してみよう

本章では本装置の各部の名称や役割など
お使いになる前の準備について解説します。

■各部の名称と役割

MN128mini-V本体（前面）



Powerランプ

電源スイッチを「ON」にすると点灯します。

Dチャネルランプ

コマンド入力時に点滅します。

B1/2チャネルランプ

Bチャネル（通信チャネル）を使用すると点灯し、データ転送中は点滅します。ISDNでは通信チャネルが2つありますので、2つとも使用した時はB1/2チャネルランプが2つとも点灯します。

ANALOG1/2ランプ

ANALOG1または2にアナログ機器を接続している場合、そのアナログ機器が通信中の時に点灯します。
アナログ機器がオフフック、または呼び出し音が鳴っている時および呼び出している時に点滅します。

MEMO

電源を入れたとき、「B1」「B2」ランプが点滅するときはISDN回線が正常に認識できていません。

○ISDNケーブルの接続とDSUスイッチを確認する。

＜内蔵DSUを利用するとき＞
・ISDN回線のモジュラージャックと本装置のISDN Uポート【水色】を付属のISDN Uケーブルで接続します。
・DSUスイッチ【茶色】をONにします。
＜外付けDSUを利用するとき＞
・DSUのTERMINAL端子と本装置のISDN S/Tポート【赤紫色】をISDNケーブルで接続します。
・DSUスイッチ【茶色】をOFFにします。

○「REV/NOR」スイッチ【黄緑】で極性反転する。

ISDNケーブル接続とDSUスイッチを確認し、電源を入れ直してもまだ「B1」「B2」ランプが点滅するとき、
・「REV/NOR」スイッチ【黄緑】で極性を反転させてから電源を入れ直してください。

MN128mini-V本体（背面） そくピタ！カラー配線

ISDN U 【水色】 モジュラージャックと付属のU点ケーブル【水色】で接続します。

FG 【ｵﾚﾝｼﾞ色】 アース線を接続します。

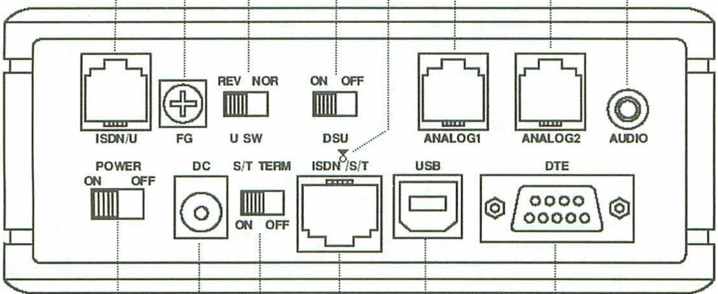
REV/NOR 【黄緑色】 U点の極性を反転させることができます。

DSU ON/OFF 【茶色】 DSUの切離しができます。

Reset 【▼】 設定の初期化ができます。

ANALOG1/2 【緑色】 アナログ通信機器を接続します。

AUDIO 【灰色】 アンプ内蔵スレテオスピーカ（別売）を接続し、ボイス機能を利用できます。



DTE 【濃青色】 付属の専用シリアルケーブル（D-Sub9ピン）を接続するポートです。

USB 【白色】 付属のUSBケーブルを接続するポートです。

ISDN S/T 【赤紫色】 内蔵DSUを利用するとき、その他のISDN機器を接続します。
外付けDSUを利用するとき、DSUとISDNケーブルで接続します。

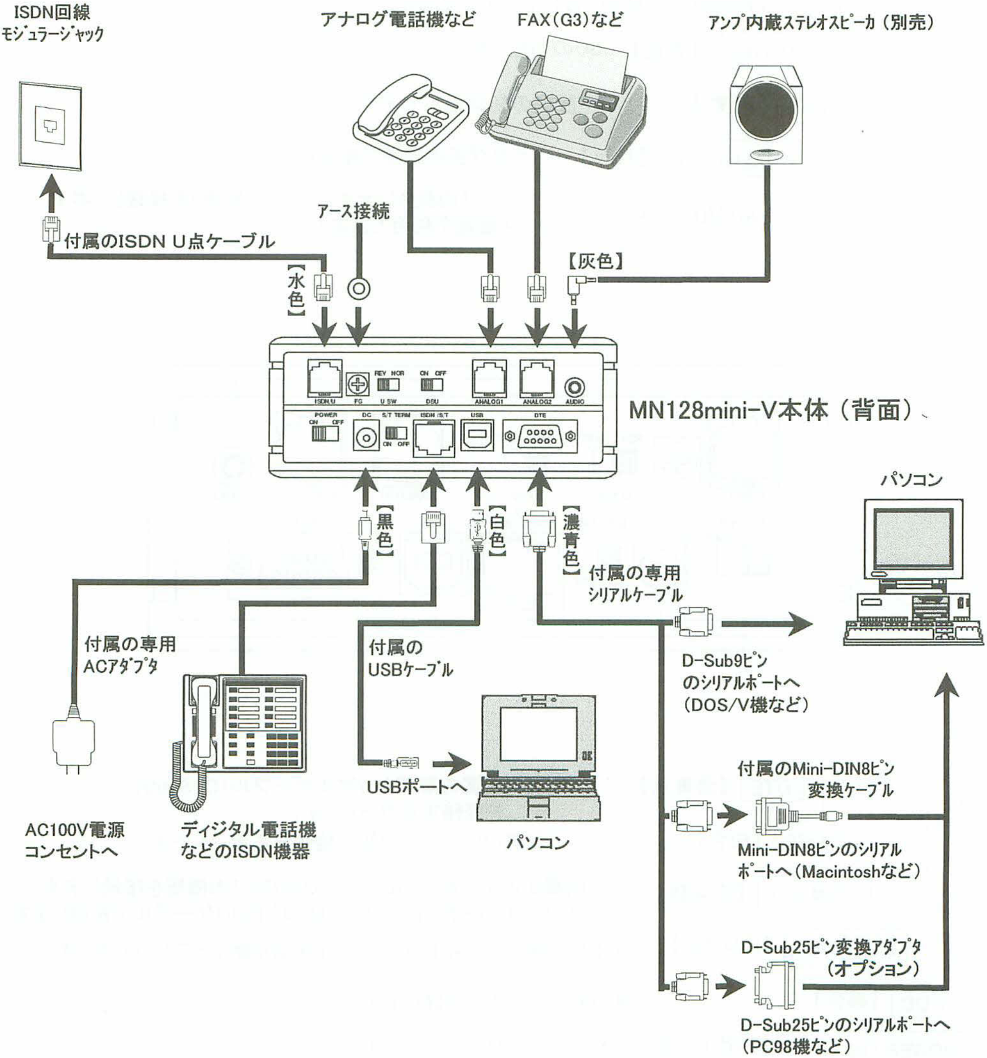
S/T TERM 【ピンク色】 ISDN回線の終端抵抗のON/OFFを切り替えることができます。

DC 【黒色】 付属のACアダプタを接続します。

POWER ON/OFF 【赤色】 電源を入れるときは「ON」にします。

■ハードウェアセットアップ

●ハードウェア接続構成例

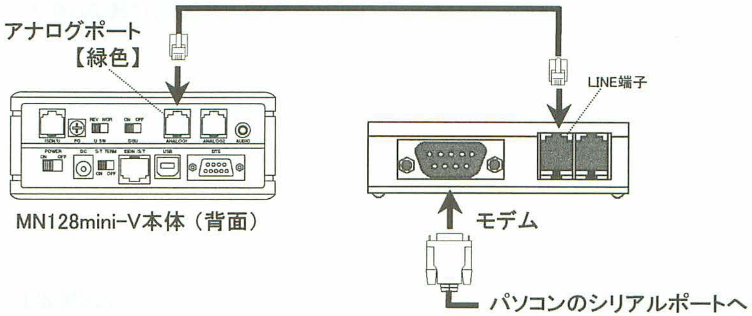


アナログポート【緑色】 について

・一般電話回線（アナログ回線）用のアナログ機器（アナログ電話機、FAX（G3）、モデムなど）が接続できます。

●モデム接続するには

MN128mini-Vのアナログポート【緑色】とモデムの回線（LINE）端子とを電話線で接続します。



⚠注意

※接続できるアナログ機器はプッシュボタン（PB）信号のでる電話機しか使用できません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。
※1つのアナログポートに複数のアナログ機器を接続する（ブランチ接続）場合の動作保証はできません。

AUDIO端子【灰色】 について

・アンプ内蔵ステレオスピーカ（別売）を接続し、ボイス機能を利用できます。

MEMO

※市販のミニジャック（φ3.5）形状のアンプ内蔵ステレオスピーカで利用できます。
※出力される音声はモノラルになります。
※モノラルスピーカは接続できません。

DC端子【黒色】 について

・付属の専用ACアダプタ【黒色】と色をあわせてつなぎ、電源コンセントに接続します。
・ACアダプタを電源コンセントに差込む場合、必ず本装置の電源スイッチは「OFF」にしておいてください。
・停電時には、アナログ電話機を含めMN128mini-Vに接続したすべての通信機器が利用できません。
バックアップ電池ボックス（オプション）を利用すると、MN128mini-Vに接続したすべての通信機器を利用できます。

⚠警告

※付属のAC電源アダプタ以外は絶対に使用しないでください。火災や故障の原因となります。

ISDN Uポート【水色】、ISDN S/Tポート【赤紫色】 について

●ISDN Uポート【水色】
＜内蔵DSUを利用するとき＞
・内蔵DSUを利用するときは、ISDN回線のモジュラージャックとISDN Uポート【水色】を付属のU点ケーブルで接続してください。
・DSUスイッチ【茶色】をONにしてください。
＜外付けDSUを利用するとき＞
・外付けDSUを利用するときは、ISDN Uポート【水色】には何も接続しないでください。
・DSUスイッチ【茶色】をOFFにしてください。

●ISDN S/Tポート
＜内蔵DSUを利用するとき＞
・ディジタル電話機、G4-FAX、TAなどその他のISDN機器を接続できます。
・DSUスイッチ【茶色】をONにしてください。
・その他のISDN機器を接続するときは「TERM」スイッチ【ピンク色】をOFFにし、接続したISDN機器または配線上で終端抵抗を入れてください。ISDN S/Tポート【赤紫色】に何も接続しないときは「TERM」スイッチ【ピンク色】をONにしてください。
・その他のISDN機器を接続するときは、ISDN S/Tポート【赤紫色】に接続したISDN機器にサブアドレスを設定し、着信を識別することをお勧めします。サブアドレスが設定できないISDN機器を接続しているときに、着信時に本装置が受信してしまう場合、本装置のDTEポート【濃青色】を着信拒否（AT%B0）の設定にしてください。
＜外付けDSUを利用するとき＞ →
・ISDNケーブルでDSUの「TERMINAL」端子と本装置のISDN S/Tポート【赤紫色】を接続します。
・DSUスイッチ【茶色】をOFFにしてください。



リセットスイッチ について

・ISDN S/Tポート【赤紫色】の上にあるリセットスイッチ（▼ マークの下の小さい穴）で工場出荷時の状態に初期化できます。

●初期化方法

1. 本装置の電源が入り、正常に立ち上がっている状態で、リセットスイッチ（▼ マークの下の小さい穴）にクリップをのばしてさし込み、10秒以上押し続けます。
2. 本装置前面のLEDランプがすべて点滅したらクリップを離します。
3. Powerランプだけ点灯する状態になったら、本装置の電源スイッチ【赤色】をOFFにして、5秒くらいしてからONにしてください。

USBポート【白色】について

・付属のUSBケーブル【白色】と色をあわせてつなぎ、パソコンのUSBポートに接続します。

⚠注意

※DTEポート【濃青色】に接続したパソコンと同時に通信はできません。
※パソコン本体のUSBポートと接続してください。USBハブなどを介して接続した場合、正常に動作しないことがあります。
※本装置のUSBポート【白色】に接続して通信できるOSはWindows98とMacOS8.5J以降です。
※iMacのUSBポートから通信する場合、MacOS8.5／8.5.1でMacOS ROM J1-1.2.1 以外のときは、下記からiMac FirmwareアップデートI.0とiMacアップデート1.1を実行してください。
http://www.apple.co.jp/imac/index.html

DTEポート【濃青色】について

・D-SUB9 ピン専用シリアルケーブルのネジは、インチネジ形状です。
・D-SUB25 ピン変換コネクタ（オプション）のネジは、ミリネジ形状です。

⚠注意

※必ず専用シリアルケーブルを使用してください。市販のシリアルケーブルを使用した場合は正常に動作しない可能性があります。
※ノートパソコンなど一部のパソコンでは、付属の専用シリアルケーブルと変換ケーブルでは形状が合わない場合があります。この場合、お持ちのパソコンのシリアルポートに合った形状の市販の変換ケーブル（ストレート）をご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルと接続して使用する必要がありますが、動作の保証は致しかねます。
※パソコンとMN128mini-V間を延長したいとき、お持ちのパソコンのシリアルポートに合った形状の市販の変換ケーブル（ストレート）をご用意いただき、添付の専用シリアルケーブルと接続して使用する必要がありますが、動作の保証は致しかねます。
※USBポート【白色】に接続したパソコンと同時に通信はできません。

FG端子【オレンジ色】について

・アース線は添付しておりません。別途ご用意ください。

⚠警告

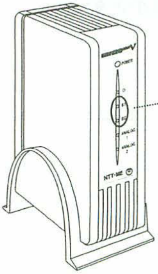
※必ずアース線を接続してご使用ください。アース線を接続しないと感電などの原因となります。
※アース線の取り付け、取り外しのときは必ず本装置の電源を切り、電源プラグを抜いた状態で行ってください。電源を入れたままで行うと感電などの原因となります。
※アース線を接続しないと雷発生時に本装置故障の原因となります。

■ 電源を入れてみよう

ACアダプタの接続などを確認し、コンセントを差し込み、ISDN回線と接続してから本装置の電源スイッチをONにします。次に本装置のランプ表示を確認してください。

①「Power」ランプのみ点灯したままで、「ANALOG2」 から「D」まで、赤いランプが順番に点灯。
②「Power」の緑のランプのみが点灯。

ランプ表示が上記以外の状態になる場合は以下の項目を確認してください。



状況	対策
B1とB2のランプが点滅する。	<内蔵DSUを利用するとき> ・ISDN回線のモジュラージャックと本装置のISDN Uポート【水色】を付属のISDN Uケーブルで接続します。 ・DSUスイッチ【茶色】をONにします。 ・電源を入れ直しください。 ↓それでも点滅するときは 「REV/NOR」スイッチ【黄緑色】を切り替えてから電源を入れ直しください。 ↓それでも点滅するときは <外付けDSUを利用するとき> ・DSUのTERMINAL端子と本装置のISDN S/Tポート【赤紫色】をISDNケーブルで接続します。 ・DSUスイッチ【茶色】をOFFにします。 ・電源を入れ直しください。 ↓それでも点滅するときは ISDN回線が正常に開通していない可能性があります。NTTにお問い合わせください。
ランプが点灯しない。 正常にランプが点灯・点滅しない。	本装置もしくはACアダプタの故障の可能性があります。技術サポートセンターまでご連絡ください。

MEMO

※ISDN回線を接続していない時に電源を入れてB1、B2ランプが点滅するのは正常動作です。
※ISDN回線（INSネット64）に切り替えてから本装置を接続してください。アナログ回線に本装置を接続しても動作しませんのでご注意ください。
※内蔵DSUを利用するときは、ISDN回線のモジュラージャックと本装置のISDN U点【水色】ポートを付属のISDN Uケーブルで接続、外付けDSUを利用するときは、DSUのTERMINAL端子と本装置のISDN S/Tポート【赤紫色】をISDNケーブルで接続してから本装置の電源を入れてください。

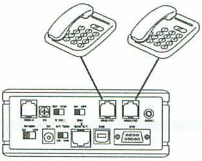
電話やFAXを使ってみよう

本章ではアナログ電話機で電話をかけたり、受けたり、アナログ通信機器の基本的な使い方について解説します。

■電話やFAXを使う前に

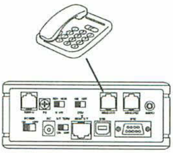
初期設定の状態で電話の発信・着信が可能ですが、接続する台数やNTTとの契約内容によって設定が必要になる場合があります。

●電話機を2台接続する



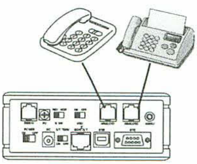
＜i・ナンバーを契約しているとき＞
初期設定の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色-実線】、追加番号は「ANALOG2」【緑色-点線】に着信します。
＜i・ナンバー未契約のとき＞
初期設定の状態では、着信があると「ANALOG1」【緑色-実線】と「ANALOG2」【緑色-点線】を同時に呼び出します。
＜ダイヤルイン契約をしているとき＞
初期設定の状態では、着信があると「ANALOG1」【緑色-実線】と「ANALOG2」【緑色-点線】を同時に呼び出します。ダイヤルインを利用する場合は設定が必要です。P71～74を参照してください。

●電話機を1台だけ接続する



着信するアナログポートを指定する設定が必要です。
着信ポートの設定例(P71～74)を参照してください。
＜初期設定の状態では＞
着信があると、「ANALOG1」【緑色-実線】と「ANALOG2」【緑色-点線】を同時に呼び出します。したがって、電話中に他の着信があると、電話機が接続していないアナログポートを呼び出してしまうので、電話をかけた相手先には呼出音が鳴り続けてしまいます。

●電話機とFAXを接続する



i・ナンバー、もしくはダイヤルイン契約をお勧めします。
FAXを接続するアナログポートに機器種別の設定が必要です。
機器種別の設定の設定についてはP90を参照してください。
＜i・ナンバーを契約しているとき＞
初期設定の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色-実線】、追加番号は「ANALOG2」【緑色-点線】に着信します。
＜ダイヤルイン契約をしているとき＞
初期設定の状態では、着信があると「ANALOG1」【緑色-実線】と「ANALOG2」【緑色-点線】を同時に呼び出します。したがって、電話の着信であっても、FAXが自動着信であれば着信してしまいます。
ダイヤルインを利用する場合は設定が必要です。P71～74を参照してください。

◎i・ナンバー、またはダイヤルインで電話とFAXの着信を使い分ける
i・ナンバー、またはダイヤルインを契約すると、契約者回線番号の他にもう1つ電話番号(追加番号)がもらえます。契約者回線番号を電話の着信用に、追加番号をFAX着信用になど使い分けることができます。

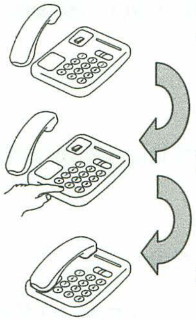
MEMO

※i・ナンバー、またはダイヤルインはNTTとの契約が必要となります。
※ビジネスホンやホームテレホンは正常に動作しないことがあります。

■電話やFAXを使う

●電話をかける

本装置のアナログポート【緑色】「ANALOG1」または「ANALOG2」に電話機を接続するか、「ISDN S/T」ポート【赤紫色】にディジタル電話機など通信可能な機器を接続してあるかを確認してください。

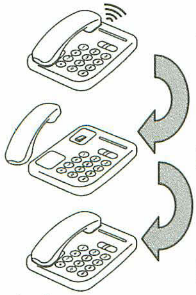


1. 受話器をとり発信音を確認してください。
2. 相手先の電話番号をダイヤルします。
3. 電話が終わったら受話器を戻します。

MEMO

※電話番号を押した後にすぐに発信するにはダイヤルの最後に「＃」を押してください。
※「＃」を押さない時は「41／AT@G」(P92)の設定値(初期値5秒)後に発信します。
※サブアドレス付きで発信するときは電話番号の後に「＊」、「サブアドレス」の順にダイヤルしてください。
※ダイヤルしても「ツー」という発信音が消えない時は電話機がプッシュボタン(PB)信号の設定になっていないことがあるので、電話機の取扱説明書を参照して確認してください。

●電話を受ける



1. 電話機の呼び出し音が鳴る。
2. 受話器をとって通話してください。
3. 電話が終わったら受話器を戻します。

注意

発信ができる電話機はプッシュボタン(PB)信号のでるものに限ります。電話機のスイッチなどで切り替えが必要な場合があります。詳しくは電話機の取扱説明書をご覧ください。

●FAXを送る、受ける

本装置のアナログポート【緑色】「ANALOG1」または「ANALOG2」にFAX(G3)を接続するか、「ISDN S/T」ポート【赤紫色】にG4-FAXを接続してあるかを確認してください。



1. FAXを接続するアナログポートの接続機器種別をFAXに設定してください。(MEMO／※1)

2. FAXの送り方、受け方はFAXの取扱説明書をご覧ください。(MEMO／※2)

MEMO

※1
・「ISDN S/T」ポート【赤紫色】にG4-FAXを接続した時は、上記の手順「1.」の設定は必要ありません。
・「32／AT@E」(P90) にしたがって設定してください。
・手順1は最初に設定すれば、2回目以降は設定の必要はありません。

※2
・電話番号を押した後にすぐに発信するにはダイヤルの最後に「#」を押してください。
・「#」を押さない時は「41／AT@G」(P92)の設定値(初期値5秒)後に発信します。
・サブアドレス付きで発信するときは電話番号の後に「*」、「サブアドレス」の順にダイヤルしてください。
・ダイヤルしても「ツー」という発信音が消えない時はFAXがプッシュボタン(PB)信号の設定になっていないことがあるので、FAXの取扱説明書を参照して確認してください。

注意

※アナログポート【緑色】に接続できるFAXはG3-FAXに限ります。G4-FAXは「ISDN S/T」【赤紫色】ポートに接続してください。
※発信ができるG3-FAXはプッシュボタン(PB)信号のでるものに限ります。G3-FAXのスイッチなどで切り替えが必要な場合があります。詳しくはG3-FAXの取扱説明書をご覧ください。

●モデムを使う

・モデムはアナログ機器です。したがって、本装置のアナログポート【緑色】に接続し、モデムとパソコンを接続することが必要となります。
・モデムを接続するアナログポートに接続機器の設定が必要です。
「32／AT@E」(P90)にしたがって設定してください。

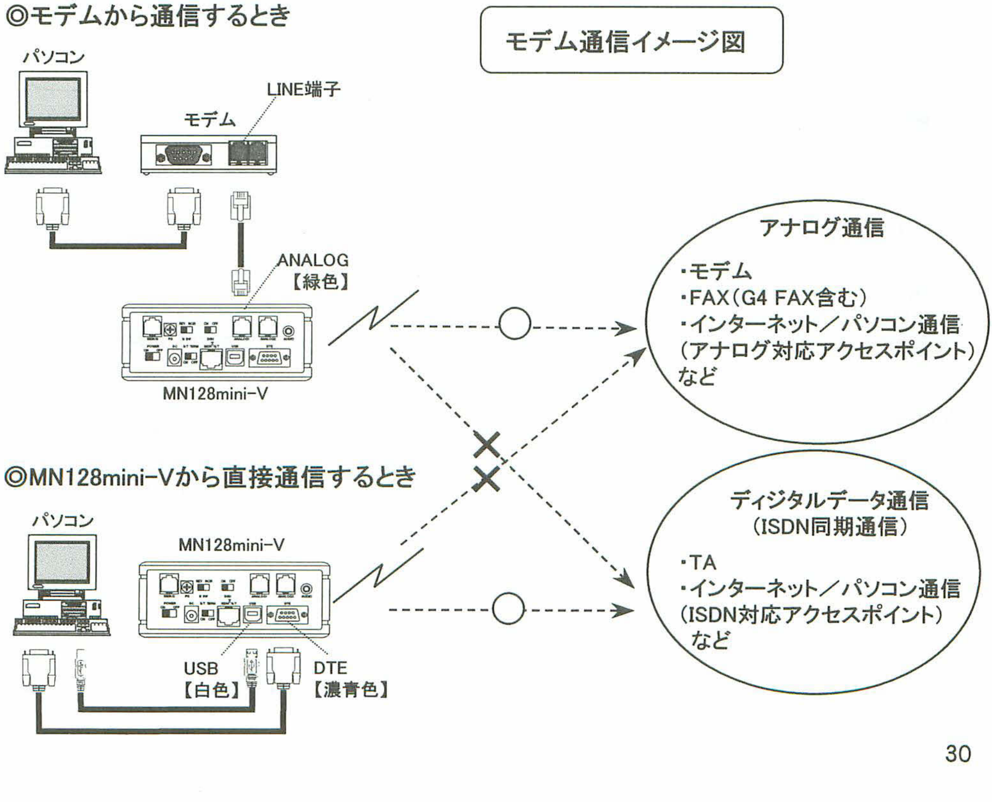
◎初期設定の状態では…

接続する機器種別の設定が「電話」になっています。モデムを接続するアナログポートに機器種別の設定(P90)が必要です。

⚠注意

※接続先がアナログ回線対応の通信機器(モデム・FAX(G4 FAX含む)など)の時は、本装置のアナログポートにモデムを接続して、モデムから発信しないと接続できません。本装置から直接FAX送信などはできません。下図を参照してください。
※RVS-COMを利用する場合は、本装置から直接FAXの送受信が可能です。P44、87、88を参照してください。

◎モデムから通信するとき



■便利な使い方

●ボイス機能を利用する

ボイス機能は「AUDIO」端子【灰色】に接続したアンプ内蔵ステレオスピーカ（別売）から声で色々な情報を知らせることができます。

○電話着信情報機能

○電話帳に事前に登録した相手先から電話がかかってきたとき、相手先名称を声で知らせます。



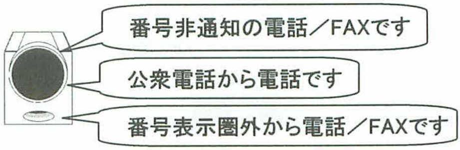
○電話帳に登録していない相手先から電話（FAX）がかかってきたとき、相手先電話番号を声で知らせます。



○FAXから着信したとき、FAX着信であることを知らせます。



○番号非通知の相手先から電話（FAX）がかかってきたとき非通知理由を声で知らせます。



注意　次の場合にはメッセージを音声で知らせることができません。

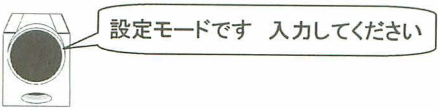
※擬似キャッチホンやフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）で話中着信したとき。
※通信チャネルを2つ使用しているとき。
※アナログ優先モード（リソースBOD）で通信したとき。
※電話やFAXなど2つの着信が同時にあった場合には、先に着信があった相手先の名称だけをお知らせします。

MEMO

※アンプ内蔵ステレオスピーカは添付しておりません。一般的なミニジャック形状（φ3.5）のものをお使いになるか、市販のアンプ内蔵ステレオスピーカをお求めください。モノラルスピーカは接続できません。
※音声はモノラル出力になります。
※相手先名称で知らせるには事前に電話帳登録が必要です。登録方法はP75の設定例を参照してください。
※RVS-COMを利用してFAX着信した場合も同様のメッセージで知らせます。
※アナログポートの設定を書きこむときに音声が途切れることがあります。
※アナログ優先モード（リソースBOD）で利用したアナログ機器の通信料金は、データ通信料金を一括して知らせします。
※アナログ回線からの着信時や、番号非通知理由を声でお知らせするにはNTTとINSナンバー・ディスプレイ契約が必要です。

〇アナログポートの設定・確認情報

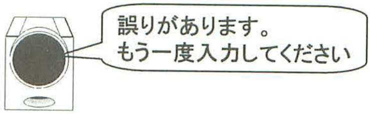
〇設定の開始を声で知らせます。



〇設定したことを声で知らせます。



〇設定できなかったときに声で知らせます。



MEMO

※アナログポートの設定を書きこむときに音声が途切れることがあります。
※アンプ内蔵ステレオスピーカは添付しておりません。一般的なミニジャック形状（φ3.5）のアンプ内蔵ステレオスピーカをご利用ください。また、モノラルスピーカは接続できません。

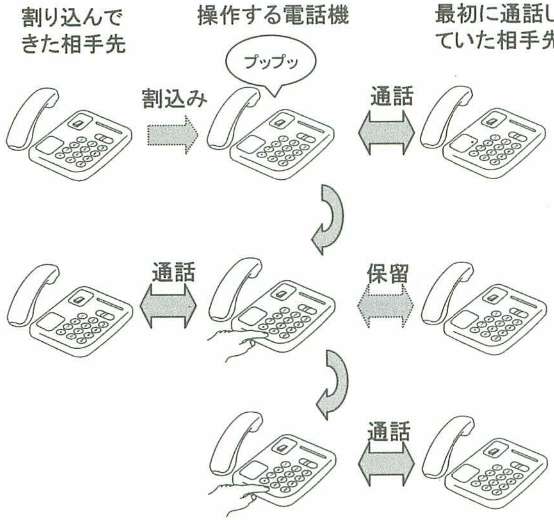
◎フレックスホンを利用する

フレックスホンとはNTTのINSネット64の付加サービスで、「キャッチホン(コールウェイティング)」「三者通話」「着信転送」「通信中転送」の4つのメニューがあります。利用するにはそれぞれNTTとの契約が必要です。本装置は4つのメニュー全てに対応しています。

○キャッチホン(コールウェイティング)

一般電話回線(アナログ回線)のキャッチホンと同等のサービスで、通話中に着信があったとき、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などのボタンを押すことにより通話を切り替えることができます。

使い方は以下の通りです。



1. 通話中に話中着信音が聞こえます。

2. 電話機の [フック] ボタンを押します。

通話中だった相手を保留し、話中着信の相手との通話に切り替わります。

3. もう一度電話機の [フック] ボタンを押すと元の相手との通話に戻ります。

MEMO

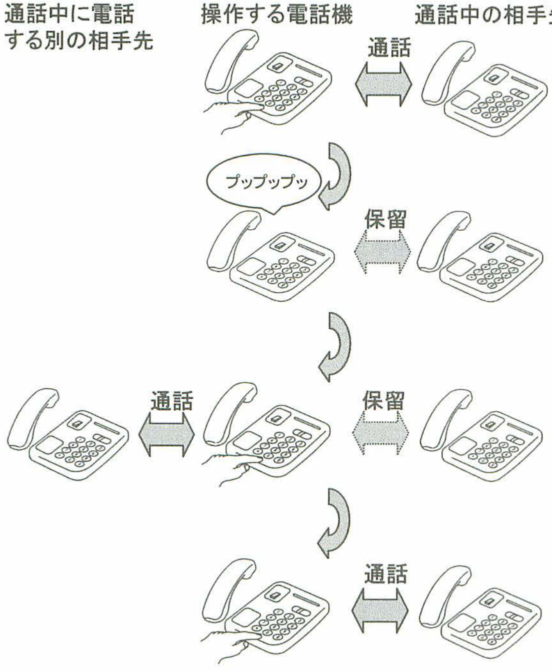
※設定方法はP77の設定例を参照してください。
※NTTとのINSネット64の契約内容で「通信中着信通知サービス」が許可、「ユーザ間情報通知サービス」を着信許可にする必要があります。
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※本装置の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、キャッチホンは利用できません。
※NTTとキャッチホン契約をしていて、キャッチホンを利用する設定にしている時の割り込み着信中は、内線通話/転送は利用できません。
※フレックスホンはNTTとの契約が必要です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

○三者通話

通話中の相手を保留して、別の相手に電話ができたり、三者で通話ができます。

使い方は以下の2通りが利用できます。

・通話中に別の相手に電話をかける



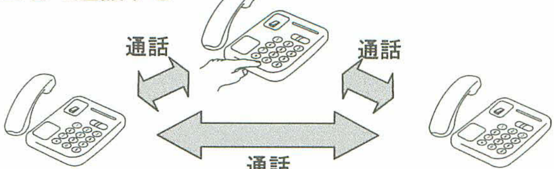
1. 通話中に フック ボタンを押します。

2. 第2ダイヤルトーン（プッ・プッ・プッ）が聞こえ、通話していた相手を保留します。

3. 別の相手先の電話番号をダイヤルし、通話します。

4. もう一度電話機の フック ボタンを押すと、第2ダイヤルトーンが聞こえ数秒後に元の相手との通話に戻ります。

・三者で通話する



5. 1～3は上記同様の手順4で フック ボタンを押し、第2ダイヤルトーンが聞こえているときにもう一度「フック」ボタンを押すと、三者で通話ができます。

6. 受話器をおくと通話していた相手2人同時に切断します。

MEMO

※本装置の設定方法はP78の設定例を参照してください。
※2つのアナログポートで同時に三者通話を利用することはできません。

※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※本装置の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、三者通話は利用できません。
※三者通話を利用する設定にしている時は、通話中の内線通話／内線転送や、RVS-COMの手動転送は利用できません。
※フレックスホンはNTTとの契約が必要です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

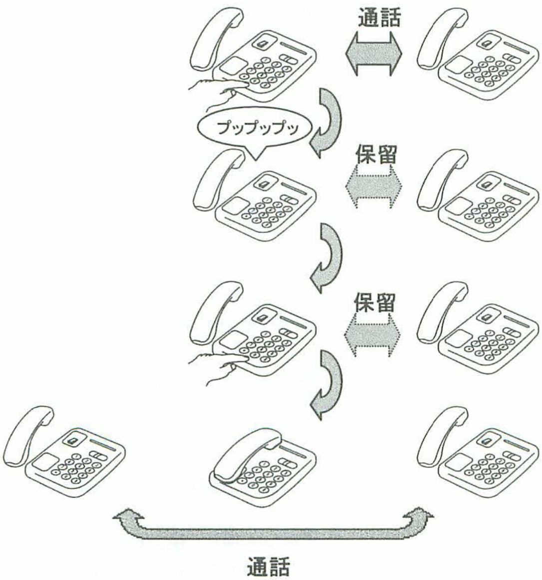
○通信中転送

着信した電話を別の相手に転送することができます。
発信した電話を別の相手に転送することはできません。

使い方は以下の2通りが利用できます。

・相手先が応答する前に転送する

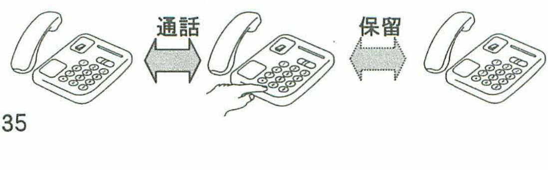
転送先の相手　操作する電話機　通話中の相手先



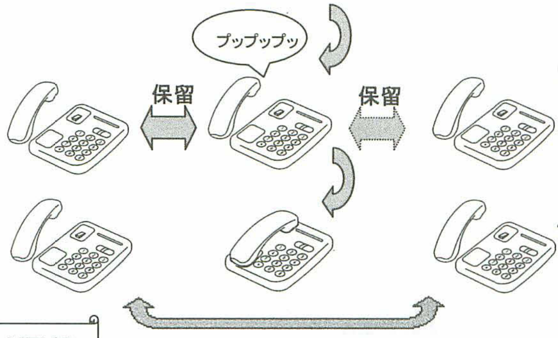
1. 通話中に フック ボタンを押します。
2. 第2ダイヤルトーン（プッ・プッ・プッ）が聞こえ、通話していた相手を保留します。
3. 別の相手先の電話番号をダイヤルします。
4. 相手先が応答する前に受話器をおきます。

・相手先が応答後に転送する

転送先の相手　操作する電話機　通話中の相手先



5. 手順1～2までは前頁と同様の手順、手順3で相手先電話番号をダイヤルし、相手先が応答します。



6. フック ボタンを押すと、第2ダイヤルトーンが聞こえます。

7. すぐに受話器を置きます。

MEMO

※上記手順6で第2ダイヤルトーンが聞こえているのは2～3秒です。その間に受話器を置かないときは保留中の相手先との通話に戻ります。
※上記手順4で相手先が話し中などなんらかの理由で応答しないときは、受話器をおいた電話機のベルが鳴ることがあります。そのときに受話器を上げると元の相手との通話に戻ります。
※本装置の設定方法はP78の設定例を参照してください。
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※2つのアナログポートで同時に通信中転送を利用することはできません。
※本装置の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、通信中転送は利用できません。
※通信中転送を利用する設定にしているときは、通話中の内線通話／内線転送や、RVS-COMの手動転送は利用できません。
※フレックスホンはNTTとの契約が必要です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

○着信転送

あらかじめ着信転送先の電話番号を登録しておくと、着信した電話を登録されている電話番号に転送することができます。

使い方は以下の通りです。



1. 着信転送先の電話番号の登録、着信転送開始などの設定をします。

2. 着信があると自動的に転送されます。

MEMO

※本装置の設定方法はP79の設定例を参照してください。
※i・ナンバーを契約していて、かんたん利用モード（初期値）でご利用の時は、利用できません。カスタム利用モード「641／AT#M1」に移行してから着信転送の設定を行ってください。設定例はP73参照。
※本装置の擬似キャッチホン機能を利用する設定のときは、通信中転送は利用できません。
※フレックスホンはNTTとの契約が必要です。詳しくはNTTまでお問い合わせください。

◎発信者番号通知サービスを利用する

NTTとのINSネット64の契約内容で発信者番号通知、すなわち相手先に自分の電話番号を通知するか通知しないかをどのように行うか選択しますが、本装置ではその契約内容とは無関係に相手先に電話番号を通知するか通知しないかを設定することもできます。

○NTTとの契約内容と本装置の設定の関係

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">「93／AT@Y」の設定内容</th></tr>
<tr><th>0（NTTに従う）（初期値）</th><th>1（通常通知）</th><th>2（通常非通知）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">契約内容</td><td>通話ごと非通知
（呼毎通知許可）</td><td>「81／AT@T」設定
番号を通知（※1）</td><td rowspan="2">「81／AT@T」設定
番号を通知（※2）</td><td rowspan="2">通知しない
（※2）</td></tr>
<tr><td>回線ごと非通知
（呼毎通知拒否）</td><td>通知しない</td></tr>
<tr><td>常時非通知</td><td colspan="3">通知しない</td></tr>
</table>

MEMO



186＋ △△△△－○○○○

※ダイヤル番号の前に「186」を付加したときはNTTとの契約が「通話ごと非通知」または「回線ごと非通知」に関わらず相手先に電話番号を通知します。



184＋ △△△△－○○○○

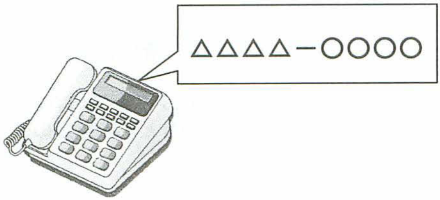
※ダイヤル番号の前に「184」を付加したときはNTTとの契約が「通話ごと非通知」または「回線ごと非通知」に関わらず相手先に電話番号を通知しません。
※NTTとの契約が「常時非通知」の契約の場合は本装置の設定に関わらず相手先に電話番号は通知されません。
※上記表内で“「81／AT@T」設定番号を通知”と記載がある場合、本装置の「81／AT@T」で何も設定していないときは契約者回線番号を通知します。
※上記表内で“「81／AT@T」設定番号を通知”と記載がある場合、本装置の「81／AT@T」で電話番号が設定されているときは設定されている電話番号を通知します。
※本装置の設定方法はP81、82の設定例を参照してください。

※1 i・ナンバー契約時、かんたん利用モード（初期値）、またはカスタム利用モードの時には、ANALOG1【緑色-実線】から発信したときは契約者回線番号。ANALOG2【緑色-点線】から発信したときは追加番号を相手先に通知します。
※2 i・ナンバー契約時、「93n／AT@Yr=n」でn=1（通常通知）、またはn=2（通常非通知）に設定した場合は、「81／AT@T」、「43／AT@ I」もあわせて設定しないと、ANALOG2【緑色-点線】から発信しても契約者回線番号を通知します。設定例はP81、82を参照してください。

◎INSナンバー・ディスプレイ

本装置のアナログポート【緑色】にナンバーディスプレイ対応電話機またはアダプタを接続し、着信があったときに相手先の電話番号を表示させることができます。

使い方は以下の通りです。



1. ナンバーディスプレイ対応電話機(アダプタ)をアナログポート【緑色】に接続する 。

2. 着信があったとき、相手先が発信者番号通知を行っているとき、相手先の電話番号を表示します。

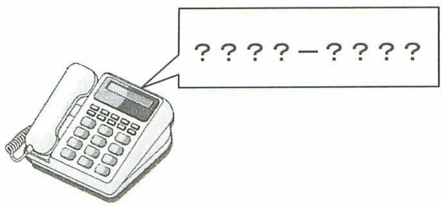
⚠注意

INSナンバー・ディスプレイはNTTのINSネット64の付加サービスで、アナログ回線からの着信時にも相手先の電話番号を表示するには、NTTとINSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

MEMO

※本装置の設定方法はP81の設定例を参照してください。
※相手の電話番号を表示できないときは非通知理由を表示します。

◎疑似ナンバー・リクエストを利用する



ナンバー・リクエストとは、相手先から発信者番号が通知されてこないときに「番号を通知しておかけ直しください」というメッセージを伝えるNTTの付加サービスですが、本装置の疑似ナンバー・リクエストは相手先から発信者番号が通知されてこないときに、着信拒否したり、呼び出し音を指定することができます。設定についてはP84を参照してください。

MEMO

※INSナンバー・ディスプレイ契約をしていないときのアナログ回線からの着信、公衆電話からの着信、または番号を通知してこない相手先には話し中の音(プープー)が聞こえます。
※相手先に「番号を通知しておかけ直しください」などのメッセージは流れません。

◎INSマジックボックス、INSボイスワープを利用する
（迷惑電話お断りサービス／Fネットを利用する）



INSマジックボックスやINSボイスワープを利用して、あらかじめ登録しておいた登録先に着信を転送することができます。
本装置はスティミュラスプロトコルに対応していますので、INSマジックボックス、INSボイスワープのカスタマコントロール機能を利用することができます。したがって、転送先の電話番号の登録などを本装置のアナログポート【緑色】に接続しているアナログ電話機（PB）から設定することができます。

MEMO

※INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、FネットはNTTのINSネット64の付加サービスで、利用するにはNTTとの契約が必要です。また、カスタマコントロール機能の使い方などはINSマジックボックス、INSボイスワープの取扱説明書を参照するか、NTTまでお問い合わせください。
※INSボイスワープセレクトにも対応しています。本装置の設定などはINSボイスワープと同じです。
※INSマジックボックスの話中時着信を利用するときは、フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を利用する設定にしてください。
※INSマジックボックスやINSボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、Fネットを利用するためには本装置で設定が必要になる場合があります。以下表を参照してください。

NTTとの契約内容	本装置の設定	意　味
i・ナンバー契約あり	不要	初期値ではANALOG1から契約者回線番号、ANALOG2からは追加番号を通知します。
i・ナンバー／ダイヤルイン未契約	不要	初期値の状態で契約者回線番号を相手先に通知します。
ダイヤルイン契約あり	必要	本装置で設定が必要です。設定例はP85、86を参照してください。

◎擬似キャッチホンを利用する

NTTとフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を契約しなくても同様の機能を利用できます。使い方はフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）と同じです。P76を参照してください。

MEMO

※本装置の設定方法はP76の設定例を参照してください。
※相手に保留音は流れません。
※空いている通信チャネル（Bチャネル）を利用して話中着信されるため、通信チャネルを2つとも使用しているときは利用できません。
※擬似キャッチホンを設定しているときの割り込み着信中は、内線通話／転送、RVS-COMの手動転送は利用できません。
※擬似キャッチホンを設定しているときは、フレックスホンは利用できません。

◎内線通話

本装置のアナログポート「ANALOG1」【緑色−実線】と「ANALOG2」【緑色−点線】間で内線通話ができます。内線通話には以下の2つの方法があります。

○使い方1



1. 受話器を上げ、発信音(ツー)を確認します。



2. [フック] ボタンを押し、第2ダイヤルトーン(プッ・プッ・プッ)を確認します。



3. [0] をダイヤルすると他のアナログポートを呼び出します。



4. 通話します。



5. 受話器を置くと通話が終了します。

○使い方2



1. 受話器を上げ、発信音(ツー)を確認します。



2. [*] [0] とダイヤルすると他のアナログポートを呼び出します。



3. 通話します。



4. 受話器を置くと通話が終了します 。

MEMO

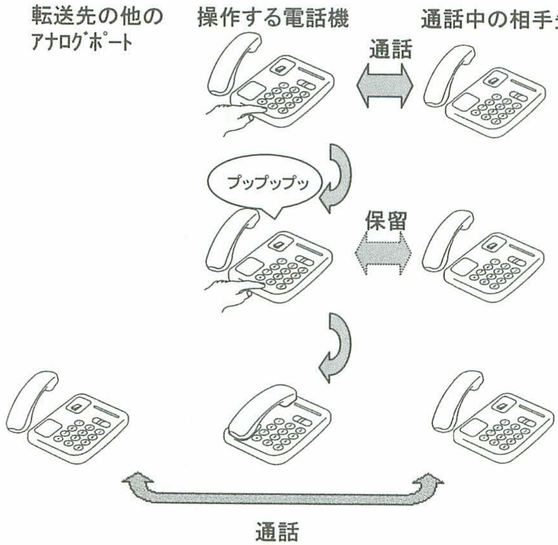
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※三者通話、通信中転送を設定している場合、またはキャッチホン(コールウェイティング)、擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中には内線通話/転送は利用できません。

◎内線転送

通話中の電話を他のアナログポートに転送することができます。

使い方は以下の2通りが利用できます。

○他のアナログポートが応答する前に転送する

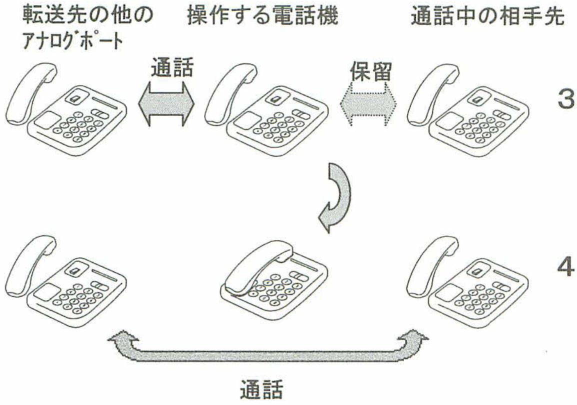


1. 通話中に［フック］ボタンを押します。
2. 第2ダイヤルトーン（プッ・プッ・プッ）が聞こえているときに、［0］をダイヤルすると他アナログポートを呼び出します。
3. 相手先が応答する前に受話器をおきます。

MEMO

※上記2で相手先に保留音は流れません。
※以下の方法で転送手順中の通話を元の相手先に戻すことができます。
・上記2の状態で第2ダイヤルトーン（プッ・プッ・プッ）が聞こえているときに、「フック」を押します。
・上記2の状態で呼び出し音が聞こえているときに、「フック」を押します。
・上記2の状態で他のアナログポートが話し中で話し中の音が聞こえているときに、「フック」を押します。
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※三者通話、通信中転送を設定している場合、またはキャッチホン（コールウェイティング）、擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中には内線通話／転送は利用できません。

○他のアナログポートが応答後に転送する



3. １ ～ ２までは「他のアナログポートが応答する前に転送する」（前頁）と同じ手順で、相手先が応答します。

4. 受話器をおきます。

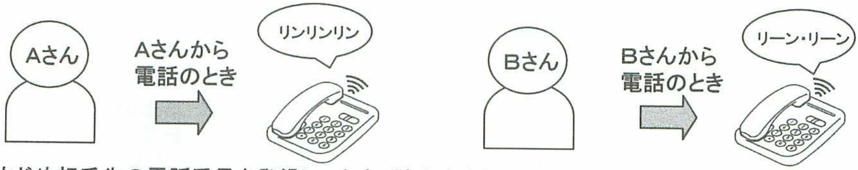
MEMO

※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

※発信したとき、着信したときに関わらず転送が可能です。

※三者通話、通信中転送を設定している場合、またはキャッチホン（コールウェイティング）、擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中には内線通話／転送は利用できません。

◎擬似なりわけサービス（発信電話番号識別機能）

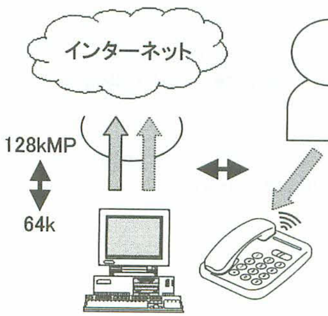


あらかじめ相手先の電話番号を登録しておき、該当する電話番号から着信があったときの呼び出し音を指定したり、着信拒否をすることができます。NTTの付加サービスである「なりわけサービス」と同様の機能ですが、NTTとの契約は必要ありません。

MEMO

※本装置の設定方法はP83の設定例を参照してください。
※NTTの「なりわけサービス」には対応しておりません。

◎アナログ優先モード （リソースBOD）



パソコンを使って128kbpsでMP通信をしているときに、アナログ通信機器を優先してBチャネルを割り当てることができます。
通常128kbpsでMP通信を行うと、Bチャネルを2つとも使用するためアナログ通信機器を利用することができませんが、この機能を利用すればアナログ通信機器を使用しているときはパソコンでの通信速度を64kbpsに落とし、Bチャネルを1つアナログ通信に割り当て、アナログ通信が終了したときにパソコンの通信速度を128kbpsに戻すなど便利な使い方が可能です。

MEMO

※本機能を利用するにはNTTとのINSネット64の契約で「通信中着信通知サービス」を許可、「ユーザ間情報通知サービス」を着信許可にする必要があります。
※本装置の設定方法はP84の設定例を参照してください。

◎RVS-COMを利用する

RVS-COMはドイツ RVS社のISDNコミュニケーションソフトウェアです。本製品はRVS-COMに対応し、DTEポート【濃青色】に接続したパソコンから直接FAXの送受信などが可能で、FAXモデムなどが必要ありません。

○パソコンからFAXを送信する

FAXの送信方法はRVS-COMのマニュアルを参照してください。本装置の設定を変更する必要はありません。

○パソコンでFAXを受信する



初期値の状態では、下記のような手順でFAXを受信できます。

1. RVS-COMを起動してFAXを受信できる状態にします。
2. FAXが着信したときに、本装置のアナログポート【緑色】に接続している電話機がなります。
3. 受話器をあげてFAXであることを確信したら [フック] をダイヤルします。
4. 「プップップッ」という確認音が聞こえたら [#][*][*] をダイヤルします。
5. 受話器を置くとパソコンでFAXが受信します。

⚠注意

※FAXを自動で受信するには設定が必要です。詳しくはP87、88を参照してください。
※i・ナンバー契約時にかんたん利用モード(初期値)で利用する場合は、FAXを自動受信することはできません。自動受信する場合は、カスタム利用モード「641／AT#M1」に移行してから自動受信の設定を行ってください。設定例はP73、87を参照してください。また、アナログ電話機から手動操作での転送は可能です。
※RVS-COMは本製品には添付していません。
※本装置のUSBポート【白色】に接続したパソコンからRVS-COMを利用することはできません。
※RVS-COM 2000のG4ファックス送受信機能、RVS ISDN-DCP機能を用いたイーサネット上のパソコンからのFAXの送受信機能などは利用できません。
※RVS-COMはWindows98または、WindowsNT4.0に対応しています。Macintoshには対応していません。
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

●RVS-COMに関するお問い合わせ
RVS-COMに関する、製品情報、使い方などのサポート情報についてはメガソフト株式会社までお問い合わせください。
Tel. 06(6386)2072　Fax. 06(6386)2123
http://www.megasoft.co.jp

◎i・ナンバーを利用する

○i・ナンバーとは

i・ナンバーとは、INSネット64×1回線で2つの電話番号を利用できるサービスです。発信者がダイヤルする電話番号に応じて、予め決められた本装置のアナログポート【緑色】に着信させることができます。1つ目の電話番号(契約者回線番号)を電話用、2つ目の電話番号(追加番号)をFAX用と使い分けるといった便利な使い方ができます。

MEMO

※i・ナンバーに関して詳しいことはNTTにお問い合わせください。
※本装置でi・ナンバーを利用するためには、NTTと契約が必要です。

○i・ナンバーを利用するには

本装置の初期値の状態でi・ナンバーを利用できます。i・ナンバーを契約しているINSネット64回線に初期値の状態で本装置を接続した場合、契約者回線番号はANALOG1【緑色-実線】へ、追加番号はANALOG2【緑色-点線】へ着信します。
NTTと発信者番号を通知する契約の場合には、ANALOG1【緑色-実線】から発信したときには契約者回線番号を、ANALOG2【緑色-点線】から発信したときには追加番号を相手先に通知します。また、カスタム利用モードでは電話番号によって着信するアナログポートを変更したり、発信時に通知する電話番号を変更するなど詳細な設定変更が可能です。

MEMO

※ダイヤルインサービスとの併用はできません。
※本装置の初期値でi・ナンバーを利用する設定になっていますが、i・ナンバーを契約していないINSネット64回線に本装置を接続したときでも問題なく動作します。
※発信時、着信時の動作の詳細は、以下の「発信時の動作」、「着信時の動作」、「着信時の関連コマンドとの競合条件と動作」を参照してください。

○発信時の動作

i・ナンバー契約時に、アナログポートから発信時に設定によって通知する電話番号とサブアドレスが下記のように変わります。i・ナンバー未契約時は、「64／AT#M」の設定内容に関わらず取扱説明書通りに動作します。

「64n／AT#Mn」	発信するｱﾅﾛｸﾞﾎﾟｰﾄ	通知する電話番号	通知するｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ
n=0 （かんたん利用モード） （初期値）	ANALOG1	契約者回線番号を通知 「811／AT@T1」で変更可能	通知不可
	ANALOG2	追加番号を通知 「812／AT@T2」で変更可能	通知不可
n=1 （カスタム利用モード）	ANALOG1	契約者回線番号を通知 「811／AT@T1」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容を通知
	ANALOG2	追加番号を通知 「812／AT@T2」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容を通知
n=2 （i・ﾅﾝﾊﾞｰを利用しない）	ANALOG1	契約者回線番号を通知 「811／AT@T1」で設定	「51／AT@J」の設定内容を通知
	ANALOG2	契約者回線番号を通知 「812／AT@T2」で設定	「51／AT@J」の設定内容を通知

＜n=0（かんたん利用モード）に設定されているとき（初期値）＞

※「81／AT@T」の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号0、追加番号はダイヤルイン登録番号1として設定します。「81／AT@T」 の設定変更をするときは、「43／AT@I」契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録で、q=0に契約者回線番号、q=1に追加番号を登録する必要が あります。

＜n=1（カスタム利用モード）に設定されているとき＞

※「81／AT@T」、「51／AT@J」の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号0、追加番号はダイヤルイン登録番号1として設定します。「81／AT@T」 の設定変更をするときは、「43／AT@I」契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録で、q=0に契約者回線番号、q=1に追加番号を登録する必要が あります。

＜i・ナンバー契約時に、n=2（i・ﾅﾝﾊﾞｰを利用しない）の設定にされているとき＞

※初期値の状態で契約者回線番号を通知します。

※「81／AT@T」、「51／AT@J」の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号0、追加番号はダイヤルイン登録番号1として設定します。「81／AT@T」、または 「51／AT@J」 の設定変更をするときは、「43／AT@I」契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録で、q=0に契約者回線番号、q=1に追加番号を登録する必要があります。

＜発信者番号通知の設定「93／AT@Y」を変更するとき＞

※i・ナンバーに契約していて、発信者番号通知の設定で通常通知「93r1／AT@Yr=1」を設定して発信。もしくは、通常非通知「93r2／AT@Yr=2」を設定して「186」を付加して発信したとき、発信者番号の設定「81／AT@T」と、回線番号の登録「43／AT@I」もあわせて設定しないと、ANALOG2【緑色－点線】から発信したときでも契約者回線番号を通知します。

○着信時の動作

i・ナンバー契約時、設定によってアナログ着信時の動作が下記のように異なります。i・ナンバー未契約時は取扱説明書の通りに動作します。ただし、カスタム利用モード「641／AT#M1」を設定すると、自動的に契約者回線番号はANALOG1【緑色−実線】に着信「5201／AT@K0=1」、追加番号はANALOG2【緑色−点線】に着信する設定「5212／AT@K1=2」になります。

「64n／AT#Mn」	着信する電話番号	着信するｱﾅﾛｸﾞﾎﾟｰﾄ	ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ付き着信時の動作
n=0 (かんたん利用モード) (初期値)	契約者回線番号	ANALOG1に着信 変更不可	ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽを無視して着信
	追加番号	ANALOG2に着信 変更不可	ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽを無視して着信
n=1 (カスタム利用モード)	契約者回線番号	ANALOG1に着信 「520／AT@K0」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容と比較して着信
	追加番号	ANALOG2に着信 「521／AT@K1」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容と比較して着信
n=2 (i・ﾅﾝﾊﾞｰを利用しない)	契約者回線番号	両ポートに着信 「520／AT@K0」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容と比較して着信
	追加番号	両ポートに着信 「520／AT@K0」で変更可能	「51／AT@J」の設定内容と比較して着信

<n=0(かんたん利用モード)に設定されているとき(初期値)>

※「62／AT@N」話中着信の設定はすべて話中着信するに設定されています。(AT@Cで設定内容を表示しても「話中着信しない」になっていますが、「話中着信する」と同様の動作になります。)

※着信時の呼び出し音は「61／AT@M」外線呼び出し音の設定のn=0(呼び出し音1)固定になります。ただし「92／AT@X」擬似なりわけ機能で設定されている場合は「92／AT@X」の設定が優先されます。

※フレックスホンの着信転送は利用できません。

※RVS-COMを利用する場合、電話機操作でFAXを受信できます。「35／AT#E」RVS-COMモードの設定でn=0(初期値)、「36／AT#F」RVS-COMへの自動転送時間の設定でn=00(パソコンへ転送しない)に設定設定されているのと同じ動作になります。また、「35／AT#E」と「36／AT#F」の設定変更はできません。

<n=1(カスタム利用モード)に設定されているとき>

※「52／AT@K」、「51／AT@J」の設定は、契約者回線番号はダイヤルイン登録番号0、追加番号はダイヤルイン登録番号1として設定します。このとき、「43／AT@I」契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録で電話番号を登録する必要はありません。

※「641／AT#M1」を設定すると、「5201／AT@K0=1」と「5212／AT@K1=2」が同時設定されます。「5204／AT@K0=4」など左記以外の設定を行う場合、「641／AT#M1」を設定した後に「52／AT@K」の設定変更を行ってください。「5204／AT@K0=4」などの設定を行った後に「641／AT#M1」を設定すると、着信ポートの設定で「5201／AT@K0=1」と「5212／AT@K1=2」が上書きされます。

※着信時の呼び出し音は「61／AT@M」で変更できます。

<i・ナンバー契約時に、n=2(i・ナンバーを利用しない)の設定にされているとき>

※2つの電話番号で異なる設定はできません。契約者回線番号、追加番号の2つの電話番号ともダイヤルイン登録番号0として設定します。したがって、2つの電話番号でアナログポートごとに着信を鳴り分けることはできません。

※「72／AT@R」グローバル着信の設定でn=0(しない)に設定すると着信できません。

<データ通信の着信時>

※グローバル着信と同様の着信になります。したがって、「AT$C」ダイヤルイン追加番号の登録は無効です。「AT!E」グローバル着信の設定でn=0(しない)に設定すると着信できません。

○着信時の関連コマンドとの競合条件と動作

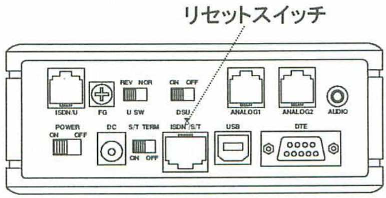
i・ナンバー契約時に下記コマンドは「64／AT#M」の設定によって着信時の動作が異なります。
i・ナンバー未契約時は、「64／AT#M」の設定に関わらず、取扱説明書通りの動作になります。また、「642／AT#M2」(i・ナンバーを利用しない)のときはグローバル着信と同様の動作になります。

設定項目	コマンド	「640／AT#M0」 (かんたん利用モード)	「641／AT#M1」 (カスタム利用モード)
ダイヤルイン	43／AT@I	無効	無効
サブアドレス	51／AT@J	無効	有効
着信ポートの設定	52／AT@K	無効 契約者回線番号はポート1 追加番号はポート2に着信	有効
外線呼び出し音	61／AT@M	無効 (「92／AT@X」が優先) 呼び出し音1で固定	有効
話中着信	62／AT@N	無効 話中着信許可で固定	有効
擬似コールウェイティング	63／AT@O	有効	有効
フレックスホン	71／AT@P	着信転送以外は有効	有効
着信転送先電話番号の登録	01／AT@Q	無効	有効
グローバル着信	72／AT@R	無効	無効
相手先番号登録	83／AT@V	有効	有効
相手先サブアドレス	91／AT@W	有効	有効

擬似なりわけ	92／AT@X	有効	有効
RVS-COMﾓｰﾄﾞ	35／AT#E	無効 電話機操作で転送は可能	有効
RVS-COM自動転送時間の設定	36／AT#F	無効 n=00(ﾊﾟｿｺﾝへ転送しない) と同様の動作	有効

※上記で有効なコマンドを設定する場合、契約者回線番号をダイヤルイン登録番号0、追加番号を ダイヤルイン登録番号1として設定します。
※上記で無効なコマンドを設定した場合、設定されますが設定内容を無視して動作します。

◎設定の初期化



・ISDN S/Tポート【赤紫色】の上にあるリセットスイッチ(▼ マークの下の小さい穴)で工場出荷時の状態に初期化できます。

○初期化方法

1. 本装置の電源が入り、正常に立ち上がっている状態で、リセットスイッチ(▼ マークの下の小さい穴)にクリップをのばしてさし込み、10秒以上押し続けます。
2. 本装置前面のLEDランプがすべて点滅したらクリップを離します。
3. Powerランプだけ点灯する状態になったら、本装置の電源スイッチ【赤色】をOFFにして、5秒くらいしてONにしてください。

○その他の初期化方法

<アナログ電話機から初期化する>
本装置のアナログポート【緑色】に接続したアナログ電話機からの操作でアナログポートの設定を初期化できます。電話機設定コード「211」についてはP89を参照してください。
※アナログ電話機からの設定方法については、P52～を参照してください。

<パソコンから簡単設定ユーティリティを利用して初期化する>
本装置のDTEポート【濃青色】、またはUSBポート【白色】に接続したパソコンから簡単設定ユーティリティを利用して設定内容を初期化できます。P62を参照してください。
※簡単設定ユーティリティは付属CD-ROMからインストールが必要です。インストール方法はP56～(Win版)、P60～(Mac版)を参照してください。

<パソコンからATコマンドで初期化する>
本装置のDTEポート【濃青色】、またはUSBポート【白色】に接続したパソコンからATコマンドを利用して設定内容を初期化できます。アナログポートの設定内容の初期化「AT@A1」についてはP69、89。DTEポートの設定内容の初期化「AT&F」についてはP167を参照してください。
※ATコマンドの入力方法はP65～を参照してください。

アナログポートの設定

本章ではアナログポートの設定方法、その他
便利な使い方をするためのアナログポートの
設定例などについて解説します。

■アナログポートを設定しよう

アナログポート【緑色】に接続された電話やFAXなどを便利に使うためには設定が必要になります。
ここでは設定方法について解説します。

●アナログポートの設定方法

本装置のアナログポートを設定するには2つの方法があります。



◎アナログ電話機で設定する

本装置のアナログポート「ANALOG1」または「ANALOG2」【緑色】に接続したプッシュボタン(PB)式アナログ電話機から設定します。
設定方法はP52～を参照してください。



◎パソコンで設定する

○簡単設定ユーティリティで設定する

本装置の「DTE」ポート【濃青色】、または「USB」ポート【白色】に接続したパソコンから簡単設定ユーティリティで設定します。
簡単設定ユーティリティは付属CD-ROMからインストールできます。
インストール方法はP56～(Win版)、P60～(Mac版)を参照してください。

○ATコマンドで設定する。

本装置の「DTE」ポート【濃青色】、または「USB」ポート【白色】に接続したパソコンからターミナルソフト、または簡単設定ユーティリティを利用してATコマンドで設定します。簡単設定ユーティリティは付属CD-ROMからインストールが必要です。インストール方法はP56～(Win版)、P60(Mac版)、ターミナルソフトからATコマンドを入力する設定方法はP64～を参照してください。

⚠注意

※アナログ電話機からの設定とパソコンからの設定は同時にはできません。
※簡単設定ユーティリティを利用して設定する場合は、付属CD-ROMからインストールが必要です。

MEMO

電話機からの設定する場合、ボイス機能を利用して、AUDIO端子【灰色】に接続したアンプ内蔵ステレオスピーカ(別売)から設定内容を声で確認しながら設定が可能です。P32、109を参照してください。

●アナログ電話機で設定する

設定する前に、本装置のアナログポート【緑色】「ANALOG1」または「ANALOG2」にプッシュボタン(PB)式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。また、本装置の電源スイッチ【赤色】が「ON」になっているかどうか確認してください。

◎ アナログ電話機での設定方法

ここでは契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】のみに着信する設定例を紹介します。
その他の設定については設定例(P71～)とアナログ設定リファレンス(P89)を参照してください。

設定モードにしましょう!



1．アナログ電話機の受話器をあげ、発信音を確認します。

2．［フック］ボタンを1回押します。

3．［#］［1］をダイヤルします。

4．設定したい「電話機設定コード」をダイヤルします。(MEMO／※1)

例) 着信ポートの設定のとき ［5］［2］ をダイヤルします。

5．設定したい「パラメータ」をダイヤルします。(MEMO／ ※2)

5−1 (ダイヤルイン登録番号／登録番号)

例) 契約者回線番号の設定のとき ［0］ をダイヤルします。



5－2（接続するアナログポート番号）

例）着信ポートの設定のときは省略。「61／AT@M」や「62／AT@N」のような接続するアナログポートの番号「r=1～2」を指定するときには「1」または「2」をダイヤルします。



5－3 設定値

例）「ANALOG1」【緑色-実線】にだけ着信させるとき 1 をダイヤルします。



6. # をダイヤルします。（MEMO／ ※3）



7. アナログ電話機の受話器をおろします。

MEMO

※本装置のアナログポートの設定ができるのは、プッシュボタン（PB）式アナログ機器に限ります。ダイヤルパルス式アナログ機器からは設定ができません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン（PB）」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。
※電話機から設定するときは自動的に保存されます。
※電話機から設定中は、電話やFAXなどアナログポートの利用はできません。
※設定中に「誤りがあります。もう一度入力してください。「ピピッ」というメッセージが聞こえたときは手順4から入力し直してください。
※「AUDIO」端子【灰色】にアンプ内蔵ステレオスピーカ（別売）を接続すると、ボイス機能を利用してスピーカから音声で確認しながら設定できます。ボイス機能についてはP31、32を参照してください。

※1 ・電話機設定コードについてはアナログポートの設定リファレンス（P89～）を参照してください。
※2 ・パラメータについてはアナログポートの設定リファレンス（P89～）を参照してください。
・5-1、5-2については必要な場合のみ入力します。設定コードによっては設定しない場合があります。
※3 ・続けて設定するときは4～6の設定手順を繰り返し設定します。

●アナログ電話機で設定の確認をする

設定する前に、本装置のアナログポート「ANALOG1」または「ANALOG2」【緑色】にプッシュボタン(PB)式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。また、本装置の電源スイッチ【赤色】が「ON」になっているかどうか確認してください。

◎ アナログ電話機での設定確認方法

ここでは契約者回線番号が「ANALOG1」【緑色−実線】、「ANALOG2」【緑色−点線】のどちらに着信する設定になっているかを確認する例を紹介します。
その他の設定確認についてはアナログポートの設定リファレンス(P89〜)を参照してください。

設定確認モードにしましょう!



1. アナログ電話機の受話器をあげ、発信音を確認します。

2. [フック] ボタンを1回押します。

3. [#] [2] をダイヤルします。

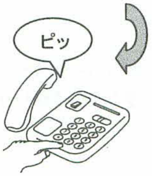
4. 確認したい「電話機設定ｺｰﾄﾞ」をダイヤルします。(MEMO／※1)

例) 着信ポートの設定内容を確認するときは [5] [2] をダイヤルします。

5. 設定したい「パラメータ」をダイヤルします。(MEMO／ ※2)

5−1 (ダイヤルイン登録番号／登録番号)

例) 契約者回線番号の設定内容を確認するときは [0] をダイヤルします。



5－2（接続するアナログポート番号）

例） 着信ポートの設定内容確認のときは省略。「61／AT@M」や「62／AT@N」のような接続するアナログポートの番号「r=1～2」を指定するときには「1」または「2」をダイヤルします。



6. # をダイヤルします。（ MEMO／ ※3）



7. アナログ電話機の受話器をおろします。

MEMO

※本装置のアナログポートの設定確認ができるのは、プッシュボタン式アナログ機器に限ります。ダイヤルパルス式アナログ機器からは設定ができません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン（PB）」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

※「フック」は、受話器を置く時に押下される「フックスイッチ」、または「フック」、「フラッシュ」、「キャッチ」などお使いのアナログ電話機によって名称がかわります。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

※設定確認中に「誤りがあります。もう一度入力してください。「ピピッ」というﾒｯｾｰｼﾞが聞こえたときは手順4から入力し直してください。

※電話機から設定確認中は、電話やFAXなどの着信はできません。

※「AUDIO」端子【灰色】にアンプ内蔵ステレオスピーカを接続すると、ボイス機能を利用してスピーカから音声で設定内容を確認できます。ボイス機能についてはP31～を参照してください。

※1 ・電話機設定コードについてはアナログポートの設定リファレンス（P89～）を参照してください。

※2 ・パラメータについてはアナログポートの設定リファレンス（P89～）を参照してください。

・5-1、5-2については必要な場合のみ入力します。設定コードによっては設定しない場合があります。

※3 ・続けて設定確認するときは4～6の設定手順を繰り返します。

●パソコンで設定する　--　簡単設定ユーティリティ編　--

◎簡単設定ユーティリティで設定する



アナログポート【緑色】とDTEポート【濃青色】の設定は、本装置の「DTE」ポート【濃青色】と付属の専用シリアルケーブルで、または「USB」ポート【白色】と付属のUSBケーブルで接続したパソコンから簡単設定ユーティリティを用いて設定できます。

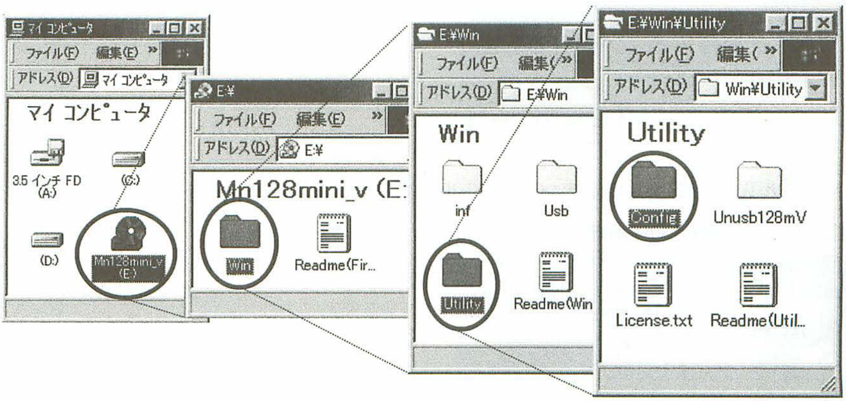
■Windows版　簡単設定ユーティリティ

簡単設定ユーティリティを利用するには付属のCD-ROMからインストールが必要です。

○Windows版簡単設定ユーティリティのインストール

（1）付属のCD-ROMを準備し、パソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。

（2）「マイコンピュータ／CD-ROMドライブ（MN128MINI_V）」をダブルクリックして、「Win」フォルダ→「Utility」→「Config」フォルダの順にダブルクリックして開きます。

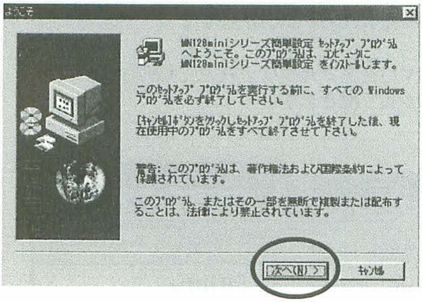


（3）「Config」フォルダ内の「Setup.exe」をダブルクリックします。

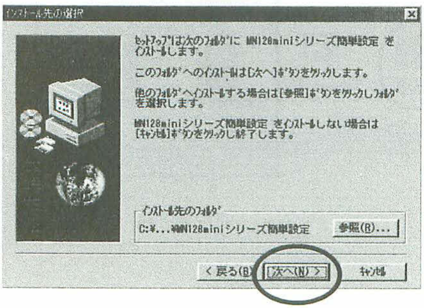


「Setup.exe」が見えないときは、スクロールバーを動かして表示させてください。

（4）下記の画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。



（5）「インストール先の選択」の画面で、インストール先のフォルダを確認し「次へ」をクリックします。



(6)「プログラム フォルダの選択」の画面で「次へ」をクリックします。



(7)「NTT-ME」フォルダが作成され、「スタート／プログラム／NTT-ME」に「MN128miniシリーズ簡単設定」が登録されます。



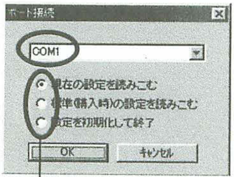
○起動と終了の方法

(1)「スタート／プログラム／NTT-ME」から「MN128miniシリーズ簡単設定」を選択します。



(2)「ポート接続」の画面から本装置を接続するCOMポートを選択し、本装置を接続後の処理を以下の3つの中から選び「OK」をクリックします。

◎シリアルポートに本装置を接続するとき



＜現在の設定を読みこむ＞
現在本装置に設定されている内容を読みこんでから設定変更する場合に選択します。

＜標準(購入時)の設定を読みこむ＞
本装置の初期値(購入時)の設定内容を読みこんでから設定内容 を変更する場合に選択します。

＜設定を初期化して終了＞
設定内容を初期化して処理を終了する場合に選択します。

◎USBポートに本装置を接続するとき



USBポートを選択してセットアップ(P122～)した「MN128mini_Series(64k)」、または「MN128mini_Series(MP 128k)」を選択してください。
※事前にUSBドライバのインストールが必要です。

(3)簡単設定の「ポート共通設定」の画面になります。この画面からアナログポートの各種設定ができます。



(4)設定を終了するときは、通常 (書きこみ)アイコンをクリックして本装置に設定内容を書きこんでから、「ファイル」メニューの「終了」(または アイコン)をクリックします。



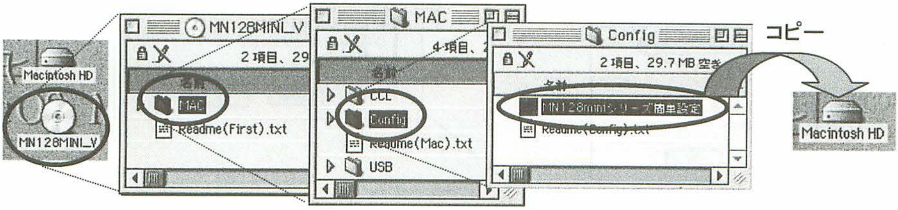
■Macintosh版　簡単設定ユーティリティ

簡単設定ユーティリティを利用するには付属のCD-ROMからインストールが必要です。

○Macintosh版簡単設定ユーティリティのインストール

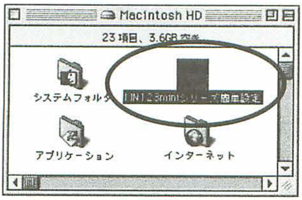
(1)付属のCD-ROMを準備し、パソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。

(2)デクストップ上の「MN128MINI_V」→「Mac」→「Config」フォルダの順にダブルクリックして開き、「MN128miniシリーズ簡単設定」をハードディスクにコピーします。



○起動と終了の方法

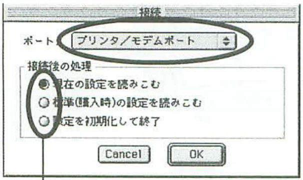
(1)「MN128miniシリーズ簡単設定」アイコンをダブルクリックします。



(2)「接続」の画面で本装置が接続されているポートを選択し、本装置を接続後の処理を以下の3つの中から選び「OK」をクリックします。

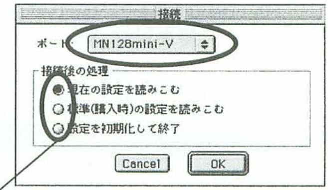
◎シリアルポートに本装置を接続するとき
プリンタ／モデムポートを選択します。

※「ポート」は機種によって表示が以下のように異なります。
- 「モデムポート」
- 「プリンタポート」
- 「プリンタ／モデムポート」



◎USBポートに本装置を接続するとき
「MN128mini-V」を選択します。

※事前にUSBドライバのインストールが必要です。
P144～を参照してください。

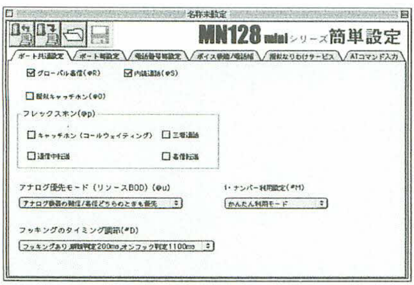


＜現在の設定を読みこむ＞
現在本装置に設定されている内容を読みこんでから設定変更する場合に選択します。

＜標準(購入時)の設定を読みこむ＞
本装置の初期値(購入時)の設定内容を読みこんでから設定内容　を変更する場合に選択します。

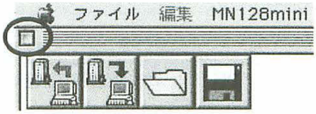
＜設定を初期化して終了＞
設定内容を初期化して処理を終了する場合に選択します。

(3)簡単設定の「ポート共通設定」の画面になります。この画面からアナログポートの各種設定ができます。



(4) 設定を終了するときは、通常 （書きこみ）アイコンをクリックして本装置に設定内容を書きこんでから、「ファイル」メニューの「終了」（または アイコン）をクリックします。





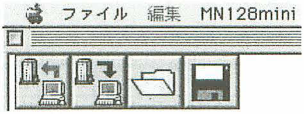
◎簡単設定ユーティリティのメニューと機能説明

■メニューとアイコンの説明

Windows版簡単設定ユーティリティのメニュー画面

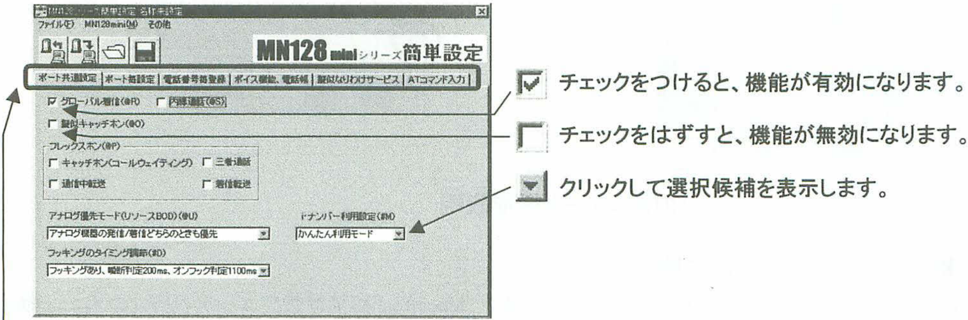


Macintosh版簡単設定ユーティリティのメニュー画面



メニュー	サブメニュー		アイコン		機能
	Win	Mac	Win	Mac	
ファイル	新規				設定を保存するファイルを新しく作成します。
	開く				設定内容を保存していたファイルを開きます。
	保存				現在の設定でファイルを上書きします。
	名前を付けて保存	別名保存			新しく設定した内容をファイルに保存します。
	終了				簡単設定ユーティリティを終了します。
MN128mini	接続	ポート接続			パソコンのポートを占有して本装置と接続します。 ※他ソフトウェアはこのポートを使えなくなります。
	切断	ポート切断			接続していたポートを切断します。
	設定の書き込み				設定した内容を本装置に書き込みます。
	設定の読み込み				現在本装置に設定されている内容を読み込みます。
	設定の初期化				設定内容を初期化します。
	オプション				新規の設定の場合、現在本装置に設定されている内容から読み込むか、または初期値の状態から読み込むかを選択します。
その他（Win）	バージョン情報				ファームウェアのバージョン情報を表示します。
アップルメニュー（Mac）		MN128mini簡単設定について			

■タブから選ぶ各設定ページの説明



タブで選ぶメニュー	ボタン	機　能
ポート共通設定		ANALOGポート1、2共通の設定をします。
ポート毎設定		ANALOGポート1、2にそれぞれの設定をします。
電話番号毎設定		契約している電話番号毎の設定をします。
	編集	選択した電話番号の設定をします。
	削除	選択した電話番号の設定内容を消去します。
ボイス機能、電話帳		ボイス機能の設定と、電話帳の設定をします。
	追加	電話帳にデータを登録します。
	編集	選択した電話帳のデータを編集します。
	削除	選択した電話帳のデータを削除します。
擬似なりわけサービス		擬似なりわけサービスと、擬似ナンバー・リクエストの設定をします。
	追加	擬似なりわけをする相手先の設定をします。
	編集	選択した相手先の設定を編集します。
	削除	選択した相手先の設定内容を削除します。
ATコマンド入力		ATコマンドで本装置を設定します。
	送信	入力したATコマンドを本装置に送信します。
	スクリーンのクリア	ATコマンドの表示画面を消します。

MEMO

※メニューの文字やアイコンがグレーになっているときは、その機能は設定できません。
※簡単設定ユーティリティのバージョンによって、多少画面表示が異なる場合があります。

●パソコンで設定する　-- ATコマンド編 --

◎ ATコマンドで設定する



アナログポート【緑色】とDTEポート【濃青色】の設定は、本装置の「DTE」ポート【濃青色】と付属の専用シリアルケーブルで、または「USB」ポート【白色】と付属のUSBケーブルで接続したパソコンから、ターミナルソフトまたは簡単設定ユーティリティを利用してATコマンドで設定することができます。
インターネットに接続する場合、また接続しようとしても上手く接続できない場合などは、ATコマンドを用いて本装置が認識されているかを確認してから接続してみましょう。

○ ATコマンドとは

本装置のようなターミナルアダプタ等通信機器を制御するためのコマンド体系の1つです。
通常コマンドの前に「AT」をつけ、以下の書式で設定します。

AT 「コマンド」「パラメータ」 [Enter]

○ ATコマンドを入力する前に

簡単設定ユーティリティを利用するには、付属CD-ROMからインストールが必要です。インストール方法はP56～(Win版)、P60(Mac版)を参照してください。

○ ターミナルソフトを用意しよう

ターミナルソフトとは、パソコンのシリアルポートまたは、USBポートに接続された通信機器と通信するためのソフトウェアです。
パソコンによっては購入した時にターミナルソフトが添付されているものもあります。

OSまたはパソコン	ターミナルソフト
Windows 98/95/NT4.0	「プログラム／アクセサリ／通信」内の「ハイパーターミナル」
Macintosh	購入時にターミナルソフトウェアが添付されていない場合、別途用意する必要があります。 市販品を購入するかフリーソフトやシェアウェアを雑誌やBBSなどから入手してください。

MEMO

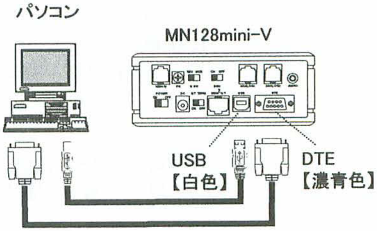
※Macintosh用のターミナルソフトの代表的な商品として、「クラリスワークス」、「J-Term」、「ComNIFTY」などがあります。(「クラリスワークス」は米国アップルコンピュータ社、「J-Term」は(株) まつもとの製品、「ComNIFTY」はフリーソフトウェアです。H11年10月現在。)
※市販品を購入する場合、キーボードから自由にATコマンドが入力できるものを選びましょう。詳しくは販売店までお問い合わせください。
※お持ちのパソコンにターミナルソフトウェアが添付されているか、市販品の購入などに関してはパソコン販売店等へお問い合わせください。

○ ATコマンドの入力方法

以下の手順でATコマンドを入力してください。

1. 本装置の「DTE」ポート【濃青色】とパソコンのシリアルポートを付属の専用シリアルケーブルで、
   または「USB」ポート【白色】と付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートを接続します。

2. 本装置の電源スイッチ【赤色】を「ON」にします。



3. 他の通信ソフトはすべて終了します。

4. ターミナルソフトを起動します。

5. ターミナルソフトの設定をします。
   - → シリアルポート（COMポート、USBポートまたはモデムポート、プリンタポート等）の選択
   - → ポートスピード（推奨DTE速度 ： 9600bps）

6. ATコマンドを入力します。

MEMO

※本装置を接続しているシリアルポートまたはUSBポートをターミナルソフトウェア上で正しく選択しないと、ATコマンドが入力できない、またはその他の通信機器（モデムなど）を認識してしまいます。

※本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続する場合
- ・付属のCD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。インストールに関してはP122～を参照してください。
- ・ターミナルソフトで本装置を接続しているポートを選択するときはポートで「MN128mini-V」または、「MN128mini_Series**k」を選択してください。
- ・パソコンのUSBポートを利用するときは、USBポートが使用できる状態になっていることを確認してください。

※パソコンによっては内蔵モデムが入っていると、シリアルポートが使用できない状態になっている可能性もあります。詳しくはパソコン販売店等へお問い合わせください。

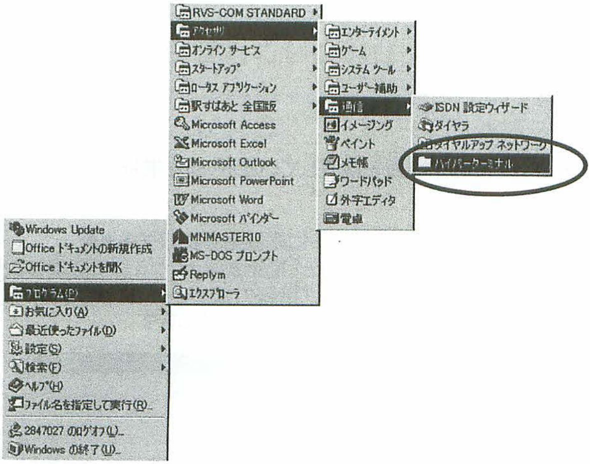
※以下の項目に関してはソフトウェアまたはパソコンの各販売店等にお問い合わせください。
- ・市販ターミナルソフトの起動方法、設定方法。
- ・パソコンのシリアルポート（COMポート、モデムポート、プリンタポートなど）番号。
- ・USBポートが通信可能な状態であるかどうか。
- ・内蔵モデムが入っている場合の設定方法。

※その他の通信ソフトウェア（PPP対応通信ソフト・FAXソフトなど）が終了されているか確認してください。
また、FAXソフトは待機中になっていても、ターミナルソフトは使用できない場合があります。

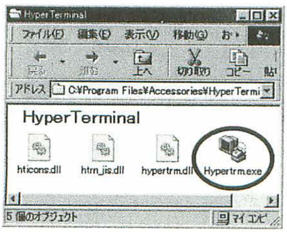
○ Windows98のハイパーターミナルでのATコマンド入力方法

ATコマンドの入力は、お持ちのターミナルソフトウェアを起動し、ターミナル画面からATコマンドが入力できる状態にする必要があります。ここではWindows98/95の「ハイパーターミナル」でATコマンドを入力する方法を説明します。
※Windows95、またはご利用の環境によって表示される画面が異なる場合があります。

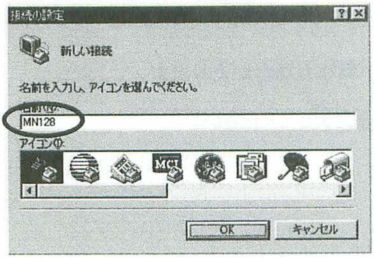
1．「プログラム／アクセサリ／通信／ハイパーターミナル」を選択してください。



2．「HyperTerminal」のウィンドウから「HyperTerminal」アイコンをダブルクリックしてください。

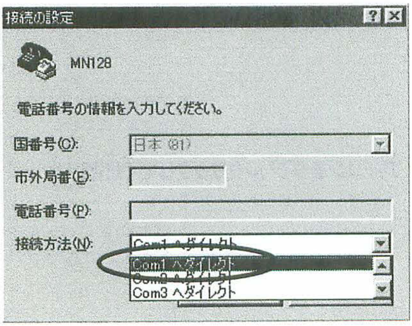


3. 「接続の設定」のウィンドウで、アイコンと名前を決めて「OK」をクリックします。
この例では「MN128」という名前のアイコンを作成します。

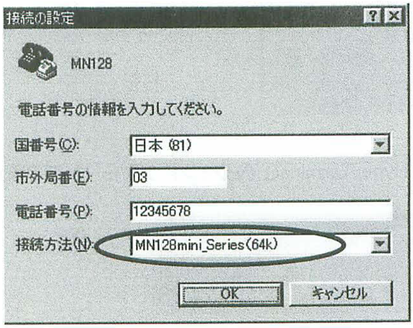


4. 「電話番号」のウィンドウで、接続方法の中から本装置を接続しているポートを選択し「OK」をクリックします。

◎シリアルポートに本装置を接続するとき
「接続方法」で「COM＊ヘダイレクト」を選択し、「OK」をクリックします。



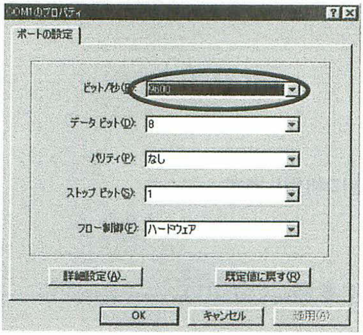
◎USBポートに本装置を接続するとき
「市街局番」と「電話番号」にダミーで適当な番号を入力します。「接続方法」で「MN128mini_Series**k」を選択し、「OK」をクリックします。



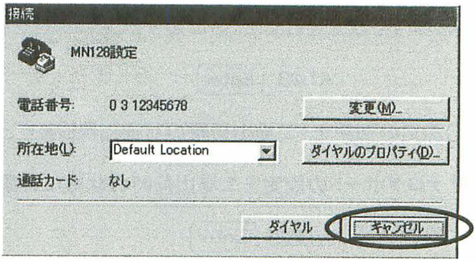
MEMO

※パソコンのUSBポートからATコマンドを入力するときは、付属CD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。USBドライバのインストール方法はP122～を参照してください。

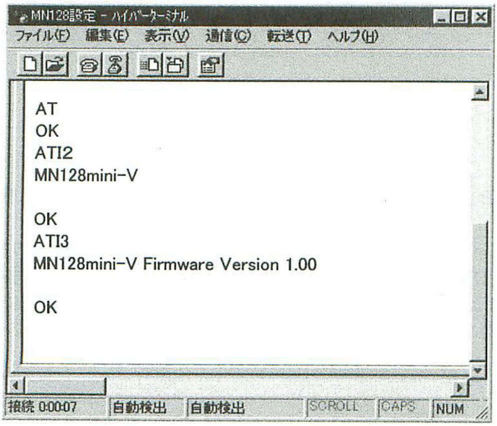
5. ◎シリアルポートに本装置を接続するとき
シリアルポートに本装置を接続するとき「ビット/秒」の欄だけ「9600」へ変更し、「OK」をクリックします



◎USBポートに本装置を接続するとき
ダミーで入力した電話番号にダイヤルする画面が表示されるので、「キャンセル」をクリックします。



6. 「MN128」のウィンドウで、文字入力モードを「直接入力」にして、AT [Enter] で、「OK」と表示されたら、ATコマンドは入力できる状態です。ATI2 [Enter] で、「MN128mini-V」と表示されれば、本装置が認識されています。ATI3 [Enter] で、現在のファームウェアのバージョンが表示されます。この状態で設定したいコマンドを入力してください。



MEMO

※ATI2 [Enter] で、「MN128mini-V」以外の表示(OKなど)がでる場合はその他の通信機器(内蔵モデムなど)を認識していますのでシリアルポートを選択し直してください。選択し直しても同じ状態の時はパソコンメーカなどへお問い合わせください。

○設定の保存／初期化／表示

○設定の保存(P89)

パソコンからATコマンドで設定したときは保存しないと、本装置の電源をOFFにしたときに設定が消えてしまいます。設定を行ったときは必ず設定の保存を行ってください。

AT@B [Enter]

○設定の初期化(工場出荷時の状態に戻します)(P89)

アナログポートの設定を工場出荷時の状態に初期化したいときに利用します。

AT@A1 [Enter]

※本体背面のリセットスイッチでも設定を初期化できます。P49を参照してください。

○設定内容の表示(P90)

現在アナログポートに設定されている内容を表示します。

AT@C [Enter]

※ボイス機能の設定コマンド一覧は「AT*R」(P110)で表示できます。

MEMO

※ボイス機能関連コマンドについて

- 電話帳の登録「AT*S」コマンドは、保存「AT@B」コマンドとは無関係にコマンド入力時に自動的に保存します。
- 電話帳の登録「AT*S」コマンドは、初期化「21／AT@A」コマンドでは初期化できません。初期化の方法については、P111、112を参照してください。また、リセットスイッチによる初期化の場合は、電話帳の内容もすべて初期化されます。リセットスイッチによる初期化方法に関しては、P49を参照してください。
- ボイス機能関連コマンドの一覧表示は「AT*R」コマンドで表示できます。P110を参照してください。

○ ATコマンドが入力できない

ATコマンドが入らない場合は下記のフローに従ってチェックしてください。

「AT [Enter] と入力しても文字が表示されない、又はOKが表示されない」

「本装置の電源が入っている」

NO → 「本装置の電源を入れます」
(P21、25)

YES

「専用シリアルケーブルでパソコンのシリアルポートと接続されている」
または、付属のUSBケーブルでパソコンのUSBポートと接続されている」

NO → 「専用シリアルケーブルで
パソ コンと接続します」
(P21、24)

YES

付属CD-ROMからUSBドライバをインストール済み
※USBポートから入力する場合のみ

NO → 「インストールしてください」
(P122～(Win)、P144(Mac))

YES

「シリアル(COM)ポートの指定はあっているか」
(USBポートを選択するときは「MN128mini_Series**k」を選択)

NO、又はCOMポート
がわからない

YES

「OKが表示された」

NO

YES

「ATI2 [Enter] で「MN128mini-V」が表示された」

YES → 「本装置が認識されています」

NO → 「モデム等その他の通信
機器を認識しています」

「パソコン販売店等に問い合わせるなど、
COMポート番号を把握してから設定」

YES

「本装置もしくはケーブルの故障の可能性がありますので、
技術サポートへ連絡してください」

■アナログポートの設定例

本装置のアナログポート【緑色】をアナログ電話機、またはATコマンドから設定する場合の具体的な設定例を記述しますので、参考にして設定してください。
設定例の「電話機で設定」の設定番号は「アナログ電話機での設定方法」(P52、53)の手順4～5に入力する番号です。

MEMO

ATコマンドで設定する時は設定の最後に保存コマンド「AT@B」を入力しないと本装置の電源を「OFF」にした時に設定内容が消えてしまいます。電話機で設定する時は同時に保存も行います。

◎着信ポート、ダイヤルインを設定する

・契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】に着信させる。

電話機  で設定



ATコマンド  で設定

AT@K0=1 (P95) → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】に着信させる。
AT@B (P89) → 設定を保存する。

MEMO <i・ナンバーを契約している場合>

※i・ナンバーを契約しているときは初期値の状態で、契約者回線番号はANALOG1【緑色−実線】、追加番号は「ANALOG2」【緑色−点線】に着信します。詳しくはP45～を参照してください。

・「ANALOG2」【緑色－点線】にFAXを接続する。
・ダイヤルイン追加番号(03-1234-5678)を「ANALOG2」【緑色－点線】に着信させる。
・契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色－実線】に着信させる。

電話機で設定

(受話器) → フック → #1 → 32 → 2 → 2 → # →
→ 43 → 1 → 0312345678 → # →
→ 52 → 1 → 2 → # →
→ 52 → 0 → 1 → # → (受話器)

ATコマンドで設定

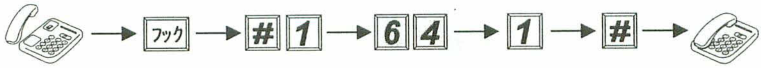
AT@E2=2 (P90) → 「ANALOG2」【緑色－点線】にFAXを接続する。
AT@ I1=0312345678 (P93) → ダイヤルイン番号1に「0312345678」番を登録する。
AT@K1=2 (P95) → ダイヤルイン番号1を「ANALOG2」【緑色－点線】に着信させる。
AT@K0=1 (P95) → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色－実線】に着信させる。
AT@B (P89) → 設定を保存する。

＜i・ナンバーを契約している場合＞

・初期値の状態で、契約者回線番号はANALOG1【緑色-実線】、追加番号は【ANALOG2】に着信します。
・着信ポートを変更するときは、カスタム利用モードに移行してから着信ポートの設定「52／AT@K」で設定を変更してください。

・カスタム利用モードに移行する。

電話機  で設定



ATｺﾏﾝﾄﾞ  で設定

AT#M1 (P108) → カスタム利用モードに移行する。
AT@B (P89) → 設定を保存する。

MEMO ＜i・ナンバーを契約している場合＞

※カスタム利用モード「641／AT#M1」を設定すると、自動的に契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色-実線】に着信「5201／AT@K0=1」。追加番号は「ANALOG2」【緑色-点線】に着信「5212／AT@K1=2」が設定されます。

MEMO

「設定ｺｰﾄﾞ／ATｺﾏﾝﾄﾞ」「43／AT@ I」と「52／AT@K」と「81／AT@T」の関係

書式	「43q s／AT@ Iq=s」
q	意 味
0	ダイヤルイン番号0の登録 （契約者回線番号の登録）
1	ダイヤルイン番号1の登録
2	ダイヤルイン番号2の登録
3	ダイヤルイン番号3の登録

書式	「81r n／AT@Tr=n」
n	意 味
0	契約者回線番号を網から通知
1	ダイヤルイン番号1を設定
2	ダイヤルイン番号2を設定
3	ダイヤルイン番号3を設定
4	ダイヤルイン番号0を設定

書式	「52q n／AT@Kq=n」
q	意 味
0	AT@ Iで登録していない番号の設定
1	ダイヤルイン番号1の設定
2	ダイヤルイン番号2の設定
3	ダイヤルイン番号3の設定

「43/AT@ I」関連	「 s 」は電話番号を入力
	「 q=0 」は設定は発信者番号通知を必要とするサービス（INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、Fネットなど）を利用する場合で、あわせてダイヤルイン契約をしている場合に、契約者回線番号を登録する項目です。それ以外の場合は設定する必要はありません。
「52/AT@K」関連	「 n 」は着信させるポートを設定します。
	「 q=0 」で契約者回線番号の設定も行います。
「81/AT@T」関連	「 r 」はアナログポート番号を入力します。
	ダイヤルイン契約をしていない時は、@Tの設定は必要ありません。

<i・ナンバーを契約している場合>

- 初期設定の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色−実線】に着信、追加番号は「ANALOG2」【緑色−点線】に着信します。また、「ANALOG1」【緑色−実線】から発信したときは相手先に契約者回線番号を通知し、「ANALOG2」【緑色−点線】から発信したときは相手先に追加番号を通 知します。
- 設定内容を変更するときは、契約者回線番号を「ダイヤルイン番号0」、追加番号を「ダイヤルイン番号1」として設定してください。
- 着信ポートの設定変更をするときは、カスタム利用モードに移行してから設定を変更してください。詳しくはP73を参照してください。

◎ボイス機能を利用する

・03-1234-5678番から電話着信時に「アリタ」という名前で知らせる。

ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

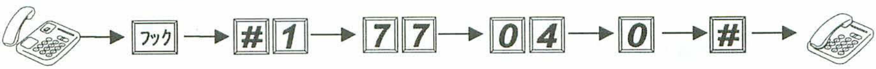
AT*S00=0312345678=arita → 電話帳「00」番に、電話番号「03-1234-5678」で「アリタ」を登録する。
（P111）

MEMO

ボイス機能を利用するための電話帳登録は、電話機からは設定できません。

・アナログ通信料金は声で知らせない。

電話機 で設定



ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

AT*P04=0 → アナログ通話料金通知を音声出力しない。
（P109）
AT@B → 設定を保存する。
（P89）

◎擬似キャッチホンを設定する

・契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】に着信させる。
・擬似キャッチホン機能を利用する。

電話機で設定

→ フック → # 1 → 5 2 → 0 → 1 → # →
→ 6 2 → 0 → 1 → 1 → # →
→ 6 3 → 1 → # →

＜i・ナンバーを契約している場合　(かんたん利用モード)＞

→ フック → # 1 → 6 3 → 1 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞで設定

AT@K0=1 (P95)	→ 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】に着信させる。
AT@N01=1 (P96)	→ 契約者回線番号に着信したとき、「ANALOG1」【緑色−実線】で話中着信を許可する。
AT@O1 (P97)	→ 擬似キャッチホンを利用する。
AT@B (P89)	→ 設定を保存する。

＜i・ナンバーを契約している場合　(かんたん利用モード)＞

AT@O1 (P97)	→ 擬似キャッチホンを利用する。
AT@B (P89)	→ 設定を保存する。

MEMO　＜i・ナンバーを契約している場合＞

※かんたん利用モード(初期値)では、「ANALOG1」【緑色−実線】、「ANALOG2」【緑色−点線】共に話中着信が許可される動作になります。
※カスタム利用モードで設定するときは、話中着信の設定「62011／AT@N01=1」をする必要があります。

◎フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を設定する

・契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。
・キャッチホンを利用する。

電話機で設定

→ フック → # 1 → 5 2 → 0 → 1 → # →
→ 6 2 → 0 → 1 → 1 → # →
→ 7 1 → 8 → # →

<i・ナンバーを契約している場合　（かんたん利用モード）>

→ フック → # 1 → 7 1 → 8 → # →

ATコマンドで設定

AT@K0=1 （P95）	→ 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。
AT@N01=1 （P96）	→ 契約者回線番号に着信したとき、「ANALOG1」【緑色-実線】で話中着信を許可する。
AT@P8 （P98）	→ キャッチホンを利用する。
AT@B （P89）	→ 設定を保存する。

<i・ナンバーを契約している場合　（かんたん利用モード）>

AT@P8 （P98）	→ キャッチホンを利用する。
AT@B （P89）	→ 設定を保存する。

MEMO　<i・ナンバーを契約している場合>

※かんたん利用モード（初期値）では、「ANALOG1」【緑色-実線】、「ANALOG2」【緑色-点線】共に話中着信が許可される動作になります。
※カスタム利用モードで設定するときは、話中着信の設定「62011／AT@N01=1」をする必要があります。

◎フレックスホンの三者通話を設定する

・三者通話を利用する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 7 1 → 2 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

AT@P2 → 三者通話を利用する。
(P98)
AT@B → 設定を保存する。
(P89)

◎フレックスホンの通信中転送を設定する

・通信中転送を利用する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 7 1 → 4 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

AT@P4 → 通信中転送を利用する。
(P98)
AT@B → 設定を保存する。
(P89)

◎フレックスホンの着信転送を設定する

・契約者回線番号に着信があったとき
・転送するときは(03-1234-5678)へ転送する。
・通常は「ANALOG1」【緑色-実線】へ着信する。

電話機 で設定

●事前設定

→ [フック] → [#][1] → [7][1] → [1] → [#] →
→ [0][1] → [0] → [0][3][1][2][3][4][5][6][7][8] → [#] →
→ [5][2] → [0] → [1] → [#] →

<i・ナンバーを契約している場合 (カスタム利用モード)>

→ [フック] → [#][1] → [6][4] → [1] → [#] →
→ [7][1] → [1] → [#] →
→ [0][1] → [0] → [0][3][1][2][3][4][5][6][7][8] → [#] →

●転送を開始するとき

→ [フック] → [#][1] → [5][2] → [0] → [6] → [#] →

●転送を解除するとき

→ [フック] → [#][1] → [5][2] → [0] → [1] → [#] →

ATｺﾏﾝﾄﾞ  で設定

●事前設定

AT@P1 (P98) → 着信転送を利用する。

AT@Q0=0312345678 (P99) → 契約者回線番号に着信したときの転送先を「03-1234-5678」に設定する。

AT@K0=1 (P95) → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。

AT@B (P89) → 設定を保存する。

<i・ナンバーを契約している場合　（カスタム利用モード）>

AT#M1 (P108) → カスタム利用モードに移行する。

AT@P1 (P98) → 着信転送を利用する。

AT@Q0=0312345678 (P99) → 契約者回線番号に着信したときの転送先を「03-1234-5678」に設定する。

AT@B (P89) → 設定を保存する。

●転送を開始するとき

AT@K0=6 (P95) → 契約者回線番号に着信があったときに転送する。

AT@B (P89) → 設定を保存する。

●転送を解除するとき

AT@K0=1 (P95) → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。

AT@B (P89) → 設定を保存する。

※着信転送を開始するときに上記「転送開始設定」を設定し、転送を解除するとき、この例では「ANALOG1」【緑色-実線】への着信へ戻すときは上記「転送解除設定」を設定する必要があります。

◎ナンバーディスプレイ電話機(アダプタ)を接続する

・ナンバーディスプレイ電話機を「ANALOG1」【緑色-実線】に接続する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 3 2 → 1 → 5 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

AT@E1=5 → 「ANALOG1」【緑色-実線】にナンバーディスプレイ電話機(アダプタ)を接続する。
(P90)
AT@B → 設定を保存する。
(P89)

◎発信者番号通知を設定する

・契約者回線番号(03-1234-5555)を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。
・ダイヤルイン追加番号(03-1234-6666)を「ANALOG2」【緑色-点線】に着信させる。
・それぞれの番号を相手先に通知する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 5 2 → 0 → 1 → # →
→ 4 3 → 0 → 0 3 1 2 3 4 5 5 5 5 → # →
→ 4 3 → 1 → 0 3 1 2 3 4 6 6 6 6 → # →
→ 5 2 → 1 → 2 → # →
→ 8 1 → 1 → 4 → # →
→ 8 1 → 2 → 1 → # →
→ 9 3 → 1 → 1 → # →
→ 9 3 → 2 → 1 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞ  で設定

AT@K0=1 (P95) → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色−実線】に着信させる。

AT@ I0=0312345555 (P93) → ダイヤルイン番号0に「0312345555」番を登録する。

AT@ I1=0312346666 (P93) → ダイヤルイン番号1に「0312346666」番を登録する。

AT@K1=2 (P95) → ダイヤルイン番号1を「ANALOG2」【緑色−点線】に着信させる。

AT@T1=4 (P101) → 「ANALOG1」【緑色−実線】から相手先に通知する回線番号としてダイヤルイン0番を登録する。

AT@T2=1 (P101) → 「ANALOG2」【緑色−点線】から相手先に通知する回線番号としてダイヤルイン1番を登録する。

AT@Y1=1 (P104) → 「ANALOG1」【緑色−実線】から相手先に回線番号を通知する。

AT@Y2=1 (P104) → 「ANALOG2」【緑色−点線】から相手先に回線番号を通知する。

AT@B (P89) → 設定を保存する。

MEMO ＜i・ナンバーを契約している場合＞

※ i・ナンバーを契約しているときは初期値の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色−実線】に着信、追加番号は「ANALOG2」【緑色−点線】に着信し、「ANALOG1」【緑色−実線】から発信する場合は契約者回線番号を相手先に通知し、「ANALOG2」【緑色−点線】から発信する場合は追加番号を相手先に通知します。詳しくはP45～を参照してください。

◎擬似なりわけサービス（発信電話番号識別）を利用する

・電話番号「03-1234-5678」から着信があったとき、「ANALOG1」【緑色-実線】の呼び出し音を呼び出し音3（リンリンリンリン）に指定する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 9 2 → 0 0 → 1 → 3 → # →
→ 8 3 → 0 0 → 0 3 1 2 3 4 5 6 7 8 → # →

ATコマンド で設定

AT@X001=3 （P103）	→ 登録番号「00」から「ANALOG1」【緑色-実線】に着信したとき呼び出し音3「リンリンリン」で呼び出す。
AT@V00=0312345678 （P102）	→ 登録番号「00」に「03-1234-5678」番を登録する。
AT@B （P89）	→ 設定を保存する。

◎アナログ優先モード(リソースBOD)を利用する

・128kbpsでインターネットしているとき、電話やFAXなどの着信だけ優先する。

電話機で設定

フック → #1 → 82 → 2 → # →

ATコマンドで設定

AT@U2 (P102)	→ 着信のときだけアナログ通信を優先する。
AT@B (P89)	→ 設定を保存する。

MEMO

※初期値では発着信のどちらの要求があったときでもアナログ通信を優先して利用する設定になっています。

◎擬似ナンバー・リクエストを利用する

・相手先が発信者番号を通知しないでかけてきたとき、「ANALOG1」【緑色−実線】に接続されているアナログ電話機の呼び出し音を呼び出し音2(リーンリン・リーンリン)に設定する。

電話機で設定

フック → #1 → 92 → 99 → 1 → 2 → # →

ATコマンドで設定

AT@X991=2 (P103)	→ 電話番号を通知しないで「ANALOG1」【緑色−実線】に着信したとき呼び出し音2「リーンリン」で呼び出す。
AT@B (P89)	→ 設定を保存する。

◎INSマジックボックス、INSボイスワープを利用する
（迷惑電話お断りサービス・Fネットを利用する）

＜i・ナンバーを契約している場合＞

i・ナンバーを契約しているときは初期値の状態で、契約者回線番号は「ANALOG1」【緑色－実線】に着信、追加番号は「ANALOG2」【緑色－点線】に着信し、INSマジックボックス、INSボイスワープを利用できます。詳しくはP45～を参照してください。

・契約者回線番号（03－1234－5555）を「ANALOG1」【緑色－実線】に着信させる。
・ダイヤルイン追加番号（03－1234－6666）を「ANALOG2」【緑色－点線】に着信させる。
・「ANALOG1」【緑色－実線】に接続された電話機からカスタマコントロール機能（迷惑電話お断りサービス／Fネット）を利用する。

電話機  で設定

 → フック → # 1 → 5 2 → 0 → 1 → # →
→ 4 3 → 0 → 0 3 1 2 3 4 5 5 5 5 → # →
→ 4 3 → 1 → 0 3 1 2 3 4 6 6 6 6 → # →
→ 5 2 → 1 → 2 → # →
→ 8 1 → 1 → 4 → # → 

ATコマンド  で設定

AT@K0=1 （P95） → 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色－実線】に着信させる。
AT@ I0=0312345555 （P93） → ダイヤルイン番号0に「0312345555」番を登録する。
AT@ I1=0312346666 （P93） → ダイヤルイン番号1に「0312346666」番を登録する。
AT@K1=2 （P95） → ダイヤルイン番号1を「ANALOG2」【緑色－点線】に着信させる。
AT@T1=4 （P101） → 「ANALOG1」【緑色－実線】から通知する回線番号としてダイヤルイン0番を登録する。
AT@B （P99） → 設定を保存する。

・契約者回線番号(03-1234-5555)を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。
・ダイヤルイン追加番号(03-1234-6666)を「ANALOG2」【緑色-点線】に着信させる。
・「ANALOG2」【緑色-点線】に接続された電話機からカスタマコントロール機能(迷惑電話お断りサービス/Fネット)を利用する。

電話機で設定

→ フック → # 1 → 5 2 → 0 → 1 → # →
→ 4 3 → 0 → 0 3 1 2 3 4 5 5 5 5 → # →
→ 4 3 → 1 → 0 3 1 2 3 4 6 6 6 6 → # →
→ 5 2 → 1 → 2 → # →
→ 8 1 → 2 → 1 → # →

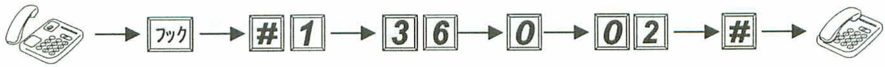
ATコマンドで設定

AT@K0=1 (P95)	→ 契約者回線番号を「ANALOG1」【緑色-実線】に着信させる。
AT@I0=0312345555 (P93)	→ ダイヤルイン番号0に「0312345555」番を登録する。
AT@I1=0312346666 (P93)	→ ダイヤルイン番号1に「0312346666」番を登録する。
AT@K1=2 (P95)	→ ダイヤルイン番号1を「ANALOG2」【緑色-点線】に着信させる。
AT@T2=1 (P101)	→ 「ANALOG2」【緑色-点線】から通知する回線番号としてダイヤルイン1番を登録する。
AT@B (P89)	→ 設定を保存する。

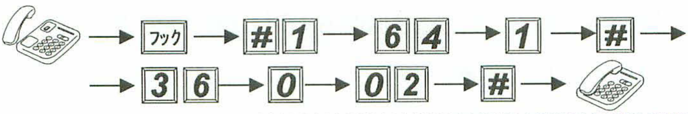
◎RVS-COMを利用してFAXを受信する

・契約者回線番号に着信したとき、アナログポート【緑色】に接続した電話機を呼び、10秒間応答しなければ自動的にFAX受信する。

電話機  で設定



<i・ナンバーを契約している場合 （カスタム利用モード）>



ATｺﾏﾝﾄﾞ  で設定

AT#M1 → i・ナンバーを契約している場合のみ設定。
(P108) カスタム利用モードへ移行する。

AT#F0=02 → 契約者回線番号に着信したとき、10秒後に自動受信する。
(P107)

AT@B → 設定を保存する。
(P89)

・契約者回線番号への着信はすべてパソコン（RVS-COM）でFAX受信する。

電話機 で設定

→ フック → # 1 → 3 5 → 0 → 1 → # →

ATｺﾏﾝﾄﾞ で設定

AT#E0=1 → 契約者回線番号に着信があったとき、すべてパソコンでFAX受信する。
（P106）

AT@B → 設定を保存する。
（P89）

MEMO ＜i・ナンバーを契約している場合＞

※かんたん利用モード（初期値）では、アナログ電話機操作で手動転送のみ利用できます。自動受信するには、カスタム利用モードに移行してから自動受信の設定が必要です。

⚠注意

※この設定では、設定した電話番号に着信があっても、アナログポートに接続した電話機などは呼び出しません。すべてパソコン（RVS-COM）で受信します。

■アナログポートの設定リファレンス

◎ ATコマンド書式

アナログ電話機から設定する場合の電話機設定書式、パソコンからATコマンドで設定する場合のATコマンド書式を説明します。コマンド項目名、各書式の見方は以下の通りです。

「電話機設定ｺｰﾄﾞ(例　32)／ ATコマンド(例　@E)」 コマンド内容

「電話機設定書式」　　「電話機設定コード(例　32)」「パラメータ(例　r n)」

「ATコマンド書式」　　AT「設定コマンド(例　@E)」「パラメータ　(例　r=n)」

[ ]内はオプションですので、省略が可能です。

「21／@A」設定の初期化

設定内容	アナログポートに関するすべての設定内容を初期化します。初期化の方法は設定の保存をしたとき(電話機で設定したときは常に保存されています)の状態に戻すか、出荷時の状態に初期化するかを選択できます。	
電話機設定書式	21	
ATコマンド書式	AT@An	
パラメータ	n=0	設定を保存したときの状態へ戻す
	n=1	出荷時の内容へ初期化

MEMO

※電話機から設定するときは「n=1：出荷時の内容へ初期化」へ初期化することになります。電話機設定ｺｰﾄﾞの後すぐに「＃」を押してください。「n=0：設定を保存したときの状態へ戻す」への初期化はパソコンからATコマンドで設定します。

※電話帳の登録「なし／AT*S」は本コマンドで初期化できません。詳しくは、P111を参照してください。

※電話機から設定の確認はできません。

「なし／@B」 設定の保存

設定内容	アナログポートに関するすべての設定内容を保存します。
電話機設定書式	なし
ATコマンド書式	AT@B

MEMO

※電話機から設定する時は保存作業は必要ありません。設定の都度保存処理を行っています。

「なし／@C」設定の表示

設定内容　アナログポートに関する設定内容をターミナルソフト上に表示します。

電話機設定書式　なし

ATコマンド書式　AT@Cn

パラメータ

n=0	「83／AT@V」「91／AT@W」「92／AT@X」以外を表示
n=1	「83／AT@V」「91／AT@W」「92／AT@X」を表示

「なし／@D」内線着信表示

設定内容　ナンバーディスプレイ対応電話機／アダプタを接続し、「32／AT@E」でパラメータ「n=5」に設定しているとき、他のアナログポートから内線着信したとき、ここで設定した内容を表示します。

電話機設定書式　なし

ATコマンド書式　AT@Dr=s

パラメータ

r=1～2	アナログポート番号
s=数字etc	表示内容

MEMO

※パラメータ「s」に入力できる数字／文字は20桁までです。
※パラメータ「s」には「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」、「記号」を入力できます。
ただし、お使いのナンバーディスプレイ電話機(アダプタ)によっては記号が表示できない場合があります。
※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録した表示内容を削除します。

「32／@E」アナログポート接続機器種別

設定内容　本装置のアナログポートに接続するアナログ機器の種別を設定してください。

電話機設定書式　32 r n

ATコマンド書式　AT@Er=n

パラメータ

r=1～2	接続するアナログポート番号	
n=0	アナログ電話機	(初期値)
n=1	モデム／FAX機能付き電話	
n=2	FAX(G3)	
n=5	ナンバーディスプレイ対応電話機／アダプタ／FAX電話機	

アナログポートの設定

⚠注意

※ナンバーディスプレイ対応電話機／アダプタ(n=5)に設定したとき、本装置で通信チャネル(Bチャネル)を2つとも使用しているときは発信電話番号が表示されません。
※ナンバーディスプレイ対応電話機／アダプタ(n=5)に設定したとき、お使いの機種によっては正常に動作しない場合があります。
※フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)を利用するアナログポートの機器種別は「n=0、1、5」のいずれかを設定してください。

「33／@F」機能ボタンの設定

設定内容　本装置のアナログポートに接続したアナログ機器からダイヤルするときに「＊」と「＃」をどのような機能にするかを設定してください。

電話機設定書式　33 r n

ATコマンド書式　AT@Fr=n

パラメータ　r=1～2　接続するアナログポート番号

n	即時発信	サブアドレス指定	
0	どちらにも設定しない		
1		＊	
2	＊		
4		＃	
5		＊＃	
6	＊	＃	
8	＃		
9	＃	＊	（初期値）
10	＊＃		

MEMO

※即時発信　:ダイヤル番号の最後に、指定した機能ボタンを押すとダイヤル終了後すぐに発信します。
※サブアドレス指定　:ダイヤル番号の最後に、指定した機能ボタンに続けて相手先サブアドレスを入力してください。

「41／@G」ダイヤル終了から発信までの時間（桁間タイマー）

設定内容　本装置のアナログポートに接続したアナログ機器から発信するときに相手先番号をダイヤル終了してから何秒で発信するかを設定してください。

電話機設定書式　41 r n

ATコマンド書式　AT@Gr=n

パラメータ　r=1～2　接続するアナログポート番号

n=3～50　待ち時間（秒）　（初期値 n=5）

MEMO

※ダイヤル番号「110」、「119」、「171」はここでの設定に関係なく即時発信します。
※ダイヤルの最後に「＃」をつけるとこの設定値に関係なくすぐに発信します。
※機能ボタンの設定で「＊」の機能を即時発信に変更しているときは「＊」をつけます。

「42／@H」内線呼び出し音の設定

設定内容　内線の呼び出し音を選択することができます。

電話機設定書式　42 r n

ATコマンド書式　AT@Hr=n

パラメータ　r=1～2　接続するアナログポート番号

n=0　呼び出し音1（リーン・リーン）
n=1　呼び出し音2（リーンリン・リーンリン）　（初期値）
n=2　呼び出し音3（リンリンリン・リンリンリン）

「43／@ I」契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録

設定内容

NTTとダイヤルイン契約を行っている場合、契約方法によって設定内容が変わります。以下を参照し、契約者回線番号とダイヤルイン追加番号の登録を行ってください。

・「グローバル着信有り」で契約 ： パラメータ「q=0」に契約者回線番号、「q=1～3」にダイヤルイン追加番号を登録

・「グローバル着信なし」で契約 ： パラメータ「q=1～3」に契約者回線番号とダイヤルイン追加番号を登録

電話機設定書式

43 q s

ATコマンド書式

AT@ Iq=s

パラメータ

q=0	ダイヤルイン登録番号（契約者回線番号）
q=1～3	ダイヤルイン登録番号（ダイヤルイン追加番号）
s=数字	契約者回線番号、ダイヤルイン追加番号

MEMO

※パラメータ「s」で登録する契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。

※パラメータ「s」に入力できる数字は31桁までです。

※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録したダイヤルイン登録番号を削除します。

＜i・ナンバーを契約している場合＞

※発信者番号として登録する場合には、契約者回線番号をダイヤルイン登録番号0に、追加番号をダイヤルイン登録番号1に登録してください。

※本設定内容は、アナログ着信時の動作には無効です。

「51／@J」サブアドレスの登録

設定内容　　「43／AT@ I」で登録したダイヤルイン登録番号ごとにサブアドレスを登録することができます。サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きで着信があったときに、登録してあるサブアドレスと一致したときだけ着信させることができます。

電話機設定書式　　51 q r s

ATコマンド書式　　AT@Jqr=s

パラメータ　　q=0～3　ダイヤルイン登録番号

r=1～2　接続するアナログポート番号

s=数字　サブアドレス

MEMO

※パラメータ「s」に入力できる数字は19桁までです。
※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録したサブアドレスを削除します。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。
※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。
・ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。
・「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。
・「43／AT@ I」の 「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号。
※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。
※サブアドレスを登録した場合、サブアドレスを指定しないでかけてきた電話やFAXからの着信はできません。
※アナログ回線などからサブアドレスを通知して発信することはできません。

<i・ナンバーを契約している場合>
※かんたん利用モード（初期値）では本設定内容は無効です。

「52／@K」着信ポートの設定

設定内容	アナログ通信機器から着信があったときに、「43／AT@ I」で登録したダイヤルイン登録番号ごとに着信するアナログポートを選択できます。
電話機設定書式	52 q n
ATコマンド書式	AT@Kq=n
パラメータ	q=0～3　　ダイヤルイン登録番号

n=0	どちらのアナログポートにも着信しない
n=1	「ANALOG1」に着信
n=2	「ANALOG2」に着信
n=3	「ANALOG1」、「ANALOG2」両ポートに着信　（初期値）
n=4	「ANALOG1」優先着信
n=5	「ANALOG2」優先着信
n=6	「01／AT@Q」で登録されている電話番号へ着信転送する

MEMO

※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。
※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。
- ・ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。
- ・「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。
- ・「43／AT@ I」の 「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号。

※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。
※フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）を利用するとき、着信可能で空いているアナログポートがあるときは、空きポートに着信して話中着信しません。（片方のBチャネルをディジタルデータ通信で使用している時を除く）ただし、パラメータ「n=4 or 5」のときは片方のアナログポートが空いていても優先着信の設定をしたアナログポートに話中着信します。
※フレックホンの着信転送を利用するときはパラメータ「n=6」を設定し、「01／AT@Q」で転送先の電話番号を登録します。
※キャッチホン（コールウェイティング）を使用するとき、話中着信するポートは、「52／AT@K」の設定によって次のようになります。

設定	話中着信するポート
n=0	話中着信せず
n=1	ANALOG1のみ
n=2	ANALOG 2のみ
n=3	両ポート通信中のときにはポート1（※1、※4、※5）
n=4	ANALOG 1が通信中のときにはANALOG 1（※2、※4、※5）
n=5	ANALOG 2が通信中のときにはANALOG 2（※3、※4、※5）
n=6	話中着信せず

※1）他ポートが空いている場合は、話中着信せず、他ポートに着信します。
（ただし、※4の場合は除く）
※2）ANALOG2が空いている場合でも、ANALOG2には着信せず、ANALOG1に話中着信します。
※3）ANALOG1が空いている場合でも、ANALOG1には着信せず、ANALOG2に話中着信します。
※4）片方のBチャネルがデータ通信等で使用されている場合は、ANALOG1、ANALOG2にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。
※5）1つのアナログポートが通信中で、もう片方のポートが着信出来ないときは、ANALOG1、ANALOG2にかかわらず、通信中のポートに話中着信します。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※かんたん利用モード（初期値）では、契約者回線番号はANALOG1に着信、追加番号はANALOG2に着信します。かんたん利用モードのときは本設定で着信ポートの設定変更はできません。
※カスタム利用モードでは、本設定で電話番号毎に着信ポートを設定変更できます。

「61／@M」外線呼び出し音の設定

設定内容　　外線の呼び出し音を選択することができます。

電話機設定書式　　61 q r n

ATコマンド書式　　AT@Mqr=n

パラメータ　　q=0～3　　ダイヤルイン登録番号

r=1～2　　接続するアナログポート番号

n=0　　呼び出し音1(リーン・リーン)　　(初期値)
n=1　　呼び出し音2(リーンリン・リーンリン)
n=2　　呼び出し音3(リンリンリン・リンリンリン)

MEMO

※呼び出し音が鳴るのは「52／AT@K」で設定されている着信可能なアナログポートのみです。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※かんたん利用モード(初期値)では、呼び出し音1で固定されています。

「62／@N」話中着信の設定

設定内容　　「43／AT@ I」で登録したダイヤルイン登録番号ごとに話中着信をするか、しないかを設定します。

電話機設定書式　　62 q r n

ATコマンド書式　　AT@Nqr=n

パラメータ　　q=0～3　　ダイヤルイン登録番号

r=1～2　　接続するアナログポート番号

n=0　　話中着信しない　　(初期値)
n=1　　話中着信する

MEMO

※フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)または擬似キャッチホン゛を利用するときは話中着信をする設定にしてください。
※話中着信する設定ができるのは、「52／AT@K」で着信する設定になっているアナログポートだけです。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。

※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。
・ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号
・「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号
・「43／AT@ I」の「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号
※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。

<i・ナンバーを契約している場合>
※かんたん利用モード（初期値）では、話中着信許可と同様の動作になります。ただし、AT@Cで設定内容を表示しても話中着信はしない設定内容で表示されます。

「63／@O」擬似キャッチホンの設定

設定内容	NTTとフレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）契約をしなくても、同様の機能を利用することができます。外線で通話中に着信があったとき、フック（フラッシュ）ボタンを押すことによって通話を切り替えることができます。
電話機設定書式	63 n
ATコマンド書式	AT@On
パラメータ	n=0　しない　（初期値） n=1　する

注意

※相手先には保留音は流れません。保留している間は無音の状態になります。
※擬似キャッチホン機能とフレックスホンとの併用はできません。どちらか一方を利用するときは、もう一方は利用しない設定にしてください。
※擬似キャッチホンを利用するアナログポートは「52／AT@K 」で着信できる設定にし、「62／AT@N」で話中着信する設定にして、「32／AT@E」でパラメータ「n=0、1、5」のいずれかに設定してください。

「71／@P」フレックスホンの設定

設定内容　NTTの付加サービスであるフレックスホンの4つのメニューの内、どのサービスを利用するかを設定します。

電話機設定書式　71 n

ATコマンド書式　AT@Pn

パラメータ

n	キャッチホン	通信中転送	三者通話	着信転送
0	すべて利用不可			（初期値）
1	×	×	×	○
2	×	×	○	×
3	×	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	○	×	○
6	×	○	○	×
7	×	○	○	○
8	○	×	×	×
9	○	×	×	○
10	○	×	○	×
11	○	×	○	○
12	○	○	×	×
13	○	○	×	○
14	○	○	○	×
15	○	○	○	○

⚠注意

※擬似キャッチホン機能とフレックスホンのとの併用はできません。どちらか一方を利用するときはもう一方は利用しない設定にしてください。
※キャッチホンを利用するアナログポートは「52／@K」で着信できる設定にし、「62／AT@N」で話中着信する設定にして、「32／AT@E」でパラメータ「n=0,1,5」のいずれかに設定してください。設定例P77を参照してください。
※着信転送を利用するときは「52／AT@K」、「01／AT@Q」の設定も必要です。設定例P79を参照してください。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※かんたん利用モード（初期値）では着信転送は利用できません。カスタム利用モードに移行してから着信転送を利用する設定にしてください。カスタム利用モードへの移行についてはP73を参照してください。

「01／@Q」着信転送先電話番号の登録

設定内容	NTTの付加サービス、フレックスホンの着信転送を契約しているとき、「43／AT@ I」で登録したダイヤルイン登録番号ごとに着信転送先の電話番号を登録することができます。	
電話機設定書式	01 q s	
ATコマンド書式	AT@Qq=s	
パラメータ	q=0～3	ダイヤルイン登録番号
	s=数字	着信転送先の電話番号

MEMO

※パラメータ「s」に入力できる数字は31桁までです。
※パラメータ「s」で登録する転送先の電話番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録した転送先電話番号を削除します。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。
※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。

- ・ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。
- ・「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。
- ・「43／AT@ I」の「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号。

※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※かんたん利用モード（初期値）では本設定は無効です。

「72／@R」グローバル着信の設定

設定内容	NTTとのダイヤルイン契約内容の「グローバル着信　有り/無し」に関わらず通常は初期値パラメータ「n=1」で使用してください。		
電話機設定書式	72 n		
ATコマンド書式	AT@Rn		
パラメータ	n=0	しない	
	n=1	する	（初期値）→ 通常はこのままご利用ください

⚠注意

パラメータ「n=0」にすると着信できなくなることがあります。

MEMO

※NTTと「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン追加番号のみ着信したいときは、パラメータ「n=0」に設定すると、本設定のみで契約者回線番号では着信せずに、ダイヤルイン追加番号のみ着信します。

<i・ナンバーを契約している場合>
※「i・ナンバー利用モードの設定」(64／AT#M)で、「i・ナンバー を利用する」に設定にしたときは、本設定は無効です。

「73／@S」内線発信の設定

設定内容	アナログポート間の電話機などで内線通話を利用するか否かを設定します。受話器を上げて発信音「ツー」が聞こえているときに「＊0」をダイヤルしてください。		
電話機設定書式	73 n		
ATコマンド書式	AT@Sn		
パラメータ	n=0	しない	
	n=1	する	（初期値）

⚠注意

※フレックスホンの三者通話、または通信中転送を設定している場合や、キャッチホン（コールウェイティング）、擬似キャッチホンを設定している場合の割り込み着信中には内線通話／転送は利用できません。

「81／@T」発信者番号の設定

設定内容	相手先に通知する回線番号を設定します。	
電話機設定書式	81 r n	
ATコマンド書式	AT@Tr=n	
パラメータ	r=1～2	接続するアナログポート番号
	n=0	契約者回線番号（INSネット64網から設定）　（初期値）
	n=1	ダイヤルイン登録番号1（ダイヤルイン追加番号）を設定
	n=2	ダイヤルイン登録番号2（ダイヤルイン追加番号）を設定
	n=3	ダイヤルイン登録番号3（ダイヤルイン追加番号）を設定
	n=4	ダイヤルイン登録番号0（契約者回線番号）を設定

MEMO

※ここで設定した回線番号は以下のときに相手先に通知されます。
①「93／AT@Y」で「通常通知：n=1」に設定している。
②NTTと「通話ごと非通知」の契約をしていて、「93／AT@Y」で「NTTとの契約に従う：n=0」に設定している。
③「93／AT@Y」で「通常非通知：n=2」に設定していて、ダイヤル番号の前に「186」を付加している。
④NTTと「回線ごと非通知」の契約で、「93／AT@Y」で「NTTとの契約に従う：n=0」に設定していて、ダイヤル番号の前に「186」を付加している。
（ただしNTTとの契約が「常時非通知」のときは通知されません。）
※NTTのINSボイスワープ、迷惑電話お断りサービスなど発信者番号を必要とする場合はここで設定が必要です。契約している回線番号を発信者番号として設定してください。設定例P85を参照してください。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※i・ナンバーの利用モードを設定「64／AT#M」で「i・ナンバーを利用する」設定の場合は、ANALOG1【緑色－実線】から契約者回線番号、ANALOG2【緑色－点線】から追加番号を通知します。通知する回線番号は本コマンドで変更できます。

⚠注意

※パラメータ「n=1～3」を設定していても、「43／AT@ I」の「q=1～3」でダイヤルイン追加番号を登録していないときは、INSネット64網から契約者回線番号を設定します。
※グローバル着信なしでダイヤルイン契約をしているときは契約者回線番号を「43／AT@ I」のパラメータ「q=1～3」でいずれかのダイヤルイン登録番号に設定し、設定されたダイヤルイン登録番号を「81／AT@T」のパラメータ「n=1～3」で選択します。

「82／@U」アナログ優先モード(リソースBOD)の設定

設定内容

パソコンを使って128kbpsでMP通信をしているときに、アナログ通信機器を優先してBチャネルを割り当てるための設定です。通常128kbpsでMP通信を行うと、Bチャネルを2つとも使用するためアナログ通信機器を利用することができませんが、ここでの設定をしておけばアナログ通信機器を使用しているときはパソコンでの通信速度を64kbpsに落とし、Bチャネルを1つアナログ通信に割り当て、アナログ通信が終了したときにパソコンの通信速度を128kbpsに戻すなど便利な使い方が可能です。

電話機設定書式

82 n

ATコマンド書式

AT@Un

パラメータ

n=0	アナログ通信機器を優先しない
n=1	アナログ通信機器からの発信のときだけを優先する
n=2	アナログ通信機器への着信のときだけを優先する
n=3	アナログ通信機器の発信/着信どちらのときも優先する(初期値)

MEMO

※アナログ優先モード(リソースBOD)を利用するには、NTTと「通信中着信通知サービス」を「許可」で契約する必要があります。

「83／@V」相手先回線番号の登録

設定内容

ここで登録した相手先の回線番号からの着信があったとき、「92／AT@X」の設定内容にしたがって動作します。

電話機設定書式

83 q s

ATコマンド書式

AT@Vq=s

パラメータ

q=00～29	登録番号
s=数字	相手先の回線番号

MEMO

※パラメータ「s」で登録する相手先の回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「s」に入力できる数字は31桁までです。
※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録した相手先の回線番号を削除します。

「91／@W」相手先サブアドレスの登録

設定内容	「83／AT@V」で登録した回線番号ごとにサブアドレスを設定できます。「83／AT@V」で登録した回線番号とここで登録したサブアドレスに該当する着信があったとき、「92／AT@X」の設定内容にしたがって動作します。
電話機設定書式	91 q r s
ATコマンド書式	AT@Wqr=s
パラメータ	q=00～29　　登録番号
	r=1～2　　接続するアナログポート番号
	s=数字　　相手先サブアドレス

MEMO

※パラメータ「q=00～29」は「83／AT@V」で登録した登録番号です。
※パラメータ「s」に入力できる数字は19桁までです。
※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録した相手先サブアドレスを削除します。

「92／@X」擬似なりわけサービス(発信電話番号識別機能)、擬似ナンバー・リクエストの設定

設定内容	「83／AT@V」、「91／AT@W」で登録されている回線番号およびサブアドレスから着信があったとき、ここでの設定に従って着信拒否したり、あらかじめ呼び出し音や話中着信音を指定しておくことが可能です。(擬似なりわけサービス)また、擬似ナンバー・リクエスト(発信者番号を通知してこない相手に対して)の動作も設定できます。
電話機設定書式	92 q r n
ATコマンド書式	AT@Xqr=n
パラメータ	q=00～29、99　登録番号
	r=1～2　　接続するアナログポート番号
	n=0　　着信しない
	n=1　　呼び出し音1(リーン・リーン)　　(初期値) 話中着信音(ピピッ・ピピッ)
	n=2　　呼び出し音2(リーンリン・リーンリン) 話中着信音(ピーピ・ピーピ)
	n=3　　呼び出し音3(リンリンリン・リンリンリン) 話中着信音(ピピピ・ピピピ)

MEMO

※パラメータ「q=99」では相手先が発信者番号を通知してこないときの動作を設定します。
※パラメータ「q=99」で「n=0」を設定していて、相手先が発信者番号を通知してこないときは相手先には話し中音「ツー・ツー」が流れます。
※「61／AT@M」の設定よりもここでの設定が優先されます。

「93／@Y」発信者番号通知の設定

設定内容　　発信時に、相手先に回線番号を通知するかしないかを設定します。

電話機設定書式　　93 r n

ATコマンド書式　　AT@Yr=n

パラメータ　　r=1～2　接続するアナログポート番号

n=0	NTTとの契約に従う	（初期値）
n=1	通常通知	
n=2	通常非通知	

MEMO

※NTTとの契約が「常時非通知」のときはここでの設定とは無関係に回線番号は相手に通知されません。
※相手先に通知されるのは「81／AT@T」で設定した回線番号、「81／AT@T」で何も設定していないときは契約者回線番号です。
※以下のときに相手先に電話番号が通知されます。
①パラメータ「通常通知：n=1」に設定している。
②NTTと「通話ごと非通知」の契約をしていて、パラメータ「NTTとの契約による：n=0」に設定している。
③「93／AT@Y」で「通常非通知：n=2」に設定していて、ダイヤル番号の前に「186」を付加している。
④NTTと「回線ごと非通知」の契約で、「93／AT@Y」で「NTTとの契約による：n=0」に設定していて、ダイヤル番号の前に「186」を付加している。
※以下のときに相手先に電話番号が通知されません。
①パラメータ「通常非通知：n=2」に設定している。
②NTTと「通話ごと非通知」の契約で、パラメータ「NTTとの契約による：n=0」に設定していて、ダイヤル番号の前に「184」を付加している。
③パラメータ「通常通知：n=1」に設定していて、ダイヤル番号の前に「184」を付加している。
④NTTと「回線ごと非通知」の契約で、パラメータ「NTTとの契約による：n=0」に設定してる。
※NTTのINSボイスワープ、迷惑電話お断りサービスなど発信者番号を必要とする場合は「81／AT@T」で設定してください。ここでの設定は必要ありません。

＜i・ナンバーを契約している場合＞
※ｉ・ナンバーの利用モードを設定「64／AT#M」で「ｉ・ナンバーを利用する」設定の場合は、ANALOG1【緑色-実線】から契約者回線番号、ANALOG2【緑色-点線】から追加番号を通知します。通知する回線番号は「81／AT@T」で変更できます。
※本コマンドで「通常通知」または「通常非通知」に設定した場合、ANALOG2【緑色-点線】から追加番号を通知するには「81／AT@T」と、「43／AT@I」もあわせて設定してください。これらの設定をしないと、ANALOG2【緑色-点線】からの発信でも相手先に追加番号を通知します。設定はP81～を参照してください。

⚠注意

※相手先がナンバー・リクエストを契約しているときは電話番号を通知しないと電話がつながらないことがあります。

「24／#A」音量調節の設定

設定内容	アナログポートごとに送話、受話音量を調節します。	
電話機設定書式	24 r m n	
ATコマンド書式	AT#Arm=n	
パラメータ	r=1～2	接続するアナログポート番号
	m=0	送話音量をパラメータ「n」で調節する
	m=1	受話音量をパラメータ「n」で調節する
	n=1	小さくする
	n=2	標準　　　（初期値）
	n=3	大きくする

「34／#D」フッキングのタイミング調節

設定内容	フッキングの利用、瞬断、オンフックのタイミングを選択できます。	
電話機設定書式	34 n	
ATコマンド書式	AT#Dn	
パラメータ	n=0	フッキングあり、瞬断判定200ms、オンフック判定1100ms（初期値）
	n=1	フッキングあり、瞬断判定300ms、オンフック判定1100ms
	n=2	フッキングなし、瞬断判定200ms、オンフック判定200ms
	n=3	フッキングなし、瞬断判定300ms、オンフック判定300ms

MEMO

※パラメータ「n=2、3」でフッキングなしに設定した場合、内線転送や保留、フレックスホンのキャッチ（コールウェイティング）、通信中転送、三者通話、内線転送、RVS-COMの手動転送など、フッキン必要とする機能は利用できません。

「35／#E」RVS-COMモードの設定

設定内容	FAX着信したとき、パソコン（RVS-COM）でFAXを受信する方法を設定します。	
電話機設定書式	35 q n	
ATコマンド書式	AT#Eq=n	
パラメータ	q=0～3	ダイヤルイン登録番号
	n=0	アナログポート【緑色】に接続した電話機から操作してパソコン（RVS-COM）でFAXを受信する。または、「36／AT#F」自動転送時間の設定で設定された時間、電話機で応答しなかったときにパソコンでFAXを受信する。（初期値）
	n=1	すべての着信をパソコン（RVS-COM）で受信する。

MEMO

※RVS-COMを起動してFAXを受信できる状態にしておく必要があります。
※パラメータ「n=1」にしたときは、設定した電話番号からの着信をすべてパソコン（RVS-COM）で受信しようとします。相手先から電話の着信があってもアナログポート【緑色】に接続した電話機は呼び出しません。
※フレックスホンの通信中転送、または三者通話を利用する設定にしているときや、キャッチホン（コールウェティング）などで話中着信したときは、アナログ電話機から手動操作で転送操作できません。
※RVS-COMについての情報や使い方などはRVS-COMのマニュアルを参照してください。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。
※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。
・ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。
・「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。
・「43／AT@ I」の「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号。
※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。

<i・ナンバーを契約している場合>
※かんたん利用モード（初期値）では、アナログ電話機から手動操作での転送のみ可能です。本設定は無効です。
※本コマンドでパラメータ「n=1」すべての着信をパソコン（RVS-COM）で受信する設定、または「36／AT#F」で設定された時間後に自動転送する場合にはカスタム利用モードに移行してから設定が必要です。カスタム利用モードへの移行はP73を参照してください。

「36／#F」RVS-COMへの自動転送時間の設定

設定内容　アナログポートに着信したとき、ここで指定した時間アナログポート【緑色】に接続した電話機を呼び出し、応答しなかったときパソコン(RVS-COM)に着信を転送します。

電話機設定書式　36 q n

ATコマンド書式　AT#Fq=n

パラメータ　q=0～3　ダイヤルイン登録番号

n=00	パソコン(RVS-COM)へ転送しない	(初期値)
n=01	5秒	
n=02	10秒	
n=03	15秒	
n=04	20秒	
n=05	25秒	
n=06	30秒	
n=07	35秒	
n=08	40秒	
n=09	45秒	
n=10	50秒	
n=11	55秒	
n=12	60秒	
n=13	75秒	
n=14	90秒	
n=15	105秒	
n=16	120秒	
n=17	135秒	
n=18	150秒	
n=19	165秒	

MEMO

※RVS-COMを起動してFAXを受信できる状態にしておく必要があります。
※「35／AT#E」RVS-COMモードの設定でパラメータ「n=1」にしたときはここでの設定に関係なく、すぐにパソコン(RVS-COM)でFAX受信します。
※フレックスホンの通信中転送、または三者通話を利用する設定にしているときや、キャッチホン(コールウェティング)などで話中着信したときは、アナログ電話機から手動操作で転送操作できません。
※RVS-COMについての情報や使い方などはRVS-COMのマニュアルを参照してください。
※パラメータ「q=0」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=0」との関連はありません。
※パラメータ「q=0」を指定するときは、以下の場合が該当します。
- ダイヤルイン契約をしていないときの契約者回線番号。
- 「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約したときの契約者回線番号。
- 「43／AT@ I」の 「q=1～3」に登録されていないダイヤルイン追加番号。

※パラメータ「q=1～3」は「43／AT@ I」の パラメータ「q=1～3」で登録したダイヤルイン登録番号です。

<i・ナンバーを契約している場合>

※かんたん利用モード（初期値）では、アナログ電話機から手動操作での転送のみ可能です。本設定は無効です。

※本コマンドで設定された時間後に自動転送する場合にはカスタム利用モードに移行してから設定が必要です。カスタム利用モードへの移行はP73を参照してください。

「64／#M」i・ナンバー利用モードの設定

設定内容	i・ナンバーの利用モードを設定します。	
電話機設定書式	64 n	
ATコマンド書式	AT#Mn	
パラメータ	n=0	かんたん利用モード（i・ナンバー を利用する）　（初期値）
	n=1	カスタム利用モード（i・ナンバー を利用する）
	n=2	i・ナンバーを利用しない

※初期値でi・ナンバーを利用する設定になっていますが、i・ナンバーを契約していないときでも問題なく取扱説明書の通りに動作します。

※ダイヤルインサービスとの併用はできません。

※n=1（カスタム利用モード）を設定しているとき、関連するその他のコマンドは契約者回線番号をダイヤルイン登録番号0、追加番号をダイヤルイン登録番号1として設定します。

※発信時、着信時の動作についてはP45～を参照してください。

「77／*P」ボイス機能の詳細設定

設定内容　パラメータ「q」のケースごとに音声出力する／しないを設定します。

電話機設定書式　77 q n

ATコマンド書式　AT*Pq=n

パラメータ

q=01	アナログ発信エラー時 ・エラー○○番 話し中です。 ・エラー○○番 通信できる機器がありません。 ・エラー○○番 相手先が着信を拒否しました。 ・エラー○○番 空きチャネルがありません。
q=02	アナログ着信正常時 ・××さんから電話／FAXです。 ・○○番から電話／FAXです。 ・番号非通知の電話／FAXです。 ・公衆電話から電話／FAXです。 ・番号表示圏外から電話／FAXです。 ・電話／FAXです。
q=03	アナログ回線切断時 ・切断しました。 ・相手先に切断されました。
q=04	アナログ通話料金通知（課金時） ・料金は○○円です。
q=05	アナログ通話料金通知（無課金時） ・料金はゼロ円です。
q=06	アナログ電話機から設定／設定確認時 ・設定モードです。入力してください。 ・設定確認モードです。入力してください。 ・設定されました。 ・誤りがあります。もう一度入力してください。
q=10	ディジタル通信発信正常時 ・RS-232Cポート、64kで接続しました。 ・USBポート、64kで接続しました。
q=11	ディジタル通信発信エラー時 ・接続できませんでした。 ・エラー○○番号 話し中です。 ・エラー○○番号 通信できる機器がありません。 ・エラー○○番号 相手先が着信を拒否しました。 ・エラー○○番号 空きチャネルがありません。 ・USBポート使用中です。 ・RS-232Cポート使用中です。
q=13	ディジタル通信 回線切断時 ・切断しました。 ・相手先に切断されました。
q=14	ディジタル通信料金通知（課金時） ・料金は○○円です。
q=15	ディジタル通信料金通知（無課金時） ・料金はゼロ円です。

n=0　音声出力しない
n=1　音声出力する　（初期値）

※q=02の場合
n=1～255　アナログ着信時の音声メッセージの出力回数の指定　（初期値　n=3）

MEMO

※アナログポートの設定書き込み時、同時に音声でお知らせするときは声が途切れることがあります。
※パラメータ「q」は必ず「q=01」のように2桁で設定してください。
※パラメータ「q=02」で番号非通知、公衆電話、番号表示圏外であることと、アナログ回線からの着信時に「なし／AT*S」で登録した相手先名称を声で知らせるためにはNTTとINSナンバー・ディスプレイ契約が必要です。

※パラメータ「q=02」で、アナログ正常着信時の音声メッセージの出力回数を指定します。
「n=0」で音声出力しない。「n=1～255」で出力回数指定。
※一部の携帯電話やPHSなど、接続先によって、パラメータ「q=04、14」で課金時の通信料金を音声出力する設定していても「料金はゼロ円です」とお知らせすることがあります。
※電話とFAXなど2つの着信が同時にあった場合、最初に着信した相手先の情報のみをお知らせします。
※アナログ優先モード（リソースBOD）を利用して通信したときのアナログ通信に関する情報を声でしらせることはできません。
※アナログ優先モード（リソースBOD）を利用して通信したときのアナログ通信料金は、データ通信料金と一括して知らせます。

「07／*Q」ボイス機能利用の設定

設定内容	ボイス機能を利用する／しないを設定します。	
電話機設定書式	07 n	
ATコマンド書式	AT*Qn	
パラメータ	n=0 音声出力しない	
	n=1 音声出力する	（初期値）

MEMO

※アナログポートの設定を書き込み時、同時に音声でお知らせするときは、声が途切れることがあります。
※電話とFAXなど2つの着信が同時にあった場合、最初に着信した相手先の情報のみをお知らせします。
※一部の携帯電話やPHSなど、接続先によって、パラメータ「q=04、14」で課金時の通信料金を音声出力する設定していても「料金はゼロ円です」とお知らせすることがあります。
※アナログ優先モード（リソースBOD）を利用して通信したときのアナログ通信に関する情報を声でお知らせすることはできません。
※アナログ優先モード（リソースBOD）を利用して通信したときのアナログ通信料金は、データ通信料金と一括してお知らせます。

「なし／*R」ボイス機能の設定内容表示

設定内容	ボイス機能関連の設定一覧を表示します。
電話機設定書式	なし
ATコマンド書式	AT*R
パラメータ	なし

MEMO

※本コマンドで表示されるのは「77／AT*P」、「07／AT*Q」、「なし／AT*S」です。

「なし／*S」電話帳の登録

設定内容
電話番号ごとに相手先名称を登録します。また、相手先ごとに効果音を設定します。

電話機設定書式
なし

ATコマンド書式
AT*Sn=q [*(SUB)]=[k] v

パラメータ

n=00～99	電話帳登録番号
q=数字	相手先回線番号
*	サブアドレス指定キャラクタ
(SUB)	相手先のサブアドレス
k=!00～!02	効果音
v	相手先名称（入力文字列については以下参照）

文字列対照表（効果音／ひらがな）

「k」文字列	効果音
!00	効果音 1
!01	効果音 2
!02	効果音 3

「v」文字列	相手先名称
a	あ
i	い
u	う
e	え
o	お
ka	か
ki	き
ku	く
ke	け
ko	こ
sa	さ
si／shi	し
su	す
se	せ
so	そ
ta	た
ti／chi	ち
tu／tsu	つ
te	て
to	と
na	な
ni	に
nu	ぬ
ne	ね
no	の
ha	は
hi	ひ
hu／fu	ふ
he	へ
ho	ほ
ma	ま
mi	み
mu	む
me	め
mo	も
ya	や
yu	ゆ
yo	よ
ra	ら
ri	り
ru	る
re	れ
ro	ろ
wa	わ
nn	ん
ga	が
gi	ぎ
gu	ぐ
ge	げ
go	ご
za	ざ
zi／ji	じ
zu	ず
ze	ぜ
zo	ぞ
da	だ
di	ぢ
du	づ
de	で
do	ど
ba	ば
bi	び
bu	ぶ
be	べ
bo	ぼ
pa	ぱ
pi	ぴ
pu	ぷ
pe	ぺ
po	ぽ
kya	きゃ
kyu	きゅ
kyo	きょ
sya	しゃ
syu	しゅ
syo	しょ
tya／cha	ちゃ
tyu／chu	ちゅ
tyo／cho	ちょ
nya	にゃ
nyu	にゅ
nyo	にょ
hya	ひゃ
hyu	ひゅ
hyo	ひょ
mya	みゃ
myu	みゅ
myo	みょ
rya	りゃ
ryu	りゅ
ryo	りょ
gya	ぎゃ
gyu	ぎゅ
gyo	ぎょ
jya	じゃ
jyu	じゅ
jyo	じょ
bya	びゃ
byu	びゅ
byo	びょ
pya	ぴゃ
pyu	ぴゅ
pyo	ぴょ
txi	ティ
dxi	ディ
je／jxe	じぇ

文字列対照表(数字／アルファベット)

「v」文字列	相手先名称	「v」文字列	相手先名称	「v」文字列	相手先名称	「v」文字列	相手先名称
0	0	A	ｴｰ	K	ｹｲ	U	ﾕｰ
1	1	B	ﾋﾞｰ	L	ｴﾙ	V	ﾌﾞｲ
2	2	C	ｼｰ	M	ｴﾑ	W	ﾀﾞﾌﾞﾘｭ
3	3	D	ﾃﾞｨｰ	N	ｴﾇ	X	ｴｯｸｽ
4	4	E	ｲｰ	O	ｵｰ	Y	ﾜｲ
5	5	F	ｴﾌ	P	ﾋﾟｰ	Z	ｾﾞｯﾄ
6	6	G	ｼﾞｰ	Q	ｷｭｰ		
7	7	H	ｴｲﾁ	R	ｱｰﾙ		
8	8	I	ｱｲ	S	ｴｽ		
9	9	J	ｼﾞｪｲ	T	ﾃｨｰ		

設定例

1. 電話帳登録番号「00」に、電話番号「03-1234-5678」番の「すずき」さんを登録する。
   AT*S00=0312345678=suzuki

2. 電話帳登録番号「01」に、電話番号「03-1234-5678」、サブアドレス「77」番の「さとう」さんを、効果音2で登録する。
   AT*S01=0312345678*77=!01satou

3. 電話帳登録番号「02」に、電話番号「090-1234-5678」番の「インターネット」さんを、効果音3で登録する。
   AT*S02=09012345678=!02inntaanetuto

MEMO

※[ ]内はオプションですので、省略が可能です。
※設定した内容を削除するには「AT*Sn=」で削除できます。
　電話帳登録番号「02」番に設定してある内容を削除するには、
　AT*S02= Enter
※コマンド入力し、「Enter」キーを押すと自動的に保存されます。AT@Bコマンドで保存する必要はありません。
※アナログ回線からの着信時にも登録した相手先名称を声で知らせるためにはNTTとINSナンバー・ディスプレイ契約が必要です。
※コマンド設定時に、同時に音声でお知らせするときは、声が途切れることがあります。
※パラメータ「q」で登録する相手先回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「q」に入力できる相手先の回線番号は数字は31桁までです。
※パラメータ「q」の相手先の回線番号には「数字(0〜9)」、「#」、「*」が入力できます。ただし「*」は初期値ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。
※Sレジスタ174番(P181)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは回線番号としては使用できません。

※パラメータ「*」は初期値でサブアドレス指定キャラクタに設定されていますが、Sレジスタ174番（P181）で変更しているときは、変更したサブアドレス指定キャラクタを入力してください。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスは19桁まで入力できます。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスには「アルファベット（大文字と小文字を区別）」、「数字（0～9）」を入力できます。
※パラメータ「v」の（効果音＋）相手先名称は前ページの入力文字列対照表を参照して入力します。入力できる文字列は24桁までです。効果音の設定文字列「!00」は3桁として数えます。
※パラメータ「v」で入力する相手先名称には前ページの入力文字列対照表に記載していない文字列を入力することはできません。したがって、「インターネット」のように"ー"のばす、"っ"小文字の"つ"ような読み方の名称を入力することはできません。「インタアネツト」というように入力してください。

「なし／*T」音声出力テスト

設定内容	AT*S（電話帳登録）コマンドのパラメータ「v」で入力できる文字列対照表（P111、112）から指定した文字列を音声出力します。
電話機設定書式	なし
ATコマンド書式	AT*T[k]v
パラメータ	k=!00～!02　効果音 v　相手先名称文字列（P111、112）文字列対照表参照）

MEMO

効果音も確認することができます。

設定例

1．「すずき」という名称を確認するとき。
AT*Tsuzuki

2．効果音1を確認するとき。
AT*T!00

3．効果音2＋「さとう」を確認するとき。
AT*T!01satou

アナログポートの設定

インターネットに接続しよう

本章ではインターネットへの接続する前の準備と、インターネットへの接続手順について解説します。

■インターネットに接続する前に

●パソコンの用意

インターネット接続するためにはシリアルポート(RS-232C)、またはUSBポートを搭載したパソコンが必要です。パソコンのシリアルポートに本装置を接続する場合は、インターネットに接続する回線速度に見合ったDTE速度(パソコンのシリアルポートから本装置に出される速度)が必要です。本装置の対応しているDTE速度は115.2kbpsまでとなっています。下記表を参照してパソコンのDTE速度を指定してください。

通信手順	接続する回線速度(kbps)	パソコンのシリアルポート速度(kbps)
同期	64	115．2(57．6)
	128	115．2

注意

・USBポート【白色】に接続したパソコンと、DTEポート【濃青色】に接続したパソコンからインターネットに同時接続することはできません。

・本装置はV.110などの非同期通信手順には対応しておりません。

・本装置のDTEポート【濃青色】の速度は115.2kbpsまでの対応となっています。

MEMO

◎パソコンのシリアルポートと本装置のDTEポート【濃青色】を接続してインターネット接続する場合

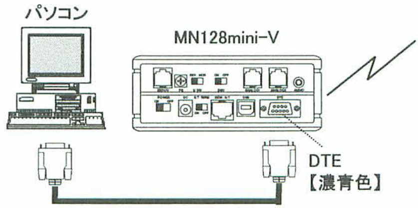
・Macintoshなど、パソコン側のシリアルポートの速度が230.4kbpsに対応している場合でも、最高115.2kbps以下の設定にしてください。DTE速度230.4kbpsは本装置では認識できません。

・128kbpsでインターネットに接続する場合、DTE速度が115.2kbpsとなりますので、若干スループットが落ちることがあります。

・回線速度64kbpsでインターネット接続するとき、パソコンのシリアルポートの対応速度が最高57.6kbpsまでの場合は若干スループットが落ちることがあります。

・対応しているDTE速度が38.4kbpsまでなどの時は接続できない場合があります。詳しくはパソコン販売店等へお問い合わせください。

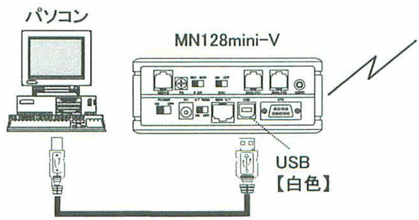
・お持ちのパソコンのDTE速度が何kbpsまで対応しているかなどに関してはパソコン販売店等へお問い合わせください。



◎パソコンのUSBポートと本装置のUSBポート【白色】を接続してインターネット接続する場合

・USBポートが使用可能な状態かどうか確認してください。詳しくはパソコンの取扱説明書を参照してください。

・パソコン本体のUSBポートと本装置のUSBポート【白色】をUSBケーブルで接続してください。USBハブなどを介して接続した場合、正常に動作しないことがあります。



●通信ソフトウェアの用意

インターネットに接続するためのソフトウェアとして、プロバイダにダイヤルするためのPPP対応の通信ソフトウェアとTCP/IPスタック、インターネット上の情報を閲覧するためのWWWブラウザ、インターネットでメールサービス等を利用する場合は、そのためのアプリケーションソフトが必要となります。

○PPP対応通信ソフトウェア

プロバイダにダイヤルしてISDN回線で接続するための通信ソフトウェアです。下表は代表的なPPP対応通信ソフトウェアの一例です。これ以外にもPPP対応通信ソフトウェアは多数存在します。お使いの、または購入予定の通信ソフトウェアでインターネットに接続できるか否かに関しては、各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェアの販売店等へお問い合わせください。

OSまたはパソコン	PPP対応ソフトウェア
Windows98/95/NT4.0	ダイヤルアップ ネットワーク
Macintosh	リモートアクセス（Open Transport/PPP）、Free PPP

MEMO

・インターネットに接続するために必要となる各種ソフトウェアは、本装置には添付しておりませんので、別途ご用意していただく必要があります。
・上記表中のWindows98/95/NT4.0用のダイヤルアップ ネットワークは基本的にOS（Windows）に標準添付されていますが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくはパソコンのマニュアルを参照する か、各パソコンの販売店等へお問い合わせください。
・Macintoshをお使いの場合、OSによってにリモートアクセス（Open Transport/PPP）が標準添付されていますが、PPP対応通信ソフトウェアが添付されていない場合、市販品を購入するか雑誌や商用ネットからシェアウェアやフリーソフトを入手する必要があります。市販品購入に関しては、ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
・「FreePPP」はフリーソフトウェアです。
・各種通信ソフトウェアの購入またはインストールなどに関してはパソコン販売店などにお問い合わせください。

○TCP/IPスタック

インターネットに接続するために必要となる標準的なプロトコルです。下表を参照してください。

OSなど	TCP/IPスタック	MEMO
Windows98/95/NT4.0	TCP/IP	基本的には標準添付ですが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくは各パソコンのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。
Macintosh	TCP/IP MacTCP	MacintoshのOS（漢字Talk）のバージョンなどによって「TCP/IP」で設定する場合と、「MacTCP」で設定する場合があります。インストールされていない場合は別途インストールが必要になる場合があります。インストールに関して、また、「TCP/IP」または「MacTCP」どちらに対応しているのか、設定方法など、詳しくは各パソコンのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。

○WWWブラウザ

回線が接続された後に、インターネットの画面を閲覧するためにはWWWブラウザが必要です。パソコン又はOSによっては標準添付されていますが、通常は、別途用意する必要があります。
ソフトウェアの購入、起動の方法などに関しては、各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、販売店等へお問い合わせください。

●プロバイダとの加入契約

インターネットに接続するためには、まずプロバイダとの契約が必要です。契約に関しての詳しいことは各プロバイダへお問い合わせください。

○プロバイダによって対応している回線種別／回線速度がちがう

対応している回線種別や通信手順、回線速度などはプロバイダによって異なります。本装置は同期64kbpsまたは128kbpsに対応しています。ISDNの同期64kbpsまたは128kbpsのアクセスポイントに対応しているプロバイダと契約しましょう。

○ ISDN回線に対応しているプロバイダと契約しよう

本装置からインターネットに接続する場合、ISDN回線に対応しているプロバイダと契約する必要があります。また、プロバイダによってはISDN回線とアナログ回線の両方に対応しているところもありますが、ISDN回線の番号にダイヤルしないと接続できません。

○アナログ対応の番号にダイヤルしても接続できません

本装置を使ってインターネットに接続する場合はISDN回線に対応している番号（プロバイダ）にしか接続できません。アナログ回線にしか対応していないプロバイダに接続するにはモデムを使う必要があります。

○対応している通信手順（同期／非同期）を確認しよう

一般的に「64kbps」や「128kbps」など高速通信は同期手順、「38.4kbps」などの通信は非同期手順です。ISDN回線に対応しているプロバイダと契約していても、非同期にしか対応していないときは接続できません。同期手順に対応したアクセスポイントの電話番号にダイヤルしてください。本装置は同期手順のみ対応しています。

○接続したい通信手順・回線速度に合わせた設定にする

接続先の通信手順／回線速度に合わせて本装置の設定を行ってください。
例えば「64kbps」の同期手順で接続したい場合、本装置でも「回線速度 64kbps ／ 同期HDLC PPP」の設定にします。

MEMO

・ISDNに対応しているか、また何kbpsまで対応しているかなど詳しいことは各プロバイダへお問い合わせください。

■ディジタルデータ通信と通信モードについて

●ディジタルデータ通信の特長

ISDNの通信では、ディジタルデータ通信とアナログ通信の着信を区別します。つまり、本装置の「DTE」ポート【濃青色】、または「USB」ポート【白色】に接続したパソコンからディジタルデータ通信をする場合、通信先も同様な構成でないと通信できません。P30の図を参照してください。また、ISDNのディジタルデータ通信はモデムを使用した時のような接続音(ピ・ポ・パ・・・)はでません。

MEMO

本装置の「DTE」ポート【濃青色】、または「USB」ポート【白色】から177番や117番、104番などアナログのみ対応している番号には接続できません。

●非同期/同期PPP自動変換

一般的にパソコンのシリアルポートは同期通信に対応していません。本装置はパソコンのシリアルポートまたはUSBポートからの非同期PPPデータを同期信号(HDLCフォーマット)に変換して回線側に送り、回線側からの同期(HDLCフォーマット)データを非同期PPPデータに変換してパソコンへ送ります。これにより、64kbpsまたは128kbpsの同期通信が可能となります。PPP(Point to Point Protocol)とはRS-232C(パソコンのシリアルポート)、またはUSBポートからインターネットに接続するときに使用するプロトコルです。

◎HDLC(PPP)モード　---「AT&Q5」---

回線速度が64kbpsまたは128kbpsのとき、パソコンのシリアルポート、またはUSBポートから送られてきた非同期PPPデータをHDLCフォーマットに変換し、回線側から送られてきたHDLCフォーマットデータを非同期PPPデータに変換します。

◎HDLC(PPP)/DTRモード　---「AT&Q6」---

基本的な動作はHDLC(PPP)モードと同様ですが、パソコンのDTR信号がOFF～ONに切り替わったときに「AT&Z」(回線番号の登録、消去)で登録番号"0"に登録されている回線番号に発信してHDLCフォーマットで通信します。

●MP(Multilink Protocol)通信

MP通信は、2つのBチャネルを同時に使用して、128kbpsで通信を可能にするためのプロトコルです。本装置から128kMPで発信したとき、はじめに64kbpsで通信し、発信側/着信側両方のBチャネルが空いているときに2つ目のBチャネルを接続します。

MEMO

・接続先がMP通信をできないときは64kbps通信となります。
・認証を行うとき、接続先の認証方式は「PAP」または「CHAP」をサポートし、「CHAP」を利用するときは本装置の「AT!M」で「ユーザ名」「パスワード」を設定してください。
・通常2つのBチャネルを使用しているときは、アナログポートに接続しているアナログ電話機などでは通信できませんが、本装置ではアナログ機器を優先して使用することができる(リソースBOD)ので、128kMP通信を行っていてもアナログ着信や発信を行うことができます。P43、84を参照してください。

●通信モードと回線速度

Windows98/95/NT4.0また、MacOSでリモートアクセス(Open Transport/PPP)のようなCCLファイルを利用するソフトウェアを使用する場合は添付のCD-ROMから設定ファイルを登録してください。設定ファイルには下記に説明する必要な設定情報が記述してあるので、設定ファイルを登録した場合は別途設定は必要ありません。設定ファイルの登録方法についてはP124~を参照してください。
インターネット(ディジタルデータ通信)へ接続するために必要な設定を以下に記述します。

設定項目	説　明	コマンド
通信モード	「HDLC通信モード」の設定	AT&Q
回線速度	「64kbps」「128kbps」いずれか接続したい回線速度を選択	AT$S
DTE速度	本装置はDTE速度自動判別ですので、本装置では設定の必要はありません。お持ちの通信ソフトウェアで設定してください	―――

「通信モード」/「回線速度」の設定例は以下表参照してください。

回線速度	通信モード	初期化コマンド
64kbps	同期 HDLC PPP	AT&F&Q5$S12¥Q3
128kbps	同期 MP	AT&F&Q5$S12!H1¥Q3 または AT&F&Q5$S14!H2¥Q3

⚠注意

※プロバイダによっては本装置では対応していない非同期通信手順に対応しているところもありますが、本装置は非同期通信手順には対応していません。

◎本装置のDTEポート【濃青色】とパソコンのシリアルポートを接続する場合

・通信ソフトウェア側と本装置側のフロー制御の設定を合わせる必要があります。上記初期化コマンド例内の「¥Q3」は本装置のフロー制御の設定を「RTS/CTS」にしています。通信ソフトウェア側の設定も「RTS/CTS」にしてください。Windowsのダイヤルアップネットワークの場合、「フロー制御使う」にチェックし、「ハードウェア(RTS/CTS)」が初期値になっていますのでそのまま通信してください。Macintoshの場合は「CTS only」、または「CTS&RTS(DTR)」を選択してください。

■インターネットに接続しよう

●Windows98編

本装置のDTEポート【濃青色】とパソコンを接続する場合は、USBドライバのインストールは必要ありません。P124の「設定ファイル(infファイル)を登録する」に進んでください。

○USBドライバをインストールする

本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続してインターネットを利用する場合、添付のCD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。

MEMO　USBポート【白色】から通信する場合

※本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続して通信する場合の動作確認OSはWindows98日本語版、またはMacOS8.5J以降です。これ以外のOSでは動作保証できません。
※PC-9821シリーズや、DOS/V以外のパソコンなどではご利用になれません。また、Windows98がインストールされているDOS/Vパソコンでも、お使いの環境によっては正しく動作しないことがあります。
※Windows95からWindows98へアップグレードしたパソコンでは正しく動作しない場合があります。Windows98プリインストールのパソコン、または、Windows98を新規インストールしたパソコンをお勧めします。ただし、パソコンメーカがWindows98での動作保証をしていないパソコンでは、正常に動作しない場合があります。

◎Windows98にUSBドライバをインストールする

本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続して通信するためには、本装置に添付のCD-ROMからUSBドライバのインストールが必要です。予め付属のCD-ROMをご用意ください。
下記手順でインストールしてください。

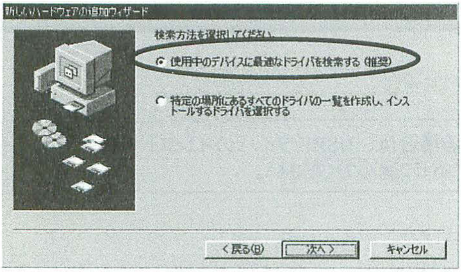
※画面はパソコンの環境によって画面表示が異なる場合があります。

(1)付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。

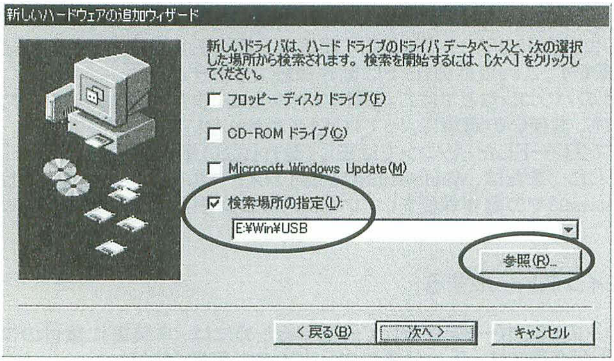
(2)本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続します。

(3)新しいハードウェア「MN128mini-V」の画面が表示され、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されますので、「次へ」をクリックします。

(4)「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」にチェックし、「次へ」をクリックします。



(5)「検索場所の指定」ボタンにチェックし、「参照」ボタンをクリックしてCD-ROMドライブ内の「Win」→「USB」フォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックします。「検索場所の指定」に選択したフォルダが表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。



(6)「ドライバのある場所」で選択したフォルダが表示されるので確認して、「次へ」ボタンをクリックします。

(7)インストール完了したことが表示されるので「完了」ボタンをクリックします。

(8)「次の新しいドライバを検索しています　Virtual USB COM port」が表示されるので、「次へ」ボタンをクリックします。

(9)「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」にチェックし、「次へ」をクリックします。

(10)「参照」ボタンをクリックし、CD-ROMドライブ内の「Win」→「USB」フォルダを選択し、「OK」ボタンをクリックし、「検索場所の指定」に選択したフォルダが表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。

(11)「ドライバのある場所」で選択したフォルダが表示されるので確認して、「次へ」ボタンをクリックします。

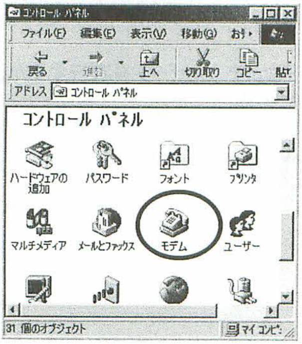
(12)「MN128mini-V Virtual COM Port」のインストール完了したことが表示されるので「完了」ボタンをクリックします。

○設定ファイル（infファイル）を登録する

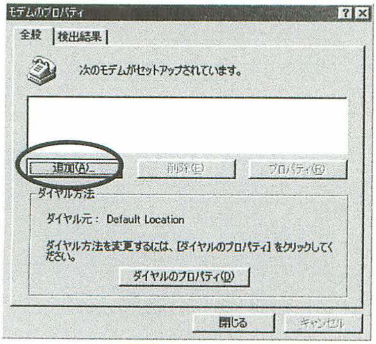
・あらかじめ、付属のCD-ROMをご用意ください。
・画面はパソコンの環境によって多少画面表示が異なる場合があります。
・Windows98/95でインターネットに接続する場合、添付CD-ROMから設定ファイル（infファイル）を登録するだけで本装置を認識できます。
・infファイルを登録する場合、ATコマンドで設定している内容を一旦初期化して、通信が終了したときに元状態に戻します。infファイルの内容と別の設定が必要なときは、P137を参照して追加設定をしてください。

（1）付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットしてください。

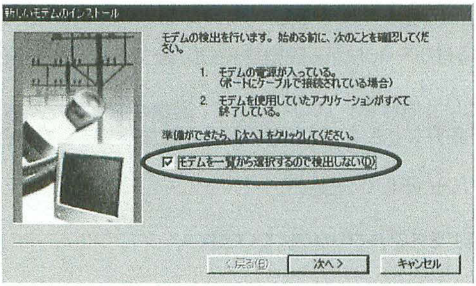
（2）「スタート／設定／コントロールパネル／モデム」をダブルクリックしてください。



（3）「モデムのプロパティ」のウィンドウから「追加」をクリックします。



(4)「モデムウィザード」のウィンドウから「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。



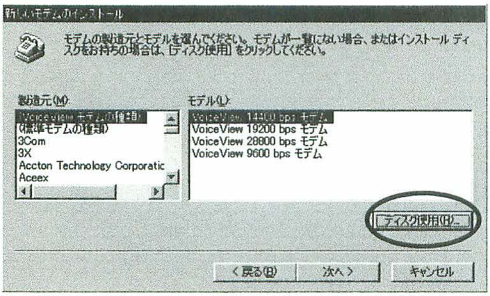
MEMO

パソコンの環境によっては以下の画面が表示されることがあります。

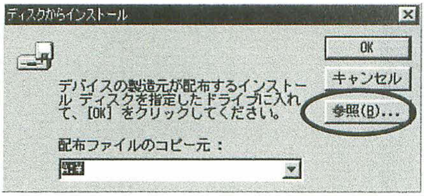
①インストールするモデムの種類を選択する画面
○PCMCIAモデムカード
◉その他
この場合は「その他」を選択して次へ進んでください。

②ハードウェアウィザードを実行するかどうかの選択画面
◉ハードウェアウィザードを実行しない
にチェックして次へ進んでください。

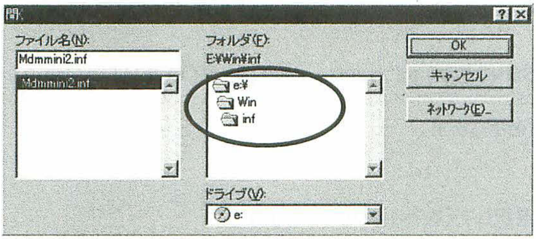
(5)モデム一覧が表示されますが、「ディスク使用」をクリックします。



(6)「ディスクからインストール」のウィンドウから「参照」をクリックします。

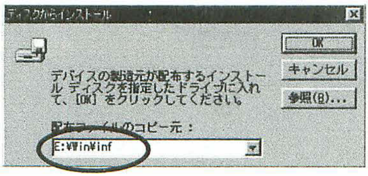


(7)「開く」のウインドウで、CD-ROMドライブを選択し、「win」フォルダが表示されるので ダブルクリックします。「inf」フォルダが表示されるのでダブルクリックして「mdmmini2.inf」を選択し、「OK」をクリックします。

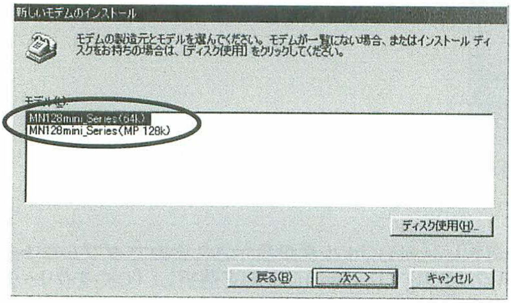


※パソコンによってCD-ROMドライブ名などの表示は異なります。

(8)「win」→「inf」フォルダが選択されたことを確認して「OK」をクリックします。



(9)「モデムウィザード」のウインドウの中に「MN128mini_Series(64k)」、「MN128mini_Series(MP128k)」の2つのモデルが表示されますので、どちらかを選択して「次へ」をクリックします。

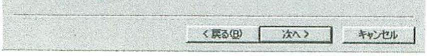


MEMO

※64kbpsで接続したいときは「MN128mini_Series(64k)」を、128kbpsで接続したいときは「MN128mini_Series(MP128k)」を選択してください。
※ここでは64kbpsで接続するときの設定例を示します。

(10)MN128mini-Vを接続するCOMポート選択して「次へ」をクリックします。

◎シリアルポートに本装置を接続するとき
通信ポート(COM＊)を選択してください。



◎USBポートに本装置を接続するとき
「MN128mini-V」を選択してください。

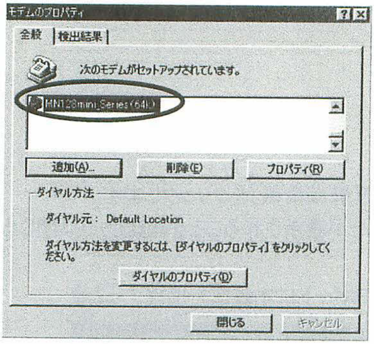


⚠注意

<DTEポート【濃青色】にパソコンを接続するとき>
※この例ではパソコンのシリアルポート(COMポート1)に接続したい場合を表示しています。
※シリアルポートがCOM1／COM2どちらなのか分からない場合は、パソコンのマニュアルを参照するか、パソコンメーカなどにお問い合わせください。
<USBポート【白色】にパソコンを接続するとき>
※付属のCD-ROMからUSBドライバのインストールが必要です。インストール方法はP122を参照してください。

(11)モデムは正常にセットアップされました。というメッセージが表示されますので、「完了」をクリックします。

(12)「モデムのプロパティ」のウィンドウに戻り、セットアップされた「MN128mini_Series(64k)」が選択されている状態で、「プロパティ」をクリックします。



(13)「MN128mini_Series(64k)のプロパティ」のウィンドウで、「ポート」、「最高速度」の設定が正しいことを確認(間違っている場合は修正)し、「OK」をクリックします。

◎シリアルポートに本装置を接続するとき



◎USBポートに本装置を接続するとき

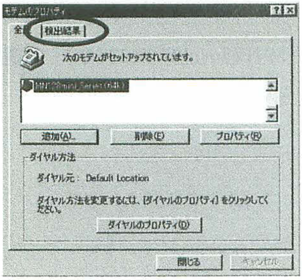


⚠注意

●DTEポート【濃青色】にパソコンを接続するとき
回線速度が64kbpsまたは128kbpsで接続するにはDTE速度(パソコン等のシリアルポートから本装置に出される速度)115,200bpsを推奨します。パソコンのDTE速度が57,600bpsまでしか対応していないときは57,600を選択してください。

●USBポート【白色】にパソコンを接続するとき
選択するポート「MN128mini-V」は、MN128mini-Vとパソコンが付属のUSBケーブルで接続されていないときや、MN128mini-Vの電源がOFFになっているときは認識されません。

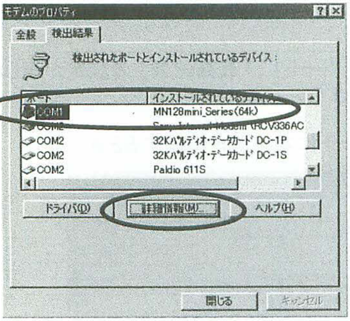
(14)モデムのプロパティの画面で「検出結果」タブをクリックしてください。



(15)MN128mini-Vで使用するCOMポートを選択した状態で「詳細情報」をクリックします。

※ USBポートで通信する場合は検出結果に「MN128mini-V」が表示されることを確認したら「閉じる」をクリックします。

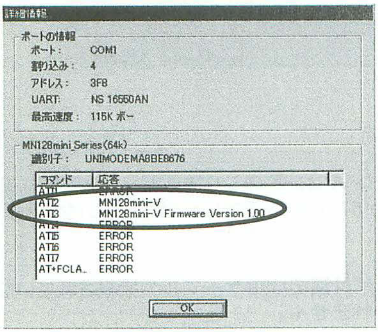
◎シリアルポートに本装置を接続するとき



◎USBポートに本装置を接続するとき



(16)「詳細情報」の画面で、「ポート情報」にMN128mini-Vを利用するポートが表示され、下記のように「ATI2」で製品名と「ATI3」で現在のファームウェアのバージョンを表示することを確認し、すべての画面を「OK」をクリックします。



MEMO USBポートに本製品を接続する場合は

Windowsでは、ポート名がCOM*という名前でないと、詳細情報を表示することができません。USBポートから通信する場合は、ポート名が「MN128mini-V」で登録されるので、詳細情報をクリックすると、「ポートが開けません」というメッセージが表示されます。
USBポートから本装置が認識されているかを確認する場合は、ATコマンドで「ATI2」と入力してください。入力方法は、P64～を参照してください。

○ネットワークの設定

（1）「コントロールパネル」 の「ネットワーク」をダブルクリックします。



（2）「ネットワーク」のウィンドウから「TCP/IP」を選択し、「プロパティ」をクリックします。

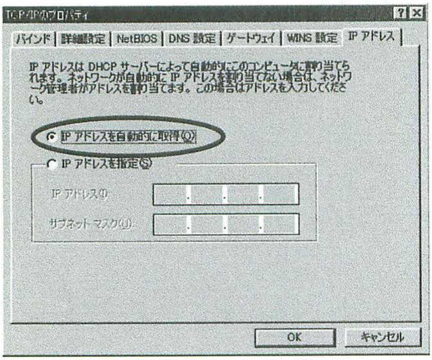


MEMO

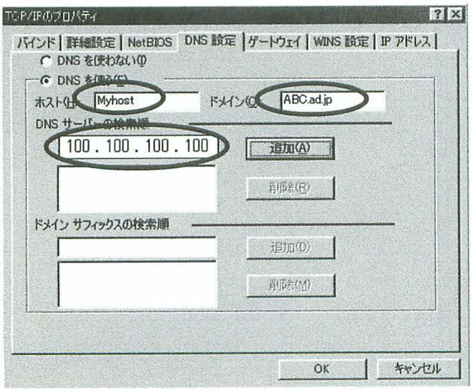
※TCP/IPが無い場合は、「スタート／設定／コントロールパネル／ネットワーク」を開き、「追加」ボタンをクリッ クします。「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリック。「製造元(M)：」で「Microsoft」、「ネットワークプロトコル：」で「TCP/IP」を選択し、「OK」をクリックすると追加されます。
ダイヤルアップアダプタが無い場合は、「スタート／設定／コントロールパネル／ネットワーク」を開き、追加」ボタンをクリックします。「アダプタ」を選択し、「追加」ボタンをクリック。「製造元(M)：」で「Microsoft」、「ネットワークアダプタ：」で「ダイヤルアップアダプタ」を選択し、「OK」をクリックすると追加されます。 詳細はパソコンのマニュアルを参照するか、パソコンの販売店等へお問い合わせください。

※ TCP/IPの項目が複数有る場合は“TCP/IP　→　ダイヤルアップ　アダプタ”を選択します。

(3)「TCP/IPのプロパティ」のウィンドウの「IPアドレス」のタブで、「IPアドレスを自動的に取得」に チェックされていることを確認し、「DNS設定」のタブをクリックします。



(4)「DNS設定」のタブで、適当な名前のホスト名(この例ではMyhost)、契約されているプロバイダ の ドメイン名(この例ではABC_netがプロバイダ)、DNSサーバのIPアドレスを入力し、「追加」をクリック してから「OK」をクリックします。



(5)「ネットワーク」のウィンドウに戻るので「OK」をクリックすると、「再起動しますか？」のメッセージが表示されるので、「はい」をクリックし、再起動してください。

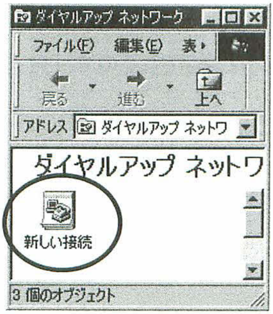


○プロバイダにダイヤルアップ接続する

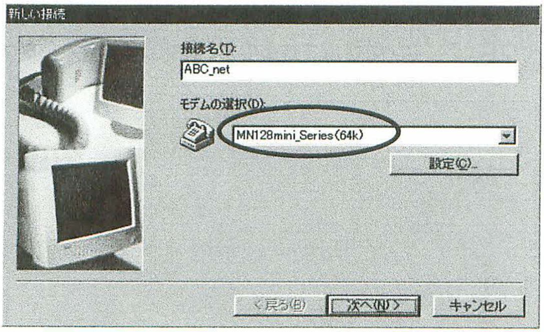
（1）「マイコンピュータ／ダイヤルアップ ネットワーク」を開き、「新しい接続」のアイコンをダブルクリックします。

MEMO

ダイヤアップネットワークが無い場合、「マイコンピュータ／コントロールパネル／アプリケーションの追加と削除」を開き、「Windowsファイル」のタブをクリックします。「ファイルの種類(C)：」で「通信」にチェックし、「詳細(D)：」ボタンをクリックします。「ダイヤルアップネットワーク」にチェックして「OK」をクリックすると、ダイヤルアップネットワークが追加されます。詳細はパソコンのマニュアルを参照するか、パソコン販売店等にお問い合わせください。

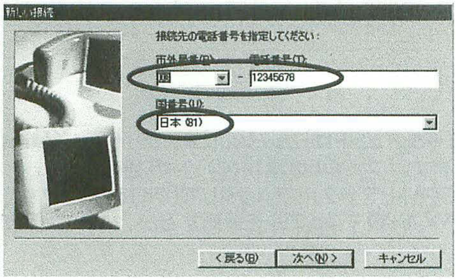


（2）「新しい接続」のウィンドウで、適当な接続名を入れ、「モデムの選択」でMN128mini_Series（64k）を選択し、「次へ」をクリックします。

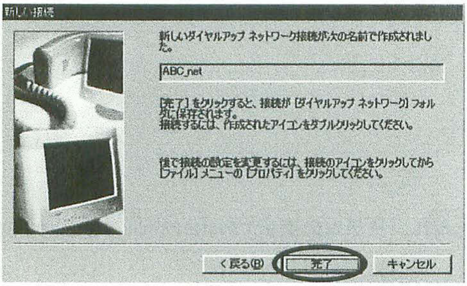


インターネットに接続しよう

(3)「新しい接続」のウィンドウで、接続先プロバイダの電話番号を入力し、国番号を日本に変更し「次へ」をクリックします。



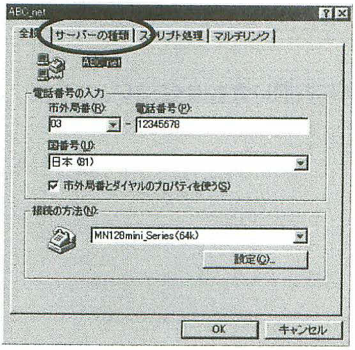
(4)「新しいダイヤルアップネットワーク接続が次の名前で作成されました」と表示されるので、「完了」をクリックします。



(5)「ダイヤルアップネットワーク」のウィンドウに、アイコンが作成されるので、選択してマウスを右クリックし、「プロパティ」を選択します。



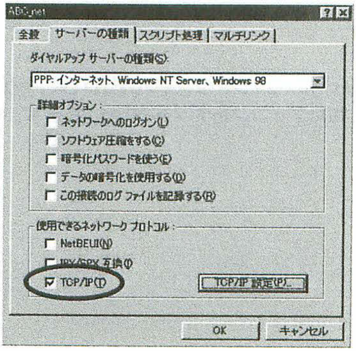
(6)「サーバの種類」をクリックします。



(7)「サーバの種類」 のウィンドウで、「TCP/IP」だけにチェックし、「 TCP/IP設定」ボタンをクリックします。

⚠注意

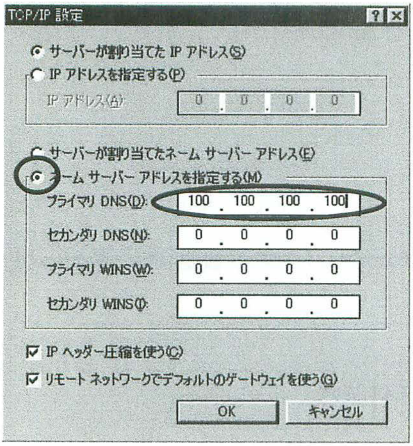
チェックする項目に関しての詳細はプロバイダへ確認してください。



(8)「TCP/IP設定」のウィンドウで「サーバが割り当てたIPアドレス」にチェックされていることを確認し、「ネームサーバーアドレスを指定」にチェックしてDNSのアドレスを入力し、「OK」をクリックします。

⚠注意

DNSのアドレスが分からない場合は契約されているプロバイダにお問い合わせください。



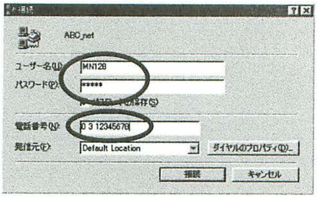
(9)「サーバの種類」、「作成したウィンドウ(この例ではABC_net)」のウィンドウをそれぞれ「OK」をクリックし、「ダイヤルアップネットワーク」のウィンドウ内の作成されたアイコンをダブルクリックします。



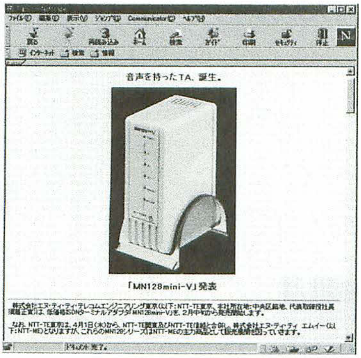
（10）「接続」のウィンドウで、契約しているプロバイダに接続するためのユーザ名、パスワード、電話番号を入力し、「接続」ボタンをクリックします。

⚠注意

ユーザ名もしくはパスワードが分からない場合は契約されているプロバイダにお問い合わせください。



（11）「ダイヤルアップ　ネットワーク」のウィンドウで、64000bpsで接続と表示されれば正常接続されました。この状態で、お使いのブラウザを起動し、URLを入力すればインターネット画面を閲覧できます。



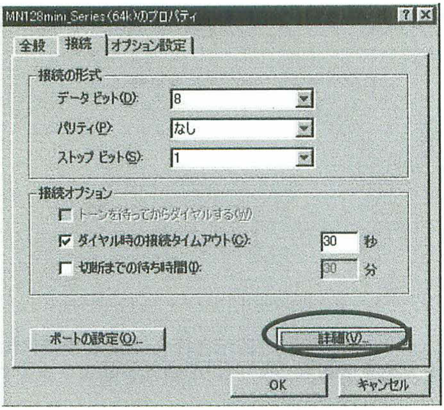
MEMO

◎シリアルポートからインターネット接続する場合
ボイス機能で電話着信時に相手先名称などをお知らせしているときに、インターネット接続した場合、ボイス機能で情報を知らせてからプロバイダにダイヤルします。

◎USBポートからインターネット接続する場合
※通信中にUSBケーブルを抜いたり、本装置の電源をOFFにした場合、パソコンが停止することがあります。
※MN128mini-Vの電源がOFFのときや、電源がONの状態でもUSBケーブルが接続されていない時に接続すると、パソコンが停止したり、ダイヤル中の状態で停止してしまうことがあります。その場合は、パソコンを再起動し、MN128mini-Vの電源を入れ直してください。

○Windows98/95でコマンドの追加設定をする

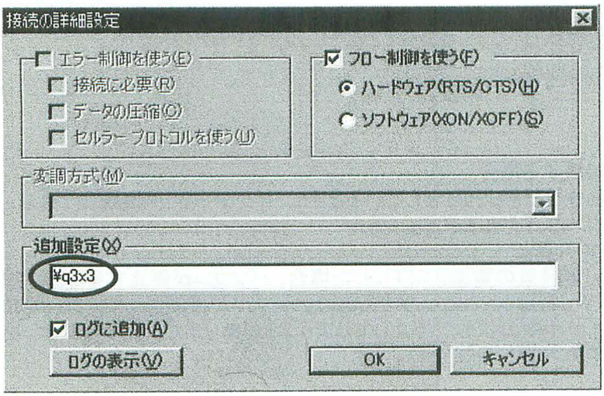
(1)P124の手順(5)を行ったあと、(6)の画面で、「設定」をクリックし、「MN128mini_Series(64k)のプロパティ」の画面で「接続」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。



(2)「接続の詳細設定」の画面の追加設定の欄に追加コマンドを入力します。

MEMO

この例では、
「x3」 ──→ 応答コード3にする
「¥q3」 ──→ フロー制御を「RTS/CTS」にする
を追加コマンドとして入力しています。
「応答コード3」についてはP198を参照してください。



●WindowsNT4.0での設定

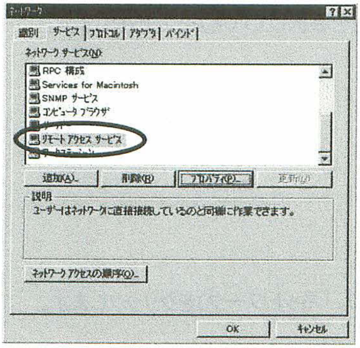
○設定ファイル（infファイル）を登録する

・Windows98/95の設定方法と同じです。P124～129の手順（1）～（16）を参照してください。
・予め、付属のCD-ROMをご用意ください。
・WindowsNT4.0でインターネットに接続する場合、添付CD-ROMから設定ファイル（infファイル）を登録するだけで本装置を認識できます。
・infファイルを登録する場合、ATコマンドで設定している内容を一旦初期化して、通信が終了したときに元状態に戻します。infファイルの内容と別の設定が必要なときは、P137を参照して追加設定をしてください。
・WindowsNT4.0の場合、P128のWindows98/95の設定手順（13）で、シリアルポートが表示されないときは、「コントロールパネル」でシリアルポートを追加してください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。
・WindowsNT4.0では、本装置のUSBポート【白色】から通信できません。DTEポート【濃青色】にパソコンを接続してください。

○リモートアクセスのセットアップ

設定ファイルの登録完了後、「ダイヤルアップネットワークを今すぐ構成しますか」というメッセージが表示されたときは（2）へ進んでください。

（1）「コントロールパネル／ネットワーク」で「サービス タブ／リモートアクセスサービス」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



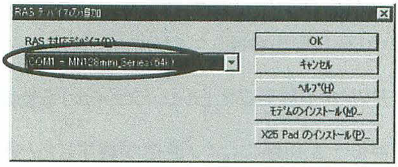
（2）「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウで「追加」ボタンをクリックします。



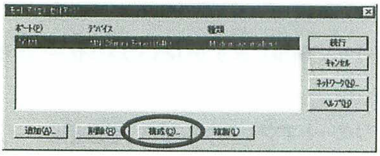
MEMO

ご使用の環境によって表示されないことがあります。

(3)登録したデバイスを選択して「OK」します。この例では「MN128mini_Series(64k)」が選択されます。

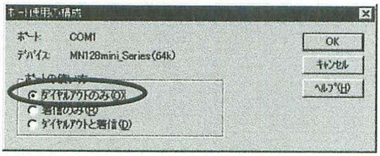


(4)「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウにMN128min_Series(64k)のデバイスが追加されたことを確認し、「構成」をクリックします。



(5)「ポート使用の構成」のウィンドウで「ダイヤルアウトのみ」を選択して「OK」をクリックします。

シリアルポートに本装置を接続するとき



(6)「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウに戻りますので、「ネットワーク」をクリックします。

(7)「TCP/IP」を選択し「OK」をクリックします。



（8）「リモートアクセスセットアップ」のウィンドウに戻りますので「続行」ボタンをクリックします。

（9）「ネットワーク」のウィンドウで「閉じる」をクリックすると「今すぐコンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されるので、パソコンを再起動します。

○プロバイダにダイヤルアップ接続する

MEMO

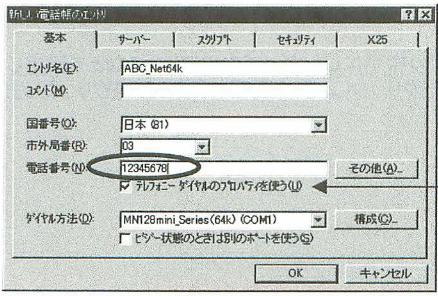
・「コントロールパネル／ネットワーク」に「TCP/IP」がないときは「追加」ボタンをクリックしてインストールしてください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。
・「マイコンピュータ／ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックしてインストールが必要である旨の画面が表示されるときはインストールしてください。詳しくはパソコンのマニュアルを参照してください。
※WindowsNT4.0のCD-ROMが必要になる場合があります。

（1）「マイコンピュータ／ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックすると、「電話帳は空です。エントリを追加するには「OK」をクリックしてください。」というメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

MEMO

お使いの環境によっては（1）の画面が表示されずに、「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されることがあります。そのときは「新規」をクリックし、手順（2）へ進んでください。

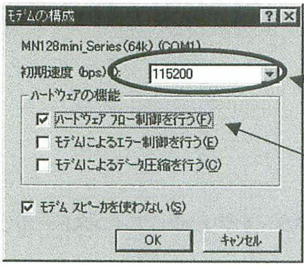
（2）適当なエントリ名、相手先の電話番号を入力し、ダイヤル方法で「リモートアクセス」のセットアップ時に登録した、「MN128mini_Series（64k）」などを選択して「構成」をクリックします。



MEMO

※電話番号にはインターネットに接続するときは、契約しているプロバイダの64kまたは128kMP用アクセスポイントの電話番号を入力します。
※ご使用の環境によっては、新しい電話帳ｴﾝﾄﾘ名を入力する画面が表示される場合があります。そのときはｴﾝﾄﾘ名を入力して「電話帳ｴﾝﾄﾘについてはよく知っているので、ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨを直接編集したい」にチェックして「次へ」をクリックします。
※「ﾃﾚﾌｫﾆｰﾀﾞｲﾔﾙのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨを使う」にﾁｪｯｸされていないときは、「国番号」と「市外局番」の欄が表示されませんので、「電話番号」の欄に市外局番から入力してください。

(3)初期速度で「115200」が選択されていることを確認して「OK」をクリックします。

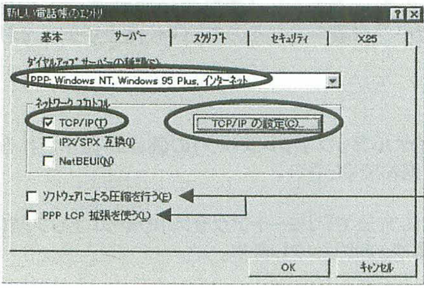


MEMO

※お使いのパソコンのDTE速度が57.6kbpsまでしか対応していない場合は57600を選択してください。詳しくはパソコン販売店などへお問い合わせください。

※契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。

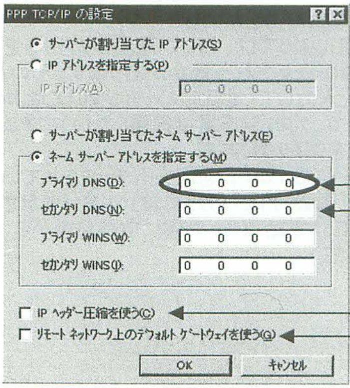
(4)「サーバー」タブをクリックし、「ダイヤルアップサーバーの種類」で「PPP:WindowsNT・・」を選択し、ネットワークプロトコルで「TCP/IP」にチェックし、「TCP/IPの設定」をクリックします。



MEMO

契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。

(5)「サーバーが割り当てたIPアドレス」にチェックし、プロバイダの指示にしたがってDNSアドレスなどを設定して「OK」をクリックします。(4)の画面に戻るので、「OK」をクリックし、次の画面で「閉じる」をクリックします。



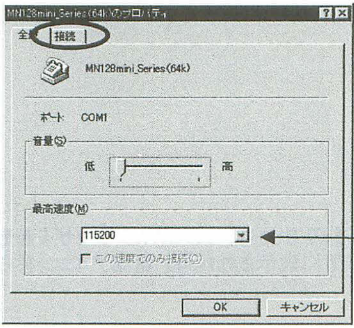
MEMO

契約しているプロバイダの指示に従って設定してください。

(6)「コントロールパネル／モデム」をダブルクリックし、リモートアクセスのセットアップ時に登録したデバイスを選択して「プロパティ」をクリックします。



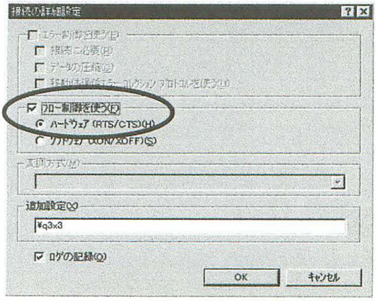
(7)最高速度で「115200」を選択して「接続」タブの「詳細」をクリックします。



MEMO

お使いのパソコンのDTE速度が57.6kbpsまでしか対応していない場合は57600を選択してください。詳しくはパソコン販売店などへお問い合わせください。

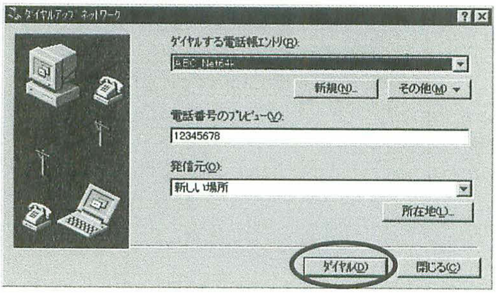
(8)契約しているプロバイダの指示に従って、「フロー制御を使う」のチェックをし、「OK」、「OK」、「閉じる」の順に進みます。



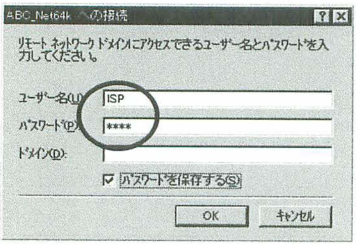
MEMO

追加ATｺﾏﾝﾄﾞを入力するすることができます。
ここでは
「¥q3」→フロー制御を「RTS/CTS」にする。
「x3」→応答コード3にする。
を設定しています。
「応答コード3」についてはP198を参照してください。

(9)「マイコンピュータ／ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックし、登録したエントリ名を選択、接続先の電話番号を確認して「ダイヤル」をクリックします。



(10)契約しているプロバイダの指示にしたがって「ユーザ名」、「パスワード」、「ドメイン」を設定し、「OK」をクリックします。



(11)正常に接続すると、「接続の完了」メッセージが表示されますので、お持ちのWWWブラウザを起動してインターネット画面を閲覧することができます。画面右下に表示された 電話アイコンを右クリックし、「切断」を選択すれば回線を切断します。

●Macintosh編

本装置のDTEポート【濃青色】とパソコンを接続する場合は、USBドライバのインストールは必要ありません。P145の「ソフトウェアの準備」に進んでください。

○USBドライバをインストールする

本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続してインターネットを利用する場合、添付のCD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。

MEMO　USBポート【白色】から通信する場合

※本装置のUSBポート【白色】とパソコンのUSBポートを接続して通信する場合の動作確認OSはWindows98日本語版、またはMacOS8.5J以降です。これ以外のOSでは動作保証できません。

iMacのUSBポートから通信する場合、MacOS8.5／8.5.1でMacOS ROM J1-1.2.1 以外のときは、下記からiMac Firmwareアップデート1.0とiMacアップデート1.1を実行してください。
http://www.apple.co.jp/imac/index.html

◎MacintoshにUSBドライバをインストールする

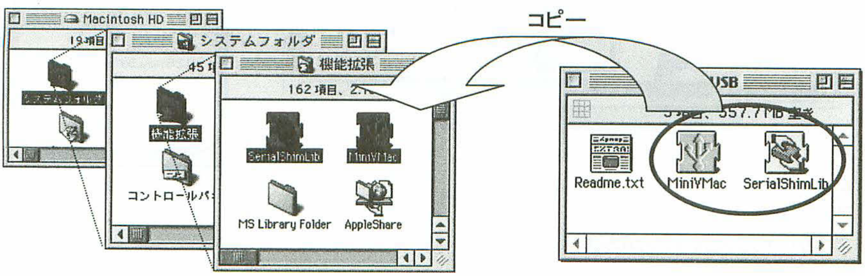
本装置のUSBポート【白色】とMacintoshのUSBポートを接続して通信するためには、本装置に添付のCD-ROMからUSBドライバのインストールが必要です。予め付属のCD-ROMをご用意ください。
下記手順でインストールしてください。

(1) 付属のCD－ROMをMacintoshのCD－ROMドライブにセットしてください。

(2) CD－ROM内の「MAC」フォルダの中の「USB」フォルダを開いてください。

(3) 「USB」フォルダの中の「MiniVMac」、「SerialShimLib」の2つのファイルをハードディスク内の「システムフォルダ」にコピーしてください。

MacOS8.6J以降の場合、最新の「SerialShimLib」がすでにインストールされていますので、付属CD-ROMから「SerialShimLib」のコピーをする必要はありません。「MiniVMac」のみコピーしてください。



○ソフトウェアの準備

・TCP/IP（MacOSのバージョンによっては「MacTCP」）
コントロールパネルの中にTCP/IP（MacTCP）がなければインストールが必要です。

・PPP通信ソフト
MacOSに添付されている「リモートアクセス（Open Transport/PPP）」を利用するか、「FreePPP」などのフリーソフト、または市販のソフトウェアをご用意ください。

MEMO

ソフトウェアの入手方法やインストール方法などは各ソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

○ リモートアクセス（Open Transport/PPP（V2.0.1））のとき

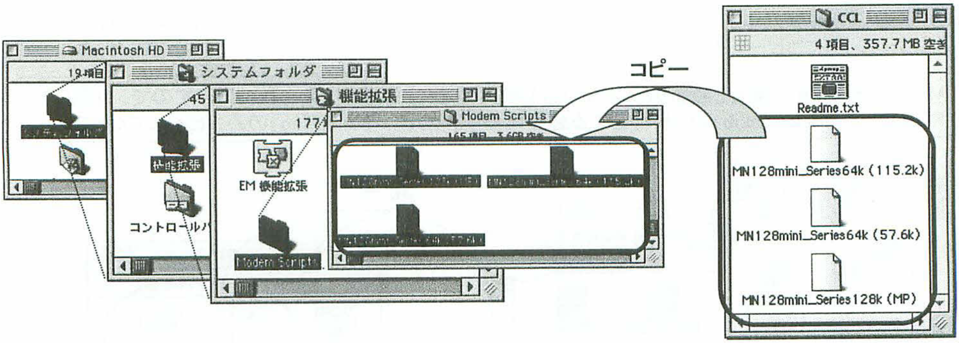
リモートアクセスを利用してインターネットに接続するには付属のCD-ROMからCCLファイルのインストールが必要です。予め付属のCD-ROMをご用意ください。
下記手順でインストールしてください。

※ご使用の環境によってフォルダ名が異なる場合があります。その時は、該当するフォルダにコピーしてください。

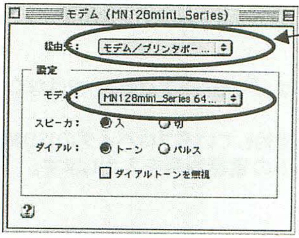
（1）付属のCD-ROMをMacintoshのCD-ROMドライブにセットしてください。

（2）CD-ROM内の「MAC」フォルダの中の「CCL」フォルダを開いてください。

（3）「CCL」フォルダの中の「MN128mini_Series64k (115.2k)」、「 MN128mini_Series64k (57.6k)」、「MN128mini_Series128k (MP)」の3つのファイルをハードディスク内の「システムフォルダ／機能拡張／Modem Scripts」にコピーしてください。



(4)「コントロールパネル」の「モデム」で「MN128mini_Series64k(115k)」、「経由先:」を選択しをクローズボックスをクリックし、「保存」します。



◎本装置のDTEポート【濃青色】から通信するとき
「経由先:」で「モデム/プリンタポート」を選択します。

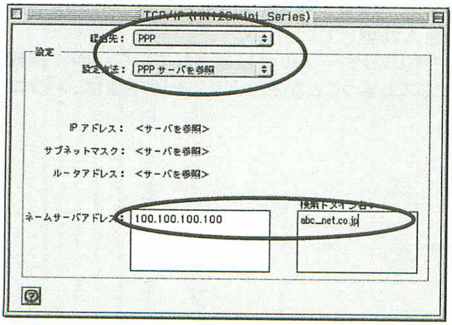
※経由先は、ご利用のパソコンによって「モデムポート」、「プリンタポート」、「モデム/プリンタポート」など表示が異なる場合があります。

◎本装置のUSBポート【白色】から通信するとき
「経由先:」で「MN128mini-V」を選択します。

MEMO

※本装置のUSBポートが通信するときに選択するポート「MN128mini-V」は、MN128mini-Vとパソコンが付属のUSBケーブルで接続されていないときや、MN128mini-Vの電源がOFFになっているときは認識されません。
※お持ちのMacintoshのシリアルポート速度が57.6kbpsまでしか対応していないときは「MN128mini_Series64k(57.6k)」を選択してください。
※128kbpsMP通信を行うときは「MN128mini_Series128k(MP)」を選択してください。

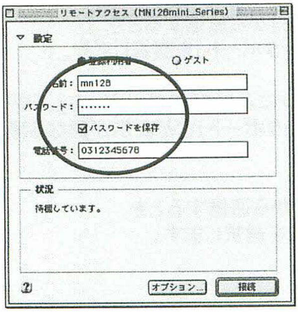
(5)「コントロールパネル」の「TCP/IP(MacTCP)」を選択し、「経由先:」で「PPP」を選択します。
「設定方法:」で「PPPサーバを参照」を選択します。「ネームサーバアドレス」や「ドメイン名」などは契約しているプロバイダの指示にしたがってください。クローズボックスをクリックし、「保存」します。



MEMO

※契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。
※MacTCPのときは表示される画面が異なります。

(6)「コントロールパネル」の「リモートアクセス」を選択し、契約しているプロバイダの指示にしたがって「ユーザ名」「パスワード」「電話番号」を入力し、「接続」をクリックします。



MEMO

※ご使用のパソコンの環境によっては、「リモートアクセス」ではなく、「PPP」と表示されます。
※インターネットに接続するときは、契約しているプロバイダのISDN64kまたは128kMP用のアクセスポイントの電話番号を入力します。

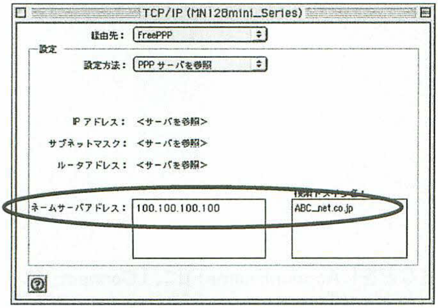
(7)正常に接続されると64kで接続した旨の画面が表示され、「接続」が「解除」に変わります。
WWWブラウザを起動すればインターネット画面を閲覧できます。「解除」ボタンをクリックすると回線を切断します。

MEMO

◎モデムポートからインターネット接続した場合
ボイス機能で電話着信時に相手先名称などを知らせているときに、インターネット接続した場合、ボイス機能で情報を知らせてからプロバイダにダイヤルします。
◎USBポートからインターネット接続する場合
・通信中にUSBケーブルを抜いたり、本装置の電源をOFFにした場合、パソコンが停止することがあります。その場合は、パソコンを再起動し、MN128mini-Vの電源を入れ直してください。
・MN128mini-Vの電源がOFFのときや、電源がONの状態でもUSBケーブルが接続されていない時に接続すると、パソコンが停止したり、ダイヤル中の状態で停止してしまうことがあります。その場合は、パソコンを再起動し、MN128mini-Vの電源を入れ直してください。

○ FreePPP(2.6.2)のとき

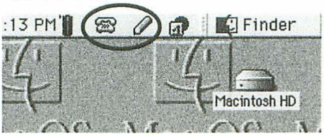
(1)「コントロールパネル」の「TCP/IP(MacTCP)」を選択し、「経由先:」で「FreePPP」を選択します。
「設定方法:」で「PPPサーバを参照」を選択し、「ネームサーバアドレス」や「ドメイン名」などは契約しているプロバイダの指示にしたがってください。クローズボックスをクリックし、「保存」します。

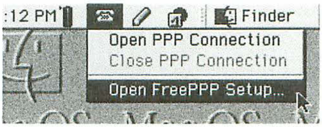


MEMO

※契約しているプロバイダの指示にしたがって設定してください。
※MacTCPのときは表示される画面が異なります。

(2)「メニューバー」の小さな電話のアイコンをクリックします。メニュー内の「Open FreePPP Setup...」を選択します。

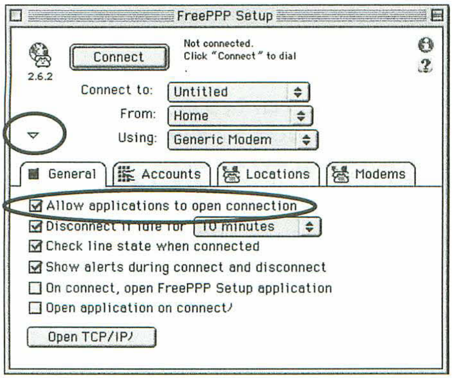




MEMO

電話アイコンが表示されていないときは、FreePPPフォルダ内の「FreePPP Setup」を起動してください。

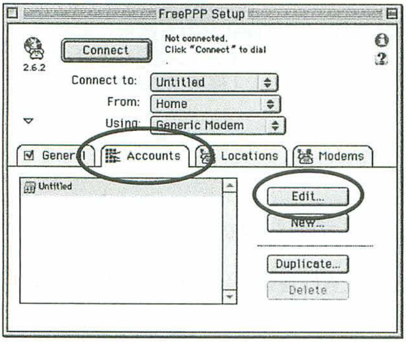
(3)「FreePPP Setup」画面が表示されます。



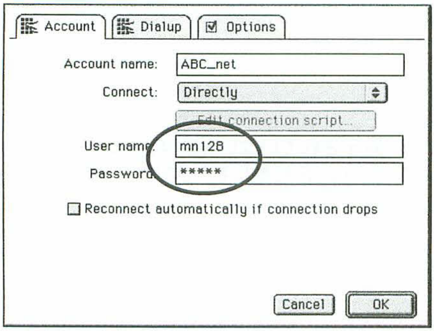
MEMO

※ウインドウが半分しか表示されない時は、▼印をクリックして表示させてください。
※「General」内にチェック項目がいくつかありますが、一番上の「Allow applications...」の所にだけはチェックを入れてください。これによりホームページの閲覧、メールソフトでの送受信時に、この画面を表示する事無く自動的に「FreePPP」を立ち上げてインターネットに接続してくれます。

(4)「Accounts」のタブをクリックし、表示された画面の「Edit...」をクリックします。



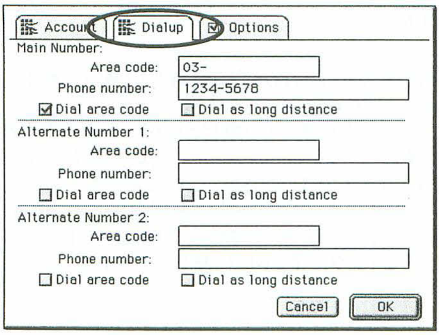
(5)「Accounts」タブをクリックし、分かりやすいプロバイダ名などを「 Account name : 」に、「Connect:」は「Directry」を選択し、契約しているプロバイダの指示にしたがって「User name:」と「Password : 」を入力します。



MEMO

「Account name」にプロバイダ名などの分かりやすい名前を入力します。

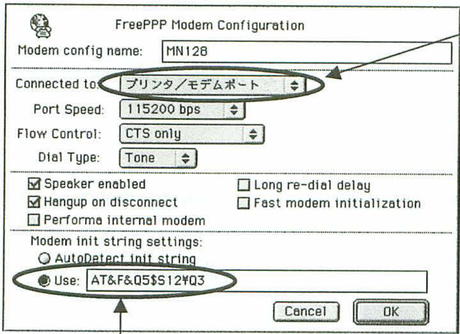
(6)「Dialup」のタブをクリックし、インターネットに接続するときは、契約しているプロバイダのISDN64kまたは128kMP用のアクセスポイントの電話番号を入力し、「OK」をクリックします。



MEMO

※「Area code」にプロバイダのアクセスポイント用電話番号を入力します。図のようにハイフン「-」を入れても問題はありません。
※「Dial area code」にチェックを入れると、接続時に市外局番も含めてダイヤルします。
※「Dial as long distance」には、チェックを入れないでください。日本国内ではここにチェックを入れるとプロバイダへ接続が出来なくなります。

(7)「FreePPP Setup」のウィンドウに戻ったら、「Modems」のタブをクリックし、表示された画面の「Edit」ボタンをクリックします。「Port Speed:」で115200（57600） bpsを選択し、「Flow Control:」を「CTS only」、「Modem init string settings:」で本装置の初期化コマンドを入力して「OK」をクリックします。



◎本装置のDTEポート【濃青色】から通信するとき「経由先:」で「モデム／プリンタポート」を選択します。
◎本装置のUSBポート【白色】から通信するとき「経由先:」で「MN128mini-V」を選択します。

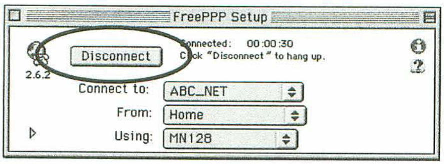
下記を参考にして初期化コマンドを入力してください。

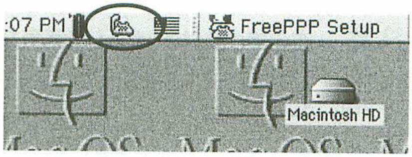
同期64kbps	&F&Q5$S12¥Q3
同期128kbpsMP	&F&Q5$S12!H1¥Q3 または &F&Q5$S14!H2¥Q3

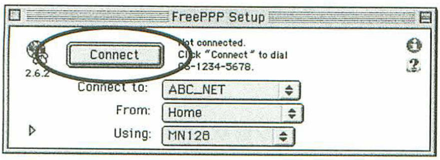
MEMO

※本装置のUSBポートから通信する場合は、USBドライバの登録(P144)が必要です。
※本装置のUSBポートが通信するときに選択するポート「MN128mini-V」は、MN128mini-Vとパソコンが付属のUSBケーブルで接続されていないときや、MN128mini-Vの電源がOFFになっているときは認識されません。
※パソコンのシリアルポート速度が57.6kbpsまでしか対応していないときは「57600 bps」を選択してください。プロバイダから指示があったときはしたがって設定してください。
※フロー制御は、「CTS Only」、または「CTS&RTS (DTR)」を選択してください。

(8)「FreePPP setup」ダイアログの「Connect」ボタンをクリック。正常に接続すると、「Connect」ボタンが「Disconnect」の表示に、「メニューバー」の小さな電話のアイコンは受話器を上げた表示になります。WWWブラウザを起動すればインターネット画面が閲覧できます。「Disconnect」ボタンをクリックすれば回線を切断します。







MEMO ﾓﾃﾞﾑﾎﾟｰﾄからｲﾝﾀｰﾈｯﾄ接続した場合

ボイス機能で電話着信時に相手先名称などを知らせているときに、インターネット接続した場合、ボイス機能で情報を知らせてからプロバイダにダイヤルします。

◎USBポートからインターネット接続する場合
・通信中にUSBケーブルを抜いたり、本装置の電源をOFFにした場合、パソコンが停止することがあります。その場合は、パソコンを再起動し、MN128mini-Vの電源を入れ直してください。
・MN128mini-Vの電源がOFFのときや、電源がONの状態でもUSBケーブルが接続されていない時に接続すると、パソコンが停止したり、ダイヤル中の状態で停止してしまうことがあります。その場合は、パソコンを再起動し、MN128mini-Vの電源を入れ直してください。

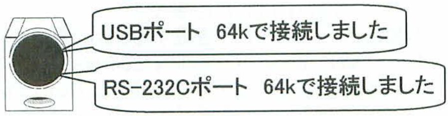
■便利な使い方

●ボイス機能を利用する

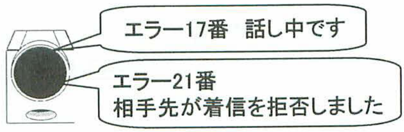
ボイス機能は「AUDIO」端子【灰色】に接続したアンプ内蔵ステレオスピーカ(別売)から声で色々な情報を知らせることができます。

○データ通信接続情報機能

○使用しているポートと、接続した速度を声で知らせます。



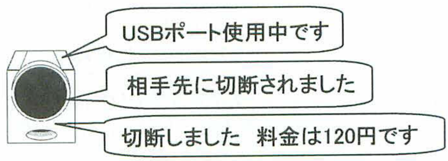
○接続できなかったときの理由を声で知らせます。



○デー通信を終了したとき声で知らせます。



○切断したときに、通信料金を声で知らせます。



⚠注意　次の場合にはメッセージを音声で知らせることができません。

●電話やFAXで1つのBチャネルを使っているとき、次のメッセージは声で知らせることができません。
「64kで接続しました」

●その他
※128kbpsで接続したとき、「128kで接続しました」というメッセージを声で知らせることはできません。
※通信チャネルを2つ使用しているときは、メッセージを声で知らせることはできません。

MEMO

※アンプ内蔵ステレオスピーカは添付しておりません。一般的なミニジャック形状(φ3.5)のアンプ内蔵ステレオスピーカをご利用ください。
※設定方法はP75の設定例を参照してください。
※RVS-COMを利用してFAX着信した場合も同様のメッセージで知らせます。
※設定コマンドを書き込むときに、同時に音声で知らせるときは音声が途切れることがあります。
※アナログ優先モード(リソースBOD)を利用して通信したときのアナログ通信料金は、データ通信料金と一括してお知らせます。

●スループットBOD機能

MP通信を行っているとき、データ量に応じて自動的にBチャネルを追加したり、削除したりすることができます。Bチャネルの追加／削除はSレジスタで設定した評価時間により算出された回線利用率と、設定したしきい値とを基準に行います。

◎設定方法

○Windows98／95／NT4.0
次頁から説明するATコマンドを必要に応じて追加設定してください。追加設定の方法はWindows98/95はP137、WindowsNT4.0はP142を参照してください。

○Macintosh
初期化コマンドを入力できるPPPソフト（FreePPPなど）が必要です。次頁から説明するATコマンドを必要に応じて通常の初期化コマンドの後に追記してください。FreePPPの初期化コマンド入力方法はP148～を参照してください。

MEMO

※CCLを利用するPPPソフト（リモートアクセスなど）ではCCLファイルを書き替えないと利用できません。
CCLを書き替えるにはCCLエディタが必要です。本装置にはCCLエディタは添付しておりません。また、CCLエディタの入手方法、インストール、利用方法、CCLの書き替え方法などはソフトウェア販売店にお問い合わせください。

・初期接続Bチャネル数の設定　---「!I」---

発信したとき、最初に接続するBチャネル数を設定します。
例）最初に1Bで接続する。
AT! I1

・Bチャネルの追加／削除の設定　---「!J」---

「追加／削除を両方行う」、「追加のみ行う」などを設定します。
例）Bチャネルの追加だけ行う。
AT!J1

・データ送信／受信時のBチャネルの追加／削除の設定 ---「追加 ： !K」、「削除 ： !L」---

データ送信／受信時のいずれのときに回線利用率がしきい値を上回る／下回った場合にBチャネルの追加／削除を行うかを設定します。
例）データ受信時の回線利用率がしきい値を上回ったときにBチャネルの追加を行うとき。
AT!K2
例）データ送信時の回線利用率がしきい値を下回ったときにBチャネルの削除を行うとき。
AT!L1

インターネットに接続しよう

・回線利用率を算出するときの評価時間の設定　---「追加 ： S176」、「削除 ： S181」---

Bチャネルの追加／削除を行うときの回線利用率を算出するための評価時間を設定します。
例）Bチャネルを追加するときの回線利用率を算出する評価時間を30秒に設定する。
　ATS176=30
例）Bチャネルを削除するときの回線利用率を算出する評価時間を20秒に設定する。
　ATS181=20

・しきい値の設定　---「追加 ： S179」、「削除 ： S184」---

Bチャネルの追加／削除を行うときのしきい値を設定します。回線利用率が「 S179 」で設定したしきい値を上回ったときにBチャネルを追加します。また、「 S184 」で設定したしきい値を下回ったときにBチャネルを削除します。
例）Bチャネルを追加する時のしきい値を40%にする。
　ATS179=40
例）Bチャネルを削除する時のしきい値を20%にする。
　ATS184=20

・Bチャネル追加／削除後動作設定　---「S177」、「S178」、「S182」、「S183」---

Bチャネル追加後「S177」（単位:256秒）、「S178」（単位:1秒）で設定された合計時間が経過するまではBチャネルが削除されません。また、Bチャネル削除後「S182」（単位:256秒）、「S183」（単位:1秒）で設定された合計時間が経過するまではBチャネルが追加されません。

例）Bチャネル追加後6分間はBチャネルが削除されないように設定する。
6分=360秒
360秒／256 = 1 余り　104
ATS177=1S178=104
例）Bチャネル削除後10分間はBチャネルが追加されないように設定する。
10分=600秒
600秒／256 = 2 余り　88
ATS182=2S183=88

●手動Bチャネル数変更

MPでインターネットなどディジタルデータ通信を行っているとき、本装置のアナログポート【緑色】に接続したアナログ電話機（PB信号）から手動で使用するBチャネル数を追加／削除できます。

⚠注意

※本装置のアナログポート「ANALOG1」【緑色-実線】、または「ANALOG2」【緑色-点線】にプッシュボタン式アナログ電話機が接続されていることを確認してください。本装置の電源スイッチが「ON」になっているかどうか確認してください。

※この操作ができるのは、プッシュボタン式アナログ機器に限ります。ダイヤルパルス式のアナログ機器からは操作できません。また、アナログ機器によっては設定スイッチで切り替えが必要な場合があります。「プッシュボタン（PB）」または「トーン」にしてください。詳しくはアナログ電話機の取扱説明書を参照してください。

◎手動Bチャネル数変更操作手順



1．アナログ電話機の受話器をあげ、発信音を確認します。



2．［フック］ボタンを1回押します。



3．［#］［1］をダイヤルします。



4．［0］［0］をダイヤルします。



5．アナログ電話機の受話器をおろします。

MEMO

※手順4で「00」をダイヤルしたとき、下記のような動作になります。

- 2つのBチャネルを使って(128kbpsで)MP通信中のときは、片方のBチャネルが削除され、1つのBチャネルを使って(64kbps)の通信になります。
- 1つのBチャネルを使って(64kbpsで)MP通信中のときは、Bチャネルが追加され、2つのBチャネルを使って(128kbps)の通信になります。

※操作中に「誤りがあります。もう一度入力してください。ピピッ」というﾒｯｾｰｼﾞが聞こえたときは始めからやり直してください。

※下記の場合はBチャネルの追加／削除ができません。

- 「AT!H」でパタメータ「n=0」(自動MP変換機能を使用しない)に設定しているとき。
- 接続先が128kMP通信に対応していないとき。
- 128kMP用の設定で通信していないとき。
- アナログ通信とMP通信で1つずつBチャネルを使用しているとき。
- どちらかのBチャネルが接続中または切断中のとき。

※2つのBチャネルを使用しているときは手順1の「ツー」以外の確認音が聞こえません。無音状態で操作することになります。

●ピア ツー ピア通信

◎ピア ツー ピア通信をするための通信ソフトウェアの用意

コンピュータ間を接続するようなピア ツー ピア通信を行う場合はそのための通信ソフトウェアが必要となります。下表は代表的な通信ソフトウェアの１例です。

OSまたはパソコン	通信ソフトウェア
Windows98/95	ダイヤルアップ ネットワーク
WindowsNT4.0	ダイヤルアップ ネットワーク （リモートアクセスサービス）
Macintosh	Apple Remote Access3.0 （ARA3.0）

MEMO

※「Apple Remote Access」は米国アップルコンピュータ社の商品です。
※「Apple Remote Access」はMacintosh間を接続するための通信ソフトウェアです。本装置でARA通信を行うときは「Apple Remote Access3.0以上」でないと通信できません。ARA3.0に関して詳しくは各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
※MN128シリーズ以外の機種とピア ツー ピア通信を行う場合、機種によっては接続できない可能性があります。
※ピア ツー ピア通信するために必要となる各種ソフトウェアは、本装置には添付しておりませんので、別途ご用意していただく必要があります。詳しくは各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
※Windows98/95用のダイヤルアップ ネットワークとWindowsNT4.0用のダイヤルアップ ネットワーク（リモートアクセスサービス）は基本的にOS（Windows）に標準添付されていますが、別途インストールが必要になる場合があります。詳しくはコンピュータ機器のマニュアルを参照するか、各コンピュータ機器の販売店等へお問い合わせください。また、Macintoshに関しては基本的に標準添付の通信ソフトウェアが無い場合が多いので市販品を購入する必要があります。
※Apple Remote Access3.0はインターネットに接続するためのソフトウェアではありません。Macintosh同士を接続するための通信ソフトウェアです。
※各種通信ソフトウェアの購入またはインストールなどに関しては各ソフトウェア販売店などにお問い合わせください。

◎設定方法

ピア ツー ピア通信するときには基本的に片側をサーバー側、片側をクライアント側として通信します。
下記例を参照してください。

1．Windows98/95（ｸﾗｲｱﾝﾄ）------Windows98/95（ｻｰﾊﾞｰ）

・Windows98をサーバーとして利用する場合は、コントロールパネル／アプリケーションの追加と削除／Windowsファイル／通信／詳細からダイヤルアップサーバーをインストールします。
・Windows95をサーバーとして利用する場合は、Microsoft PLUS!95をインストールし、ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップサーバーの設定を行います。

2．Windows98/95（ｸﾗｲｱﾝﾄ）------WindowsNT（ｻｰﾊﾞｰ）

・WindowsNT（ｻｰﾊﾞｰ）側のリモートアクセスサービスの構成で着信設定を行います。

3．Maintosh （ｸﾗｲｱﾝﾄ）-------Maintosh （ｻｰﾊﾞｰ）

・ｸﾗｲｱﾝﾄ側にARA3.0（ｸﾗｲｱﾝﾄ）、ｻｰﾊﾞｰ側にARA3.0（ｻｰﾊﾞｰ）をインストールし、ｻｰﾊﾞｰ側で着信設定を行います。

MEMO

※ピア ツー ピア通信を行う場合、発信側と着信側の設定・プロトコルをあわせておく必要があります。例えば、発信側で64kbpsの同期手順で発信する場合は着信側でも64kbpsの同期手順で着信できる設定をしておく必要があります。また、発信側と着信側のプロトコルも合わせておく必要があります。発信側・着信側のそれぞれの設定方法に関しては、各通信ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。

●Windows98/95/NT4.0 を利用するとき

・本装置の設定は通信速度に該当するデバイスの登録、選択のみで、基本的にはインターネットに接続するときと同様に行ってください。P122～を参照してください。
・ｸﾗｲｱﾝﾄ側、ｻｰﾊﾞｰ側それぞれの通信ソフトウェアの設定方法に関してはソフトウェアのマニュアルを参照するかソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

●Macintoshを利用するとき

・ARA3.0を利用するときは添付のCD-ROM内のCCLファイルを利用してください。CCLファイルに関してはCD-ROM内のReadmeを参照してください。
・ARA3.0の設定に関してはソフトウェアのマニュアルを参照するか、ソフトウェア販売店などへお問い合わせください。

●Apple Remote Accessで通信する

◎Apple Remote Accessとは

電話回線(本装置を利用するときはISDN)を使ってMacintosh間を接続するための通信ソフトウェアです。本装置ではARA3.0を使用し、PPPで最高128kbpsの同期手順で通信することが可能です。

◎設定する前に

クライアント側とサーバー側を同じ設定にしておく必要があります。64kbpsで通信するなら、共に64kbps通信用の設定にしておきます。

◎設定方法

本装置に付属のCD-ROM内のCCLファイルを登録します。ARA3.0の設定画面で、回線速度に見合ったDTE速度を設定します。

MEMO

※本装置でARA通信を行うときはPPPを利用して通信するために、ARA3.0以上を使用する必要があります。
※本装置のDTEポート【濃青色】にパソコンを接続してARA3.0で64kbps/128kbpsなどの通信を行うためには、115.2kbps(64kのときは57.6kでも可)のDTE速度の出るパソコンが必要です。
※ARA3.0は市販のソフトウェアであり、本装置には添付しておりませんので別途ご用意ください。詳しくは各ソフトウェア販売店等へお問い合わせください。
※ARA3.0のインストール、設定方法など詳しいことは各ソフトウェア販売店へお問い合わせください。

⚠注意

※本装置のUSBポート【白色】にパソコンを接続してARA通信は動作保証できません。

●パソコン通信をする

◎パソコン通信会社との契約

パソコン通信をするためには、まずパソコン通信会社との契約が必要です。契約に関しては、各パソコン通信会社へお問い合わせください。

○アクセスポイントにはアナログ回線対応のものとISDN回線対応のものがある

パソコン通信の会社にはISDN回線に対応している所と、アナログ回線にしか対応していない所があります。また、ISDN回線に対応していても、ISDN回線用とアナログ回線用の電話番号が異なる場合があります。詳しくは各パソコン通信の会社へお問い合わせください。

◎通信ソフトウェアの用意

ISDNの64kbpsアクセスポイントに接続のときは、非同期通信用のターミナルソフトなどでは接続できません。使用する通信ソフトウェアはパソコン通信会社が提供するソフトウェアを使用する場合が多いので、通信ソフトウェアの入手方法、使い方などは契約されているパソコン通信会社へお問い合わせください。

●パソコン通信に接続する

◎ISDNの64kbps用アクセスポイントに接続しよう

本装置のDTEポート【濃青色】、またはUSBポート【白色】に接続したパソコンからパソコン通信を行うときはISDNの64kbps用のアクセスポイントに接続してください。それ以外のアクセスポイント、非同期9600bpsなどには接続できません。

MEMO

※アナログ回線対応のアクセスポイントに、本装置から直接ダイヤルしても接続できません。その場合、モデムを使用する必要があります。モデムの接続に関してはP30を参照してください。

◎アナログ回線対応のアクセスポイントに接続する

アナログ回線対応のアクセスポイントには本装置のDTEポート【濃青色】、またはUSBポート【白色】に接続したパソコンから直接接続できません。モデムを使用する必要があります。モデムの接続方法に関しては、P30を参照してください。モデムのコマンド設定方法や通信ソフトウェアに関しては各通信ソフトウェアのマニュアルを参照するか、各ソフトウェア販売店等にお問い合わせください。

MEMO

※モデムを使用して、接続ができない時は本装置の「アナログポート接続機器種別」で端末種別をモデムに設定してください。設定についてはP90を参照してください。

■ディジタルデータ通信用のATコマンド設定リファレンス

◎ATコマンドを入力しよう

ATコマンドの入力方法についてはP64～を参照してください。

◎ATコマンド書式

本装置のDTEポート【濃青色】または、USBポート【白色】に接続したパソコンからデータ通信を行うときのATコマンド書式を説明します。

書式の見方は以下の通り。

「ATコマンド書式」→ AT「設定コマンド」「パラメータ」 Enter

（例） AT S r=n

[ ]内はオプションですので、省略が可能です。
パラメータ内の「n」は省力するとすべて「n=0」とみなして動作します。

◎設定の保存/初期化/表示/内部ファイルの選択

○設定の保存

パソコンからATコマンドで設定したときは保存しないと、本装置の電源スイッチをOFFにしたときに設定が消えてしまいます。設定を行ったときは必ず設定の保存を行ってください。設定内容を保存するときに、保存先の内部ファイルを選択できます。

内部ファイル0に保存　AT&W0 Enter

内部ファイル1に保存　AT&W1 Enter

○設定の初期化（工場出荷時の状態に戻します）

ATコマンドとSレジスタで設定した内容を初期化します。ただし、「&Z」「$C」「$E」「!D」「!M」「&Y」は初期化されません。

AT&F Enter

※本体背面のリセットスイッチでも設定を初期化できます。詳しくはP49を参照してください。

○設定内容の表示

現在設定されている内容を表示します。

AT¥S0 Enter

○内部ファイルの読み込み

内部ファイル0を読み込み　ATZ0 [Enter]
(AT&W0で保存した設定内容を読み込みます。)

内部ファイル1を読み込み　ATZ1 [Enter]
(AT&W1で保存した設定内容を読み込みます。)

○起動時に読み込む内部ファイルの選択

内部ファイル0を選択　A&Y0 [Enter]
(AT&W0で保存した設定内容を起動時に読み込みます。)

内部ファイル1を選択　A&Y1 [Enter]
(AT&W1で保存した設定内容を起動時に読み込みます。)

◎ATコマンド一覧

「A／」直前に入力したコマンドの再実行

設定内容	直前に入力したATコマンドを実行します。
ATコマンド書式	A／
パラメータ	なし

MEMO

コマンドの前に「AT」、後に [Enter] を入力する必要はありません。

「A」手動着信

設定内容	呼び出しがあったときに手動で着信します。
ATコマンド書式	ATA

「D」 発信

設定内容　　パラメータによって指定した相手先へ発信します。

ATコマンド書式

ATDs [*(SUB)] [Sn]
ATDS=n [Sn]
ATDL [Sn]

パラメータ

s	相手先の回線番号
*	サブアドレス指定キャラクタ
(SUB)	相手先のサブアドレス
S=n	「&Z」で登録した回線番号を指定 n=0～9
L	最後に発信した回線番号を指定
Sn	通信速度を指定 n=12　　64kbps n=14　　128kbps

MEMO

※[ ]内はオプションですので、省略が可能です。
※パラメータ（s）の相手先の回線番号は31桁まで入力できます。
※パラメータ（s）の相手先の回線番号には「数字(0～9)」、「#」、「*」が入力できます。ただし「*」は初期値ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。
※Sレジスタ174番(P181)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは回線番号としては使用できません。
※パラメータ「*」は初期値でサブアドレス指定キャラクタに設定されていますが、Sレジスタ174番(P181)で変更しているときは、変更したサブアドレス指定キャラクタを入力してください。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスは19桁まで入力できます。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスには「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」を入力できます。
※パラメータ（SUB）を入力したときは、[Sn]は指定できません。
※相手先回線番号の最後に「#」を指定しても即時発信のための役割はしません。

「E」 エコーバックの有無

設定内容　　エコーバックの有無を指定できます。

ATコマンド書式　　ATEn

パラメータ

n=0	エコーバック無し	
n=1	エコーバック有り	（初期値）

「H」 回線切断

設定内容　　回線が接続しているとき切断できます。

ATコマンド書式　　ATH

パラメータ　　なし

MEMO

※回線が接続されているときは「+++」でコマンド入力モードにしてからコマンドを入力します。
以下の手順でコマンド入力します。

「+++」ATH [Enter]

「I」 製品情報表示

設定内容　　製品情報を表示します。

ATコマンド書式　　ATIn

パラメータ

n=0	使用可能な最高の通信速度を表示	
n=2	製品名(MN128mini-V)を表示	
n=3	ファームウェアのバージョンを表示	

「O」 オンラインモードへ戻る

設定内容　　コマンド入力モードからオンラインモードへ戻る。オンラインモードではコマンド入力はできません。

ATコマンド書式　　ATO

パラメータ　　なし

「Q」 応答コードの表示の有無

設定内容　　応答コードの表示の有無を設定します。

ATコマンド書式　　ATQn

パラメータ

n=0	応答コードを表示	（初期値）
n=1	応答コードを表示しない	

「S」 Sレジスタ設定／設定内容表示

設定内容① Sレジスタの内容を設定します。

ATコマンド書式① ATSr=n

パラメータ①

r=0～255	Sレジスタ番号
n=0～255、$00～$FF	パラメータ値

設定内容② Sレジスタの内容を表示します。

ATコマンド書式② ATSr?

パラメータ②

r=0～255	Sレジスタ番号

MEMO

※Sレジスタ番号、パラメータ値はP180、181を参照してください。

「V」 応答コード形式の設定

設定内容 応答コードの表示形式を設定します。

ATコマンド書式 ATVn

パラメータ

n=0	数字形式で表示	
n=1	単語形式で表示	（初期値）

MEMO

※応答コードに関してはP197、198を参照してください。

「W」 RINGの表示形式の設定

設定内容 RINGがあったときの表示形式を設定します。

ATコマンド書式 ATWn

パラメータ

n=0	RINGのみ表示	（初期値）
n=1	RING（発信者電話番号）（サブアドレス）の形式で表示	

「X」 応答コードの選択

設定内容　応答コードを選択します。

ATコマンド書式　ATXn

パラメータ

n=0	応答コード0	（初期値）
n=1	応答コード1	
n=2	応答コード2	
n=3	応答コード3	

MEMO

※応答コードに関してはP197、198を参照してください。

「Y」 ブレーク信号の設定

設定内容　ブレーク信号による本装置の動作を設定します。

ATコマンド書式　ATYn

パラメータ

n=0	何もしない	
n=1	回線切断	（初期値）

「Z」 内部ファイルの読み込み

設定内容　本装置の内部に保存しているATコマンドとSレジスタを読み込みます。

ATコマンド書式　ATZn

パラメータ

n=0	内部ファイル0番の内容を読み込み
n=1	内部ファイル1番の内容を読み込み

MEMO

※「&Z」「$C」「$E」「!D」「!M」「&Y」の設定内容は読み込みません。

「&C」 DCD信号制御の設定

設定内容　　DCD信号の制御を設定します。

ATコマンド書式　　AT&Cn

パラメータ

n=0	DCD信号を常にON	
n=1	DCD信号は回線接続中にON	（初期値）

「&D」 DTR信号OFF時の動作設定

設定内容　　DTR信号がOFFのときの本装置の動作を設定します。

ATコマンド書式　　AT&Dn

パラメータ

n=0	何もしない	
n=1	コマンド入力モードへ移行	
n=2	回線切断	（初期値）
n=3	回線切断後、Sレジスタを初期化	

⚠注意

パラメータ「n=0」を指定した場合、通信ソフトで切断する前にパソコンがフリーズしたときなど、回線が切断されない場合があります。必ず本装置のLED「B1」「B2」ランプを確認し、きちんと切断されていることを確認してください。

「&E」 表示速度の設定

設定内容　　回線接続時に表示される表示速度形式を設定します。

ATコマンド書式　　AT&En

パラメータ

n=0	回線速度	（初期値）
n=1	DTE速度	

「&F」 Sレジスタとコマンドの初期化

設定内容　　SレジスタとATコマンドで設定したパラメータ値を初期化します。

ATコマンド書式　　AT&F

パラメータ　　なし

MEMO

※初期化されるのはSレジスタと初期値を持つATコマンドが対象となります。
※「&Z」「$C」「$E」「!D」「!M」「&Y」の設定内容は初期化されません。

「&Q」 通信モードの設定

設定内容　　本装置はHDLC手順のみサポートしていますが、通信モードを以下から選択できます。

ATコマンド書式　　AT&Qn

パラメータ			
	n=5	HDLC(PPP)	(初期値)
	n=6	HDLC(PPP)/DTR	

MEMO

※パラメータ「n=5」 HDLC(PPP)モード
回線速度が64kbps、128kbpsのときに使用できます。パソコンからの非同期PPPデータをHDLCフォーマットに変換します。
※パラメータ「n=6」 HDLC(PPP)/DTRモード
基本的な動作はパラメータ「n=5」と同様ですが、パソコンのDTR信号がOFF～ONに切り替わったときに「&Z」(回線番号の登録、消去)で登録番号"0"に登録されている回線番号に発信してHDLCフォーマットで通信します。

「&S」 DSR信号制御の設定

設定内容　　DSR信号制御の設定を行います。

ATコマンド書式　　AT&Sn

パラメータ

n=0	DSR信号は常にON	（初期値）
n=2	DCDと同じ動作にする	

「&T」 MN128mini-Vの動作チェック

設定内容　　本装置の動作チェックを行います。チェックを行ったあと、正常であれば「OK」を、正常に動作していないときは「ERROR」を表示します。

ATコマンド書式　　AT&Tn

パラメータ

n=0	LEDのチェック
n=1	RAMのチェック
n=2	ファームウェアのチェック
n=3	ISDN回線のチェック

MEMO

パラメータ「n=3」ISDN回線テストを行うときはINSネット64回線をきちんと接続していることを確認してからチェックを行ってください。

「&V」 登録回線番号の表示

設定内容　　「&Z」（回線番号の登録、消去）で登録した登録番号、サブアドレスをすべて表示します。

ATコマンド書式　　AT&V

パラメータ　　なし

インターネットに接続しよう

「&W」 設定を内部ファイルに保存

設定内容	設定しているATコマンドとSレジスタの内容を本装置の内部ファイルに保存します。内部ファイルは「0番」と「1番」を選択して保存することができます。	
ATコマンド書式	AT&Wn	
パラメータ	n=0	内部ファイル0番に保存
	n=1	内部ファイル1番に保存

MEMO

「&Z」「$C」「$E」「!D」「!M」「&Y」の設定内容は保存されません。

「&Y」 内部ファイルの選択

設定内容	起動時に読み込む内部ファイルを選択することができます。		
ATコマンド書式	AT&Yn		
パラメータ	n=0	内部ファイル0番の内容を読み込む	（初期値）
	n=1	内部ファイル1番の内容を読み込む	

MEMO

このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

「&Z」 回線番号の登録/消去

設定内容	相手先回線番号とサブアドレスを登録できます。	
ATコマンド書式	AT&Zn=s [*(SUB)]	
パラメータ	n=0〜9	登録番号
	s=数字	相手先の回線番号
	*	サブアドレス指定キャラクタ
	(SUB)	相手先のサブアドレス

MEMO

※ [ ]内はオプションですので、省略が可能です。
※パラメータ「s」の相手先の回線番号は31桁まで入力できます。
※パラメータ「s」を省略したときは、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。
※パラメータ「s」で登録する回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「s」の相手先の回線番号には「数字(0〜9)」、「#」、「*」入力できます。ただし「*」は初期値ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。

※Sレジスタ174番（P181）でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは回線番号としては使用できません。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスは19桁まで入力できます。
※パラメータ（SUB）の相手先のサブアドレスには「アルファベット（大文字と小文字を区別）」、「数字（0～9）」を入力できます。
※相手先電話番号の最後に「#」を指定しても即時発信のための役割はしません。
※このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

「¥Q」 フロー制御形式の設定

設定内容　フロー制御形式を選択します。

ATコマンド書式　AT¥Qn

パラメータ
n=0　なし　（初期値）
n=1　XON/XOFF
n=3　RTS/CTS

「¥S」 設定内容/課金情報の表示

設定内容　本装置の「DTE」ポートに設定されている内容、課金情報を選択して表示できます。

ATコマンド書式　AT¥Sn

パラメータ
n=0　設定内容を表示
n=1　課金情報を表示

「¥T」 無通信監視タイマーの設定

設定内容　無通信監視タイマーの設定をします。（単位：10秒）

ATコマンド書式　AT¥Tn

パラメータ
n=0　無通信監視をしない　（初期値）
n=1～255　設定した時間通信しないと回線を切断します。

「%B」 着信時の最高回線速度の設定

設定内容　本装置の「DTE」ポートに着信したときの最高回線速度を設定します。（単位：bps）

ATコマンド書式　AT%Bn

パラメータ

n=0	着信しない	
n=12	64000	
n=14	128000	（初期値）

「%R」 レジスタの設定内容表示

設定内容　本装置のすべてのレジスタの設定内容を表示します。

ATコマンド書式　AT%R

パラメータ　なし

「$C」（ダイヤルイン）追加番号の登録

設定内容　ダイヤルイン追加番号を登録すると、着信があったときにここで登録した番号と一致したときだけ着信させることができます。また、AT!B2（（ダイヤルイン）追加番号を通知）（P173）に設定すると、発信時に（ダイヤルイン）追加番号を相手先に通知します。

ATコマンド書式　AT$Cs

パラメータ　s=数字　（ダイヤルイン）追加番号

注意

※すべての番号からの着信を許可するときはここで番号を登録しないでください。
※ダイヤルイン、またはｉ・ナンバーを契約していないときはここで番号の設定をしないでください。

MEMO

※パラメータ「s」の（ダイヤルイン）追加番号は31桁まで入力できます。
※パラメータ「s」で登録する（ダイヤルイン）追加番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「s」を省略したときは、登録した（ダイヤルイン）追加番号を削除します。
※パラメータ「s」の（ダイヤルイン）追加番号には「数字（0～9）」、「#」、「*」入力できます。ただし「*」は初期値ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。
※Sレジスタ174番（P181）でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは（ダイヤルイン）追加番号としては使用できません。

※このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

＜i・ナンバーを契約している場合＞

・データ通信の着信時には、グローバル着信と同様の着信になります。したがって、本設定は無効です。

・データ通信の発信時には、本設定で追加番号を登録し、AT!B2((ダイヤルイン)追加番号を通知)(P173)に設定すると、相手先に追加番号を通知します。

「$E」 サブアドレスの登録

設定内容　サブアドレスを登録すると、サブアドレス付きで着信があったときに、登録してあるサブアドレスと一致したときだけ着信させることができます。

ATコマンド書式　AT$Es

パラメータ　s=数字etc　サブアドレス

⚠注意

ここでサブアドレスを登録した場合、着信番号で指定してあるサブアドレスが登録したサブアドレスと一致しない場合、またはサブアドレスを指定しない着信番号で着信があったときは着信できません。

MEMO

※このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

※パラメータ「s」に入力できる数字は19桁までです。

※パラメータ「s」には「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」を入力できます。

※パラメータ「s」を省略して設定すると、登録したサブアドレスを削除します。

「$S」 発信時の回線速度の設定

設定内容　発信時の回線速度を設定します。(単位:bps)

ATコマンド書式　AT$Sn

パラメータ			
	n=0	DTE速度	(初期値)
	n=12	64000	
	n=14	128000	

MEMO

パラメータ「n=0」DTE速度のとき、パソコン側で設定されているDTE速度が57.6kbpsまたは115.2kbpsのとき、自動的に回線速度が64kbpsになります。

⚠注意

パソコン側のDTE速度が57.6kbps未満に設定されているとき、または57.6kbps以上の速度に対応していないときは本装置を利用してディジタルデータ通信を行うことはできません。

「!B」 発信者番号通知の設定

設定内容　相手先に自分の回線番号とサブアドレスを通知するかしないかを設定します。

ATコマンド書式　AT!Bn

パラメータ

n=0	通知しない（「186」付加で契約者回線番号を通知）	
n=1	契約者回線番号を通知	
n=2	（ダイヤルイン）追加番号を通知	
n=3	NTTとの契約にしたがう	（初期値）
n=4	通知しない（「186」付加で（ダイヤルイン）追加番号を通知）	

MEMO

※サブアドレスは「$E」で設定しているときのみ通知します。
※（ダイヤルイン）追加番号は「$C」で設定してある回線番号を通知します。
※パラメータ「n=0」を設定したとき、ダイヤル番号の前に「186」を付加したときは相手先に契約者回線番号を通知します。
※パラメータ「n=1」または「n=2」に設定していて、ダイヤル番号の前に「184」を付加したときは相手先に回線番号とサブアドレスは通知されません。
※パラメータ「n=3」を設定しているときは以下のようになります。
①NTTと発信者番号通知を「通話ごと非通知」で契約している場合
基本的には相手に回線番号を通知し、ダイヤル番号の前に「184」を付加したときは通知されません。
②NTTと発信者番号通知を「回線ごと非通知」で契約している場合
基本的には相手に回線番号を通知せず、ダイヤル番号の前に「186」を付加したときは通知します。
※パラメータ「n=4」を設定したとき、ダイヤル番号の前に「186」を付加したときは相手先に（ダイヤルイン）追加番号を通知します。
※NTTと発信者番号通知を「常時非通知」で契約しているときは本装置の設定に関わらず相手には回線番号は通知されません。

「!C」 識別着信の設定

設定内容　着信時に「!D」で登録している相手先からの着信のみ許可するか、またはすべての相手先からの着信を許可するかを選択します。

ATコマンド書式　AT!Cn

パラメータ

n=0	すべての相手先から着信許可	（初期値）
n=1	「!D」で登録されている相手先からのみ着信許可	

「!D」識別着信番号の登録/消去

設定内容　　識別着信する相手先の回線番号とサブアドレスを設定します。
「!C」でパラメータ「n=1：「!D」で登録されている相手先からのみ着信許可」を設定しているとき、ここで設定している回線番号とサブアドレスに該当する場合のみ着信します。

ATコマンド書式　　AT!Dn=s [*(SUB)]

パラメータ

n=0～9	登録番号
s=数字	相手先の回線番号
*	サブアドレス指定キャラクタ
(SUB)	相手先のサブアドレス

MEMO

※[ ]内はオプションですので、省略が可能です。
※パラメータ「s」の相手先の電話番号は31桁まで入力できます。
※パラメータ「s」を省略したときは、登録した回線番号とサブアドレスを削除します。
※パラメータ「s」で登録する相手先回線番号は「市外局番」「市内局番」「加入者番号」のすべてを入力してください。
※パラメータ「s」の相手先の回線番号には「数字(0～9)」、「#」、「*」入力できます。ただし「*」は初期値ではサブアドレス指定のキャラクタとして認識されます。
※Sレジスタ174番(P181)でサブアドレスのキャラクタを指定できます。サブアドレスとして指定しているキャラクタは回線番号としては使用できません。
※パラメータ(SUB)の相手先のサブアドレスは19桁まで入力できます。
※パラメータ(SUB)の相手先のサブアドレスには「アルファベット(大文字と小文字を区別)」、「数字(0～9)」を入力できます。
※相手先回線番号の最後に「#」を指定しても即時発信のための役割はしません。
※このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

「!D?」識別着信番号の表示

設定内容　　「!D」で登録されている回線番号とサブアドレスをすべて表示します。

ATコマンド書式　　AT!D?

パラメータ　　なし

「!E」グローバル着信の設定

設定内容	NTTとのダイヤルイン契約内容の「グローバル着信　有り/無し」に関わらず通常は初期値パラメータ「n=1」で使用してください。
ATコマンド書式	AT!En
パラメータ	n=0　しない n=1　する　（初期値）→ 通常はこのままご利用ください

⚠注意

パラメータ「n=0」にすると着信できなくなることがあります。

MEMO

※NTTと「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン追加番号のみ着信したときは、パラメータ「n=0」に設定すると、本設定のみで契約者回線番号では着信せずに、ダイヤルイン追加番号のみ着信します。

※「グローバル着信有り」でダイヤルイン契約をしていて、ダイヤルイン追加番号に着信、または「グローバル着信なし」でダイヤルイン契約をしているときに契約者回線番号またはダイヤルイン追加番号に着信があったときはここでの設定とは無関係に「$C」で登録されている番号と一致したときだけ着信します。

＜i・ナンバーを契約している場合＞

・データ通信の着信時には、グローバル着信と同様の着信になります。したがって、本設定でパラメータ「n=0」にすると着信できなくります。

「!F」 通信フォーマットの設定

設定内容	通信フォーマットを設定します。本装置の電源再投入時に有効になります。		
ATコマンド書式	AT!Fn		
パラメータ	n=0	8ビットパリティなし	（初期値）
	n=1	7ビット奇数パリティ	
	n=2	7ビット偶数パリティ	

「!H」 自動MP変換機能の設定

設定内容　　PPPとMPを自動的に変換する機能です。これにより、MPに対応していない通信ソフトを使用して、MPに対応した通信相手とMP通信をおこなうことができます。

ATコマンド書式　　AT!Hn

パラメータ

n=0	自動MP変換機能を使用しない	（初期値）
n=1	「$S」でパラメータ「n=12 : 64000」が設定されているときに自動MP変換機能を使用する	
n=2	「$S」でパラメータ「n=14 : 128000」が設定されているときに自動MP変換機能を使用する	

⚠注意

※パラメータ「n=1」または「n=2」で自動MP変換機能を使用する設定になっていても以下の場合はこの機能を使用することはできません。
- ・ご使用のドライバや通信ソフトがMP対応のとき。
- ・接続相手先がMPに対応していないとき。

※MP通信を行うとき、相手先の認証方式は「PAP」または「CHAP」をサポートしている必要があります。「CHAP」で認証を行うときは「!M」で「ユーザ名」と「パスワード」の設定が必要です。

「! I」 初期接続Bチャネル数の設定

設定内容　　MP通信するとき、相手先と最初に接続する通信チャネル（Bチャネル）数を設定します。空いているBチャネルが1つしかないときは設定には無関係に1つのチャネルしか接続できません。

ATコマンド書式　　AT! In

パラメータ

n=0	2つのBチャネルを使用	（初期値）
n=1	1つのBチャネルを使用	

「!J」 スループットBODによるBチャネル追加/削除の設定

設定内容　　スループットBOD機能を利用するときのBチャネルの追加/削除の設定をします。

ATコマンド書式　　AT!Jn

パラメータ

n=0	Bチャネルの追加/削除を行わない	（初期値）
n=1	Bチャネルの追加だけ行う	
n=2	Bチャネルの削除だけ行う	
n=3	Bチャネルの追加/削除を行う	

⚠注意

※スループットBOD機能を利用するとき（パラメータ「n=1～3」）は「!H」でパラメータ「n=1」または「n=2」の自動MP変換機能を使用する設定にしてください。
※ここでの設定とは無関係にBチャネルの追加/削除が行われることがあります。

「!K」 スループットBODによるデータ送信/受信時のBチャネル追加の設定

設定内容　　スループットBOD機能を利用しBチャネルの追加を行うとき、データ送信時または受信時のどちらの回線利用率がしきい値を上回った場合にBチャネルを追加するかを設定します。しきい値は、Sレジスタ179番（P181）で設定します。

ATコマンド書式　　AT!Kn

パラメータ

n=0	送信/受信時のどちらかの回線利用率がしきい値を上回ったときBチャネルを追加する	（初期値）
n=1	送信時の回線利用率がしきい値を上回ったときBチャネルを追加する	
n=2	受信時の回線利用率がしきい値を上回ったときBチャネルを追加する	

「!L」 スループットBODによるデータ送信/受信時のBチャネル削除の設定

設定内容

スループットBOD機能を利用しBチャネルの削除を行うとき、データ送信時または受信時のどちらの回線利用率がしきい値を下回った場合にBチャネルを削除するかを設定します。しきい値は、Sレジスタ184番(P181)で設定します。

ATコマンド書式

AT!Ln

パラメータ

n=0	送信/受信時の両方向の回線利用率がしきい値を下回ったときBチャネルを削除する (初期値)
n=1	送信時の回線利用率がしきい値を下回ったときBチャネルを削除する
n=2	受信時の回線利用率がしきい値を下回ったときBチャネルを削除する

MEMO 「!J」、「!K」、「!L」関連

「!S」でリソースBODを利用する設定になっているときは、「!J」、「!K」、「!L」よりも優先されます。

「!M」 ユーザ名とパスワードの登録

設定内容

MP通信で発信するとき、通信相手からCHAPでの認証を要求された場合、2回目以降のCHAP認証に使用するユーザ名とパスワードを設定します。

ATコマンド書式

AT!Mn=s

パラメータ

n=0	ユーザ名の登録
n=1	パスワードの登録
s	文字列

MEMO

※パラメータ「s」で入力できる文字列はターミナル画面から入力できる文字列で31文字まで入力することができます。
※このコマンドは「&W」での保存や「Z」での読み込みは必要ありません。

「!M?」ユーザ名とパスワードの表示

設定内容　「!M」で登録したユーザ名とパスワードを表示します。

ATコマンド書式　AT!M?

パラメータ　なし

「!S」リソースBODによるアナログ機器優先モードの設定

設定内容　自動MP変換機能を利用して128kbpsでMP通信を行い、2つのBチャネルを使用しているときのアナログ機器の優先利用の設定に関して、「82/@U」の設定よりここでの設定を優先してアナログ通信にBチャネルを割り当てることができます。

ATコマンド書式　AT!Sn

パラメータ

n=0	アナログ通信機器を優先しない
n=1	「82/@U」の設定に関わらず、発信のときだけアナログ通信機器を優先する
n=2	「82/@U」の設定に関わらず、着信のときだけアナログ通信機器を優先する
n=3	「82/@U」の設定に関わらず、発信、着信どちらの場合もアナログ通信機器を優先する
n=4	「82/@U」の設定にしたがう　（初期値）

■Sレジスタ

◎Sレジスタについて

本装置のSレジスタの内容を説明します。Sレジスタで設定した内容は「AT&F」で工場出荷時に初期化され、「AT&W」で内部ファイル0番または1番を選択して保存できます。
また、SレジスタはATコマンド「ATSr=n」で設定することが可能です。また、「ATSr?」で内容一覧表示することができます。

○ Sレジスター覧(標準)

レジスタ番号	初期値	パラメータ	設定内容
0	1	0～255	自動着信時のRING回数の設定 0　自動着信しない 1～255　設定された回数だけRINGを3秒間隔に端末へ送出してから着信
3	13	0～255	CRコード
4	10	0～255	LFコード
5	8	0～255	BSコード
7	30	3～50	相手応答待ち時間(単位:秒)

○ Sレジスター覧(MN128mini-V用)

レジスタ番号	初期値	パラメータ	設定内容
134	0	0、1、4、33、36 49、50、53、56 65	高位レイヤ整合性の設定 0　制限なし 1　電話 4　G3-FAX 33　G4-FAX 36　ミックスモード 49　テレックス 50　ビデオテックス 53　テレテックス 56　MHS 65　OSI
135	13	5、7、8、11、13	起動時のDTE速度の設定(単位:bps) 5　9600 7　19200 8　38400 11　57600 13　115200

174	42 (＊)	0〜255	サブアドレスのキャラクタ指定 サブアドレスを指定するときのキャラクタをASCIIコードで設定します。初期値は「＊」でASCIIの10進数で「42」です。
176	10	1〜255	スループットBODを利用しBチャネルの追加を行うとき、回線利用率を算出するための評価時間を設定します。 (単位:秒)
177	0	0〜255	スループットBODを利用しBチャネルを追加したとき、レジスタ「177」と「178」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは削除されません。(1単位:256秒)
178	10	1〜255	スループットBODを利用しBチャネルを追加したとき、レジスタ「177」と「178」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは削除されません。(単位:秒)
179	50	0〜100	スループットBODを利用しBチャネルの追加を行うとき、回線利用率がここで設定したしきい値を上回ったときにBチャネルを追加をします。(単位:パーセント)
181	10	1〜255	スループットBODを利用しBチャネルの削除を行うとき、回線利用率を算出するための評価時間を設定します。 (単位:秒)
182	0	0〜255	スループットBODを利用しBチャネルを削除したとき、レジスタ「182」と「183」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは追加されません。(1単位:256秒)
183	10	1〜255	スループットBODを利用しBチャネルを削除したとき、レジスタ「182」と「183」で設定した合計時間が経過するまではBチャネルは追加されません。(単位:秒)
184	0	0〜100	スループットBODを利用しBチャネルの削除を行うとき、回線利用率がここで設定したしきい値を下回ったときにBチャネルを削除をします。(単位:パーセント)

困ったときは　-Q & A-

技術サポートセンタにお問い合わせの多い項目をまとめました。該当する項目がない場合や、「対策」を行っても症状が変わらない場合はお問い合わせください。

技術サポートセンター
TEL.0120-128072
FAX.0120-128172

■ハード関連

ACアダプタ

Question	Answer
電源が入らない	ACアダプタが正しく接続されているか確認しください。(P21)
ACアダプタが熱い	多少熱くなりますが異常ではありません。発熱するものと重ねたり、その上には乗せたりしないでください。さわれないほど熱くなる場合は、故障の可能性がありますので、サポートセンターへご連絡ください。
停電時に、アナログ電話機は使える	停電時には、本装置に接続したすべての通信機器は利用できません。バックアップ電池ボックス(オプション)を利用すれば、本装置に接続したすべての通信機器が利用できます。

MN128mini-V本体

Question	Answer
B1・B2のランプが点滅する	ISDN回線の異常表示です。P25を参照し、確認してください。
ランプがつかない	ACアダプタがきちんと接続されているか、電源スイッチがONになっているかなどP21、25を参照して確認してください。

シリアルケーブル

Question	Answer
付属のシリアルケーブルではパソコンに接続できない	ノートパソコンなど一部の機種ではシリアルポートの形状が合わない場合があります。その場合、市販の変換ケーブル(ストレート)を別途ご用意いただく必要があります。ただし、その場合の動作保証はできません。
ノートパソコンに接続できない	ノートパソコンのシリアルポートと付属のシリアルケーブルの形状が合わない場合、お持ちのノートパソコンのシリアルポート形状に合った変換ケーブル(ストレート)をご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルと接続して使用する必要があります。ただし、この場合動作保証はできません。
シリアルケーブルを延長したい	延長する場合は、市販のストレートケーブルをご用意いただき、付属の専用シリアルケーブルとつなぎ合わせて使用してください。ただし、この場合動作保証はできません。

■ISDN回線関連

ISDN回線

Question	Answer
モジュラージャックを移動、延長したい	配線工事が必要になる場合があります。詳しくはNTTへご相談ください。
配線工事は必要ですか	現在のモジュラージャックの位置でお使いの場合は、基本的には必要ありませんが、場合によっては工事が必要となります。詳しくはNTTへご相談ください。
モジュラージャックのコンデンサを取り外す必要がありますか	場合によっては取外す必要があります。詳しくはNTTへご相談ください。
グローバル着信有りでダイヤルイン契約した場合、契約者回線番号をANALOG1【緑色-実線】のみに着信させることはできるか	できます。ただし、本装置に設定が必要です。設定方法に関してはP71を参照してください。
保安器を取替える必要がありますか	場合によっては取替える必要があります。詳しくはNTTへご相談ください。
アナログ回線の時に申し込んでいたキャッチホンや銀行振り込みなどはISDNに切り替えても使えるか	すべて申し込みし直す必要があります。詳しくはNTTへお問い合わせください。

■ボイス機能関連

ボイス機能

Question	Answer
ボイス機能が使えない	・本体のAUDIO端子【灰色】にアンプ内蔵ステレオスピーカ(別売)を接続する必要があります。 ・128kMP通信中など、2つのBチャネルをしようしているときにメッセージを声で知らせることはできません。
スピーカは何でもいいの	パソコンに付属のものなど、一般的なミニジャック形(φ3.5mm)のアンプ内蔵ステレオスピーカなら利用できます。モノラルスピーカは動作しませんのでご注意ください。
特定のメッセージを消したい	設定が必要です。詳しくはP75、109を参照してください。

■アナログポート関連

アナログ機器の接続

Question	Answer
アナログ電話機なら何でも使えるか	ISDNではプッシュボタン(PB)信号のでる電話機しか使用できません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。設定方法は各電話機のマニュアルを参照するか電話機販売店などにお問い合わせください。
電話機とFAXを同時に接続できるか	本装置にはアナログポートが2つあります。それぞれに電話機とFAXを接続することができます。ただし、アナログポートごとに着信を区別するにはｉ・ナンバー、またはダイヤルイン契約をお勧めします。ｉ・ナンバーダイヤルインに関する詳しいことはNTTへご相談ください。
1階で電話、2階でFAXを使いたい	配線工事を必要とする場合があります。配線工事に関して詳しいことはNTTへご相談ください。ただし、配線延長した場合は一部正常に動作しない可能性があります。
ダイヤルイン機能付きFAXは使えるか	ISDN回線ではその機能は使えません。FAXの設定で、「ダイヤルイン機能を使用しない」に設定してください。詳しくはFAX販売店などにお問い合わせください。
電話機とFAXをサブアドレスで使い分けたい	本装置でサブアドレスを指定している場合に、サブアドレス指定なしの番号からの着信はできません。また、サブアドレスを付加して発信できるのはISDNに接続された一部の通信機器だけになりますので、この場合、ダイヤルイン契約をお勧めします。

ISDNサービス

Question	Answer
フレックスホンのキャッチホン(コールウェイティング)が使えない	・P77を参照し、設定などを確認してください。 ・ISDN回線の設定で、「通信中着信通知サービス」が許可になっていますか？　詳しくはNTTへご相談ください。 ・疑似キャッチホンを使用しない設定にしてください。疑似キャッチホンとの併用はできません。 ・NTTとの契約が必要です。詳しくはNTTへご相談ください。
フレックスホンの着信転送が利用できない	・転送開始設定がしてあるかなど、P36を参照し設定を確認してください。 ・NTTとの契約が必要です。詳しくはNTTへご相談ください。

i・ナンバーを使いたいのですが	NTTとの契約が必要です。本装置の初期値の状態でi・ナンバーを利用できます。詳しくはP45～を参照してください。
INSマジックボックス、INSボイスワープ、迷惑電話お断りサービス、Fネットを使いたいのですが	NTTと契約が必要です。あわせてダイヤルイン契約もしている場合は、本装置で発信者番号通知の設定を行う必要があります。設定方法に関してはP85～を参照してください。

アナログ機器(電話機、FAXなど)の発信・着信

Question	Answer
電話機の発信・着信ができない	P27～を参照して確認してください。
電話機の着信はできるが、発信ができない	ISDNではプッシュボタン(PB)信号のでる電話機しか使用できません。お持ちの電話機の設定を「PB」または「トーン」に設定してください。設定方法は各電話機のマニュアルを参照するか電話機販売店などにお問い合わせください。
電話機にかけてもFAXに着信する	・ダイヤルイン契約をしている場合は、P71を参照して設定内容を確認してください。 ・ダイヤルイン契約していない場合は、契約することをお勧めします。ダイヤルイン契約に関してはNTTへお問い合わせください。すでに契約している場合、本装置で設定が必要です。設定方法に関してはP71を参照してください。
電話機とFAXを同時に通信できるか	できます。ただし、着信を区別するにはi・ナンバー、またはダイヤルイン契約をお勧めします。ダイヤルイン契約に関してはNTTへお問い合わせください。すでに契約している場合、本装置で設定が必要です。設定方法に関してはP71 を参照してください。
電話機1台だけ接続している時は、本装置の設定は必要ないか	設定することをお勧めします。P71を参照して確認してください。
電話機の発信はできるが、着信できない	P71を参照して着信ポートの設定を確認してください。
特定のFAXへだけ送信できない	相手先がG4FAXの時は、本装置の「ポート接続機器の設定」で端末種別をFAXに設定してください。P90を参照して設定してください。
モデム通信がうまくいかないとき	アナログポートの音量調節「24／AT#A」で送話音量と受話音量を両方とも大きくしてみてください。

ダイヤルしてから発信するまで時間がかかる	初期設定ではダイヤル終了後から5秒後に発信します。ダイヤルの最後に「＃」を押せばすぐに発信します。
パソコンでFAX着信する方法	・RVS-COM（市販ソフト）を利用してパソコンからFAXの送受信が可能です。詳しくはP44、87を参照してください。 ・FAXモデムをアナログポート【緑色】に接続してパソコンからFAXの送受信が可能です。詳しくはP30を参照してください。

アナログポートの設定

Question	Answer
電話機に契約者回線番号、FAXにダイヤルイン追加番号を着信させたい	設定が必要です。設定方法に関してはP71を参照してください。
ANALOG1/2にそれぞれ電話機とモデムを接続、モデムでは着信したくない	電話機の接続されているアナログポートのみで着信するように設定する必要があります。設定方法に関してはP71を参照してください。
ANALOG1【緑色-実線】が通信中の時はANALOG2【緑色-点線】に着信させたい	ANALOG1に優先的に着信させるには設定が必要です。設定に関してはP71、95を参照してください。
設定を行ったが消えてしまった	ATコマンドで設定を行った時は必ず最後に保存してください。保存しないと、本装置の電源が切れた時に設定が消えてしまいます。コマンドは「AT@B」です。
アナログポートからの配線を延長したい。またはどのくらい延長できるか	ターミナルアダプタのアナログポートからの配線を延長する場合の延長可能距離は、接続する通信機器・配線の種類・設置環境などにより変動しますので、配線延長などに関する動作保証はできかねます。また、1つのアナログポートに複数のモジュラージャック（コネクタ）を接続した場合も動作保証はできかねます。

アナログポート（その他）	
Question	**Answer**
2つのアナログポート間で内線通話、外線を内線転送できるか	できます。P40、41を参照してください。
キャッチホンが使えない	・アナログ回線時に申し込んでいたサービス（キャッチホンなど）はISDNに切り替えた場合、すべて申込みし直すことが必要です。 ・フレックスホンのキャッチホン（コールウェイティング）契約をしている場合は、設定が必要です。P77を参照してください。
電話機に雑音が入る	ISDNケーブル・電話用ケーブル・電話機用コードなどはできるだけ短く束ねてください。
コードレス電話機に雑音が入る	コードレス電話機の場合は電話機と本装置の設置場所はなるべく離してください。
パソコンのシリアルケーブルを接続すると電話機に雑音が入るまたは使用できない	本装置とパソコンのアースをとってください。パソコンにアースをとる方法など詳しいことは各パソコンのマニュアルを参照するか販売店等へお問い合わせください。

■付属のCD-ROM関連

CD-ROM	
Question	**Answer**
何に使うものか	インターネットに接続するために必要な設定ファイル（infファイル）、Macintosh用のCCLファイル、USBドライバなどが入っています。詳しくはCD-ROM内のReadmeファイルを参照してください。
通信ソフトウェア（ターミナルソフト、PPP対応通信ソフトなど）が入っていない	各種通信ソフトウェアは添付していません。お客様ご自身で、別途ご用意していただく必要があります。詳しくはP116を参照してください。
ATコマンドを入力するにはCD-ROM内のどれを使うのか	CD-ROM内の簡単設定ユーティリティを利用してATコマンドを入力することができます。簡単設定ユーティリティを利用するにはインストールする必要があります。インストール方法についてはP56～（Win版）、P60（Mac版）を参照してください。

■パソコン通信関連

パソコン通信

Question	Answer
本装置からパソコン通信に接続できない	アナログ回線にしか対応していない番号にダイヤルしても接続できません。その場合、モデムが必要です。P30を参照してください。また、本装置は回線速度が64kbpsまたは128kbpsのみ対応しています。したがって、9600bpsなどの回線速度での接続はできません。詳しくは各パソコン通信の会社へお問い合わせください。
本装置からモデムを使わないでパソコン通信に接続する方法	ISDN対応64kbps（または128kbps）のパソコン通信にしか接続できません。それにはパソコン通信会社と契約が必要です。ISDN回線に切り替えた場合は、契約をし直す必要がある場合があります。詳しくは各パソコン通信の会社へお問い合わせください。
本装置のアナログポート【緑色】に接続したモデムからパソコン通信に接続できない	この場合本装置はモデムにアナログ回線を供給しているだけなので、殆どの場合設定は必要ありません。（端末種別の設定「32r1／AT@Er=1」のみ設定することを推奨）モデムの設定方法、コマンド、接続などに関しては各モデムのマニュアルを参照するか各モデム販売店などにお問い合わせください。
パソコン通信するのに本装置に付属のCD-ROMは必要か	必要ありません。必要になるのは、通信ソフトウェアです。詳しくは各パソコン通信の会社へお問い合わせください。

■RVS-COM関連

RVS-COM

Question	Answer
RVS-COMが添付CD-ROMに入っていない	RVS-COMは市販ソフトです。CD-ROMの中には入っていません。ソフトウェア販売店などでお求めください。詳しくはP44を参照してください。
RVS-COMが使えない	P44、87、88を参照し、設定内容を確認してください。 詳しくはRVS-COMサポートセンタへご相談ください。 メガソフト株式会社 Tel.06-6386-2072　Fax.06-6386-2123

■DTEポート【濃青色】／USBポート【白色】関連

ATコマンド・ターミナルソフトウェア

Question	Answer
ATコマンドが入らない	シリアルポートの指定が間違っているなどの原因が考えられます。パソコンのマニュアルを参照するかパソコン販売店などに確認してください。
ATコマンドの入力方法	ターミナルソフト、または簡単設定ユーティリティから入力します。詳しくはP64～を参照してください。
Windows98/95(ハイパーターミナル)でATコマンドを入力する方法	P66を参照してください。
ATコマンドを入力するとErrorになる	本装置以外の通信機器(モデムなど)を認識している可能性があります。ターミナルソフトで指定しているシリアルポート(COMポート)を確認してください。または入力しているATコマンドを確認してください。
ターミナルソフトウェア(J-Termなど)の使い方	ターミナルソフトで設定する必要がある項目は、P64を参照してください。また、各ターミナルソフトの使い方に関しては各ターミナルソフトのマニュアルを参照するか各ソフトウェアのメーカなどへお問い合わせください。
ターミナルソフトウェアはどんなものを使ったらいいのか	ATコマンドをキーボードから入力できるものを選びましょう。P64を参照。詳しくはパソコンメーカやソフトウェア販売店などへお問い合わせください。
ターミナルソフトからダイヤルしてもつながらない	本装置のDTEポート【濃青色】／USBポート【白色】からアナログしか対応していない番号(177・117など)にダイヤルしても接続できません。ディジタルデータ通信できる機器が接続されている通信先にしか接続できません。P30を参照してください。
「AT」の文字が表示されずに「OK」という表示だけがでる	ターミナルソフト、または簡単設定ユーティリティのATコマンド入力画面から「ATE1」と入力してください。
USBポート【白色】から通信できない	・本装置に添付のCD-ROMからUSBドライバをインストールしてください。P122～(Win版)、P144(Mac版)を参照してください。 ・パソコンのUSBポートが利用できる状態になっているか確認してください。 ・Windows98／MacOS8.6J／8.5J以外のOSでは、本装置のUSBポートは使用できません。

■インターネット関連

Windows98/95/NT4.0	
Question	**Answer**
コントロールパネル／モデム／検出結果／詳細情報で、ATI＊が殆どErrorになっている	本装置はATI0・2・3のみ表示し、あとはすべてErrorで表示される仕様になっています。詳しくは取扱説明書の「ATI」コマンドの欄を参照してください。
NECのパソコンで64kbpsなど高速でインターネットに接続できない	COM1を使用している場合、機種によってCOM1用のドライバを入れ替えることが必要な場合があります。COM2では殆どの場合、問題なく使用できます。これに関しては各パソコン販売店などにお問い合わせください。
「モデムからの応答がありません」というメッセージが出て接続できない	・本装置を接続しているシリアルポート（COMポート）を設定しているかを確認してみましょう。P66～を参照し、ハイパーターミナルで「ATI2」で「MN128mini-V」という表示がでることを確認し、その時のCOMポートをダイヤルアップネットワークでも設定しましょう。設定方法はP122～を参照してください。 ・各プロバイダによって設定が異なる場合があります。契約しているプロバイダへご相談ください。 ・送信バッファと受信バッファのレベルを下げてみましょう。ダイヤルアップネットワークのウインドウで、アイコンを選択／マウス右クリックで「プロパティ」を選択／設定／「接続のタブ／ポート」の設定で送信・受信共に「低」に設定。 ・パソコンのDTE速度を230.4kbpsに指定しているときは115.2kbpsにしてください。 ・DTEポート【濃青色】とUSBポート【白色】に接続したパソコンから同時に通信はできません。他のポートが通信中かどうか確認してください。
USBポート【白色】からインターネットできない	・USBポート【白色】から通信できるOSはWindows98です。OSがWindows95/NT4.0の場合はUSBポート【白色】から通信できません。 ・添付CD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。P122～を参照してください。 ・パソコンのUSBポートが使用できる状態か確認してください。 ・DTEポート【濃青色】とUSBポート【白色】に接続したパソコンから同時に通信はできません。DTEポート【濃青色】に接続したパソコンが通信中かどうか確認してください。 ・P66～を参照し、MN128mini-Vが認識されているか確認してください。 ・上記5項目を確認してもインターネットに接続できないときは、MN128mini-Vとパソコンを再起動してみてください。

Macintosh

Question	Answer
添付CD-ROMのどれをインストールすればいいのか	・リモートアクセスのようにCCLファイルを必要とする場合はCD-ROM内のCCLファイルを使用します。使用方法はReadmeを参照してください。 ・初期化コマンドを入力するタイプのPPP対応通信ソフトウェアで設定するには、CD-ROMを使用しなくても設定できます。お持ちの通信ソフトウェアで初期化コマンドを入力するだけです。初期化コマンドに関しては、P150を参照してください。また、各ソフトウェアの設定方法は各ソフトウェアのマニュアルを参照するか、ソフトウェア販売店などへお問い合わせください。 ・USBポートを利用する場合は添付CD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。P144を参照してください。
「FreePPP」などの通信ソフトウェアはどこに入っているか	通信ソフトウェアは添付されておりません。パソコンにインストールされていない場合は、別途用意する必要があります。雑誌などの付録や商用ネットからフリーソフトを入手するか、ソフトウェア販売店などで購入する必要があります。
CCLファイルはインターネットに必要ですか	・リモートアクセスのようにCCLファイルを必要とする場合はCD-ROM内のCCLファイルを使用します。使用方法はP145～を参照してください。 ・初期化コマンドを入力するタイプのPPP対応通信ソフトウェアで設定するときは必要ありません。 ・CCLファイルはMacintosh間を接続するApple Remote Accessを利用する場合に必要になります。
通信フロー制御を「RTS／CTS」にすると接続後に通信切断される	本装置のフロー制御の初期設定は「なし」です。フロー制御はMN128mini-V側と通信ソフトウェア側で設定を合わせる必要があるので、通信ソフトウェア側の設定を「RTS／CTS」にした場合、本装置側の設定も「RTS／CTS」に変更してください。
USBポート【白色】からインターネットできない	・USBポートから通信できるのはMacOS8.5J以上です。 ・添付CD-ROMからUSBドライバをインストールする必要があります。P144を参照してください。 ・パソコンのUSBポートが使用できる状態か確認してください。 ・DTEポート【濃青色】とUSBポート【白色】に接続したパソコンから同時に通信はできません。DTEポート【濃青色】に接続したパソコンが通信中かどうか確認してください。

インターネットその他

Question	Answer
「64000bpsで接続しました」と表示がでたが、インターネットの画面が表示されない	「Netscape」や「InternetExplorer」などのWWWブラウザを起動してください。お持ちでない場合は雑誌の付録や商用のネットなどから入手するか、市販ソフトウェアを購入する必要があります。詳しくはソフトウェアの販売店などへお問い合わせください。
URLを入力してもErrorが表示されてインターネット画面が閲覧できない	ドメイン ネーム サーバ(DNS)のアドレスを指定してください。また、確認してください。詳しくはご契約の各プロバイダへお問い合わせください。
インターネットからのデータ転送速度が遅い	転送速度は、接続する時間帯、接続先のプロバイダのサーバの処理速度などによって変動します。本装置では、設定した回線速度で接続することだけ行い、接続後に転送する速度に関しては本装置での設定はありません。
増設の高速シリアルボードが使えるのか 、または使えない	技術的には可能ですが、弊社で技術検証はしておりませんので、動作保証はできません。それに関する設定方法などに関しては、各ボードのメーカなどへお問い合わせください。
128kbpsでインターネットに接続できない	128kbpsで接続可能なインターネットのプロバイダと契約することが必要です。これに関しては各プロバイダへお問い合わせください。
	Windowsの場合MN128mini_Series(128kMP)を選択しているか、Macintoshの場合は128kMP用の初期化コマンドを入力しているか、またはCCLを選択しているかを確認してください。
	パソコンのDTE速度が230.4kbpsに設定しているときは115.2kbpsに設定を変更してください。また、115.2kbpsが出ないパソコンをご利用の場合は、128kbpsでインターネット接続の動作保証はできません。

インターネットその他

Question	Answer
10回に1回くらいしか接続できない	接続先のプロバイダの回線がすべて使用中の時は接続できません。
	Windows98/95の場合、送信バッファと受信バッファのレベルを下げてみましょう。ダイヤルアップネットワークのウインドウで、アイコンを選択／マウス右クリックで「プロパティ」を選択／設定／「接続」のタブ／ポートの設定で送信・受信共に「低」に設定。
DTE速度が57.6kbpsの場合、64kbpsのインターネット接続はできますか	スループットが若干落ちますが、殆どの場合接続できます。
NO CARRIERで回線切断される	接続先の電話番号がディジタルデータ通信対応の番号か、確認してください。アナログのみ対応している番号には接続できません。詳しくは各プロバイダへお問い合わせください。
	回線切断時の応答コード3にして切断理由を参照してください。P198を参照してください。応答コード3にするには、初期化コマンドに「x3」を追記してください。Windows98/95の場合はP137、WindowsNT4.0の場合はP142を参照してください。

資料

応答コードと本装置の仕様をまとめました。

■応答コード一覧

ATコマンドをパソコンから本装置に送ったときに、本装置はこのコマンドに対する処理結果をパソコンに対して送り返します。この処理結果を応答コードといいます。応答コード表示内容は下記の4つのパターンから X0～X3）選択します。応答コードの選択方法は、各通信ソフトウェアの初期化コマンドまたは、追加コマンド欄に追記してください。例えば応答コードを「X3」にするときは、「x3」を追記します。Windows98/95での追記に関してはP137、WindowsNT4.0ではP142、Macintosh（FreePPP）での初期化コマンドの入力方法はP148～を参照してください。

数字形式	単語形式	X0	X1	X2	X3	表示内容
0	OK	○	○	○	○	ATコマンド正常実行
1	CONNECT	○				回線を接続した
2	RING	○	○	○	○	着信した
3	NO CARRIER	○	○	○		回線が接続できなかった
4	ERROR	○	○	○	○	ATコマンドエラー
7	BUSY			○		相手先が通信中
8	NO ANSWER			○		相手先からの応答なし
12	CONNECT 9600		○	○	○	9600bpsで接続した
14	CONNECT 19200		○	○	○	19200bpsで接続した
18	CONNECT 57600		○	○	○	57600bpsで接続した
19	CONNECT 115200		○	○	○	115200bpsで接続した
28	CONNECT 38400		○	○	○	38400bpsで接続した
31	DELAYED		○	○	○	再接続規制のため発信できない
34	CONNECT 64000		○	○	○	64000bpsで接続した
35	CONNECT 128000		○	○	○	128000bpsで接続した
201	LINE OFF 001				○	INS網からの切断理由（P186）
:	:				:	:
327	LINE OFF 127				○	INS網からの切断理由（P186）
329	LINE OFF LAYER1				○	レイヤ1エラー
330	LINE OFF LAYER2				○	レイヤ2エラー
331	LINE OFF ATD STOP				○	回線接続中にキーが押された
333	LINE OFF ATD TIME OUT				○	指定時間内に接続できなかった
339	LINE OFF DTR OFF				○	DTR OFFにより切断
340	LINE OFF COMM TIME OUT				○	指定時間通信が行われなかった
341	LINE OFF DTECT BREAK				○	ブレーク信号検出により切断

■応答コード3での切断理由

ISDN回線では、回線切断された場合に回線切断理由が網から通知されます。ただし、下記表内の切断理由表示コードは、応答コード3にした時に表示されます。
各通信ソフトウェアの初期化コマンドまたは、追加コマンド欄に、「x3」を追記してください。Windows98/95での追記に関しては、P137 、WindowsNT4.0ではP142を参照してください。

番号	切断理由
1	欠番
2	指定中継網へのルートなし
3	相手へのルートなし
6	チャネル利用不可
7	呼が設定済みのチャネルへの着呼
16	正常切断
17	着ユーザービジー
18	着ユーザーレスポンスなし
19	着ユーザ呼出中／レスポンスなし
21	通信拒否
22	相手加入者番号変更
26	選択されなかったユーザーの切断復旧
27	相手端末故障中
28	無効番号フォーマット
29	ファシリティ拒否
30	状態問合わせへの応答
31	その他の正常クラス
34	利用可回線／チャネルなし
38	網障害
41	一時的障害
42	交換機輻輳
43	アクセス情報破棄
44	要求回線／チャネル利用不可
47	その他のリソース使用不可クラス
49	QOS利用不可
50	要求ファシリティ未契約
57	伝達能力不許可
58	現在利用不可伝達能力
63	その他のサービスまたはオプションのクラス利用不可
65	未提供伝達能力
66	未提供チャネル種別指定
69	未提供ファシリティ要求
70	制限ディジタル情報伝達能力
79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス
81	無効呼番号使用

番号	切断理由
82	無効チャネル番号使用
83	指定された中断呼識別番号未使用
84	中断呼識別番号使用中
85	中断呼なし
86	指定中断呼切断復旧済
87	CUGのメンバでないユーザー
88	端末属性不一致
91	無効中断網選択
95	その他の無効メッセージクラス
96	必須情報要素不足
97	メッセージ種別未定義または未提供
98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義
99	情報要素未定義
100	無効情報要素内容
101	呼状態とメッセージ不一致
102	タイマ満了による回復
111	その他の手順誤りクラス
127	その他のインタワーキングクラス

資料

■ハードウェア仕様

■ISDNインタフェース		適用回線	INSネット64(2B+D)
		適用サービス	Bチャネル回線交換
		インタフェース形態	P-MP呼毎　または　P-MP常時
		Bch通信速度(回線交換)	64／128(kbps)
		終端抵抗	内蔵、スイッチによって切替可能
	U点部	ポート数	1　(スイッチでDSU切り離し可能)
		コネクタ形状	6ピンモジュラージャック(RJ11)
		伝送方式	2線式時分割方式　JT-G.961準拠
		極性	スイッチによって反転可能
		DSU折り返し機能	あり
	S/T点部	コネクタ数	1　(バス接続用)
		コネクタ形状	8ピンモジュラージャック(RJ45)
		伝送方式	4線　AMI符号　ITU-T　I.430準拠
		給電	あり　(DSU使用時)
■DTEインタフェース部		ポート数	1
		機械的仕様	D-Sub9コネクタ (付属の専用シリアルケーブル使用)
		電気的仕様	RS-232C準拠
		接続制御手順	Hayes互換ATコマンド
		シリアル通信速度	9.6／19.2／38.4／57.6／115.2(kbps)
■USBインタフェース部		ポートタイプ	Btypeアップストリームポート
		通信速度	12Mbps
■アナログインタフェース部		ポート数	2
		コネクタ形状	6ピンモジュラージャック(RJ11)
		電気的仕様	2線式アナログインタフェース
		給電電圧	-48±4V(無負荷時)
		発信手順	押しボタンダイヤル(PB)
		ブランチ接続	動作保証外
■AUDIOインタフェース部		電気的仕様	フォンジャック(ϕ3.5)
■ユーザインタフェース部		状態表示LED	6個(POWER、D、B1、B2、ANALOG1、ANALOG2)
		スイッチ	終端抵抗切り換えスイッチ(S/T TERM ON/OFF) DSUスイッチ(DSU ON/OFF) U点極性反転スイッチ(REV/NOR) リセットスイッチ
■その他		使用電源	DC12V±5%
		消費電力	10W以下
		環境条件	温度10～35℃、湿度20～70%(但し結露しないこと)
		外形寸法	50(W)×90(D)×132(H)　mm (縦置スタンド、突起部分を除く)
		重量	約270g
		電波障害防止	VCCI-A

■主要機能

■TA機能
ボイス機能
USBポート搭載 （動作確認OS: Windows98（日本語版）／MacOS8.6J／8.5J）
Hayes互換ATコマンド対応
全自動非同期同期PPP相互変換
128kbps MP通信
アナログ優先機能（リソースBOD）
スループットBOD機能

■アナログポート機能
ボイス機能
RVS-COM対応
音量調節
-48V供給
内線通話
呼び出しベル音切替
ダイヤルイン
i・ナンバー対応
INSマジックボックス対応
INSボイスワープ対応
INSナンバー・ディスプレイ対応
INSナンバー・リクエスト
フレックスホン フル対応
迷惑電話おことわりサービス
擬似キャッチホン
擬似なりわけサービス（発信電話番号識別機能）
疑似ナンバー・リクエスト
電話機を用いたアナログポートの設定と確認

■その他
DSUを内蔵（切り離し可）
そくピタ！カラー配線
外部S/T点インタフェース
終端抵抗のオン／オフ
U点リバーススイッチ
リセットスイッチ
ファームウェアバージョンアップ

MN128mini-V

お問い合わせシート

サポートセンター
TEL.0120-128072
FAX.0120-128172

MN128mini-Vの設定内容を記入して保存しておきましょう。
また、技術サポートセンターに問い合わせするときには、このシートに記入してFAXで送付してください。

お客様氏名			購入日 平成 年 月 日
ご連絡先	TEL （ ）	携帯電話 （ ）	FAX （ ）
ご住所	〒		
パソコン	機種名（ ）		OS（ ）
接続しているポート（ DTE ／ USB ）	ファームウェアバージョン Ver.（ ）		

アナログポートの設定内容

ダイヤルイン契約	【あり ／ なし】	i・ナンバー契約	【あり ／ なし】

電話番号		着信するポート
契約者回線番号	（ ）	【 両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他（ ）】
追加番号	（ ）	【 両ポート / ANALOG1 / ANALOG2 / 着信しない / その他（ ）】

ポート	接続する機器
ANALOG1	【 電話機 / FAX電話機、またはモデム / FAX / ナンバーディプレイ電話機 / その他（ ）】
ANALOG2	【 電話機 / FAX電話機、またはモデム / FAX / ナンバーディプレイ電話機 / その他（ ）】

INSボイスワープ	利用する ／ 利用しない	
↓ カスタマコントロール機能を利用する番号	【 契約者回線番号 ／ 追加番号 】	
フレックスホン	キャッチホンを利用する ／ 利用しない	その他のサービス（ ）
↓ 話中着信するポート	【 ANALOG1 ／ ANALOG2 】	
擬似キャッチホン	利用する ／ 利用しない	
↓ 話中着信するポート	【 ANALOG1 ／ ANALOG2 】	

質問内容

MN128mini-V 取扱説明書

発行日　平成11年11月1日
版数　第5版
発行　株式会社 エヌ・ティ・ティ エムイー

株式会社 エヌ・ティ・ティ エムイー

〒100-0004　東京都千代田区大手町2丁目2番2号
http://www.ntt-me.co.jp

■技術サポートセンター　TEL.0120-128072　FAX.0120-128172
■インフォメーションセンター　TEL.0120-128064　FAX.0120-128194